

平成26年度  
男女共同参画に関する市民意識調査  
報 告 書

平成27年3月  
佐 賀 市



|                              |    |
|------------------------------|----|
| 【総括】                         | 1  |
| I 調査の概要                      | 7  |
| II 調査結果の概要と課題                | 9  |
| 1 結婚や家庭生活について                | 9  |
| 2 教育・子育て・介護について              | 11 |
| 3 職業生活について                   | 13 |
| 4 健康・福祉について                  | 16 |
| 5 地域活動について                   | 17 |
| 6 人権について                     | 18 |
| 7 男女平等・男女共同参画社会について          | 21 |
| III 調査結果                     | 23 |
| 1 結婚や家庭生活について                | 23 |
| (1)結婚観、家庭観                   | 23 |
| (2)家庭生活での役割分担                | 29 |
| (3)家事にかかる時間                  | 31 |
| (4)「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の関わり方 | 35 |
| 2 教育・子育て・介護について              | 39 |
| (1)子どもの育て方                   | 39 |
| (2)少子化の原因                    | 49 |
| (3)男女の協力関係を築くために必要な学校での教育    | 50 |
| (4)男性の「育児休業」「介護休業」取得に関する考え   | 51 |
| (5)介護をするために転職、離職する人が増加する原因   | 52 |
| 3 職業生活について                   | 53 |
| (1)【女性が職業を持つこと】に対する考え        | 53 |
| (2)女性が仕事を継続する上での障害           | 55 |
| (3)女性の再就業に必要なこと              | 56 |
| (4)職業の有無とその理由                | 57 |
| (5)週の就労時間と就労日数               | 62 |
| (6)就労形態等                     | 66 |

# 目 次

|                                                     |     |
|-----------------------------------------------------|-----|
| 4 健康・福祉について .....                                   | 74  |
| (1) 妊娠、出産、性に対する考え .....                             | 74  |
| (2) 望ましい介護者 .....                                   | 77  |
| 5 地域活動について .....                                    | 79  |
| (1) 地域活動をする場合の障害 .....                              | 79  |
| (2) 防災・災害復興時において、<br>男女共同参画に根ざした対応をとるために必要なこと ..... | 80  |
| 6 人権について .....                                      | 81  |
| (1) メディアにおける性や暴力の表現に対する考え .....                     | 81  |
| (2) ドメスティック・バイオレンスの実態と対応 .....                      | 82  |
| (3) セクシュアル・ハラスメントの実態と対応 .....                       | 87  |
| (4) 女性に対する暴力への対策 .....                              | 89  |
| 7 男女平等・男女共同参画社会について .....                           | 90  |
| (1) 男女共同参画についての学習経験 .....                           | 90  |
| (2) 男女共同参画関連用語の認知 .....                             | 91  |
| (3) 男女平等に関する意識 .....                                | 93  |
| 8 自由意見 .....                                        | 103 |
| IV 調査票 .....                                        | 109 |

## 総括



# 【総括】男女共同参画に関する佐賀市民意識調査について

佐賀大学文化教育学部 吉岡 剛彦

## 1 何のための市民意識調査か

佐賀市の『男女共同参画に関する市民意識調査』は、5年ごとに実施されており、前回は平成21年度に行われた。前回調査は、平成22年度までを実施期間としていた「第一次佐賀市男女共同参画計画」の進捗度を測定するとともに、同年度に佐賀市男女共同参画審議会において行われた「第二次計画」の策定作業のなかで次期の課題と目標を見定めるための参考資料として用いられた。今回(26年度)の調査についても、同じように「第二次計画」の達成状況を確認するとともに、来年度(27年度)に予定されている「第三次計画」策定のための基礎資料とすることが見込まれているものである。いずれにしても、佐賀市において「男女共同参画(社会)」の実現がどれくらい進んでいるのか(あるいは進んでいないのか)を探るための、重要な手がかりになるものである。

この市民意識調査では、毎回ほぼ同じ質問内容のアンケートを継続することにより、時間の経過に伴う結果の変動(経年変化)を「定点観測」することが可能になっている。ただし、今回については、なるべくアンケートの分量を減らして回答に必要な時間を少なくすることで回答協力者(回収率)を増やそうという意図から、質問項目や選択肢を精選・減量した部分もある。

また、質問の意図をより分かりやすくしたり、市民の考え方を明確につかむために質問文や選択肢の文言を加筆修正した箇所もある。

これまでの市民意識調査では、20歳代以上の市民を対象としていたが、今回からはじめて16歳から19歳までの10歳代の市民にも質問票を送付し、回答を得ている。しかも、この10歳代の回答において、男女共同参画推進の観点から、先進的で、将来に希望を抱かせる結果が出ているのも今回調査の大きな特徴である。

## 2 調査結果を読む—性別役割分担(「夫が外で働き、妻が家を守るべき」)意識を中心に—

続いて、特に注目されるいくつかの質問項目を取りあげて読み解いてみたい。

はじめに、回答者の属性については、回答者全体の65.9%が結婚(事実婚を含む)をしており、更にそのうちの約6割(59.1%)が「共働き」世帯となっている。また家族構成を見てみると、回答者全体のおよそ半数(48.7%)が親子の二世帯家族であり、以下、夫婦のみ(20.6%)、親・子・孫の三世帯家族(12.4%)、単身(6.6%)と続く。

質問項目のうち、何よりも目を向けておきたいのは、やはり問1-B(「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」だと思う)への賛否を問うた項目である。これはつまり、性別役割分担意識の有無について尋ねたものであり、単純に考えれば、これに「反対」と答えた人が性別役割分担意識から脱却していると考えられるのに対して、「賛成」の人は今なお性別役割分担意識を保持している、と見ることができる。

実際の集計結果によると、この「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という性別役割分担に対する「反対層」(反対+どちらかといえば反対)が55.3%と過半数を占めた。「賛成層」(賛成+どちらかといえば賛成)は30.6%であった。20歳以上では「反対層」が54.1%(女性56.9%/男性50.0%)となった。前々回(平成16年度)調査でも「反対層」のほうがわずかに過半数を上回っていた(50.7%)が、前回(21年度)調査では、むしろ逆に46.2%(女性53.3%/男性36.8%)に落ち込んで、「揺り戻し」の傾向も心配されていた。そのため、今回再び、過半数を超えたことは、ひとまずは好ましい結果だったといえる。

しかしながら、性別役割分担(意識)への「反対層」が過半数に達したからといって、決して安心できる状況ではないことも、今回の調査からは見えてくる。

問3-Aでは〈1日に平均してどれくらいの時間を家事(育児・介護を含む)にかけていますか〉という家事従事時間を〈平日〉について尋ねている。これを前述の性別役割分担(意識)に対する賛否と掛けあわせてクロス集計したものが、次の参考表①である。

【参考表①】性別役割分担(意識)に対する「反対層」「賛成層」それぞれの平日の家事従事時間

| 家事従事時間 |     | 単位: % |       |       |       |       |       |
|--------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        |     | 0分    | 30分未満 | 1時間未満 | 2時間未満 | 3時間未満 | 3時間以上 |
| 女性     | 賛成層 | 5.0   | 6.4   | 11.4  | 14.3  | 19.3  | 40.0  |
|        | 反対層 | 7.6   | 14.6  | 8.3   | 17.0  | 20.5  | 30.6  |
| 男性     | 賛成層 | 27.6  | 22.0  | 26.8  | 8.9   | 5.7   | 4.9   |
|        | 反対層 | 23.4  | 29.9  | 26.6  | 8.7   | 4.3   | 4.9   |

この参考表①を見ると、女性と男性のいずれとも、性別役割分担(意識)への「反対」が、現実の家事従事時間には、全く反映していないことが一目瞭然である。意識のうえでは性別役割分担に「反対」していても、実際には50%以上の女性が2時間以上の家事を行い、実に8割(79.9%)の男性は(あえて繰り返せば性別役割分担に「反対」しているにも関わらず!)わずか1時間も家事をやっていない。しかも、この性別役割分担への「反対層」の家事従事時間は、「賛成層」とほとんど違いがない。性別役割分担に「反対」していても、それが具体的な行動には結びついていない現状が浮かび上がってくる。頭では分かっているが、実際に体は動いていない……とも表現できるかもしれない。

この問3-Aの〈平日の家事従事時間〉については、共働きか、片働き(その多くは、いわゆる「専業主婦」家庭)かに基づいた比較についても見ておくことにする。次の参考表②である。

【参考表②】「片働き(≡専業主婦)家庭」と「共働き家庭」それぞれの平日の家事従事時間

| 家事従事時間 |     | 単位: % |       |       |       |       |       |
|--------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        |     | 0分    | 30分未満 | 1時間未満 | 2時間未満 | 3時間未満 | 3時間以上 |
| 女性     | 共働き | 2.6   | 0.5   | 5.2   | 21.5  | 27.7  | 41.9  |
|        | 片働き | 0.0   | 1.7   | 5.9   | 10.2  | 22.0  | 55.1  |
| 男性     | 共働き | 21.0  | 28.0  | 32.2  | 11.9  | 2.8   | 2.8   |
|        | 片働き | 22.4  | 27.1  | 23.4  | 6.5   | 6.5   | 9.3   |

この参考表②を見ると、職業をもつ女性が、外で働きながら、家事や育児など「家のこと」も全面的に賄わなければならない「二重負担」の状態にあることが分かる。共働きでありながら、女性(妻)の約7割(69.9%)は2時間以上の家事をこなしており、男性(夫)の約8割(81.2%)が(妻も働いているにも関わらず!)わずか1時間も家事をやっていない。ここでも、性別役割分担(意識)への「反対」が、単に頭の中だけで考えられているに留まり、実際の行動を伴っていない現実がうかがい知れる。

半数以上の人びとが「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という性別役割分担に反対しているのに、なぜ、男性は実際には家事や育児に携わらないのか。また、そうした状況を、女性はどうのように感じているのか。このことを探るために、問25〈自治会などの地域活動をする場合に、障害になるようなことがありますか。特に障害になると思われるものを選んでください(3つまで)〉の回答結果と、問3-Aの〈平日の家事従事時間〉を掛け合わせて考えてみる。すると、地域活動の障害として〈仕事が忙しすぎる〉を選んだ男性のうち、およそ8割が、家事従事時間が1時間に届かない(0分:24.9%、30分未満:30.5%、1時間未満24.9%の合計80.3%)。また、疎外要因として〈精神的にゆとりがない〉を挙げた男性の約8割(78.2%)、〈人づきあいがわずらわしい〉を挙げた男性の同じく8割(80.4%)も、やはり家事時間は1時間に満たないという結果が出た。ここからは、〈仕事が忙しすぎる〉ゆえに、家事を分担することもできず、〈精神的にゆとりがない〉状態で、職場の人間関係だけでもうんざりだというのに、そのうえ近所の人たちと付き合うなんて〈わずらわしい〉と考える男性が多いのではないかと予測される。

だが、職場の仕事が忙しいということならば仕方がない、と男性を“免罪”するわけにもいかない。続いて同じ質問項目について女性に目を転じてみると、地域活動の阻害要因として〈家事が手いっぱい自由時間がない〉と答えた女性の8割弱(77.2%)が家事を2時間以上行っている。〈仕事が忙しすぎる〉と答えた女性の44.9%が同じく家事を2時間以上こなしているという回答からは、多くの女性が職場と家庭の「二重負担」にあえいでいる実態もうかがわれる。〈精神的にゆとりがない〉を挙げた女性の58.0%、そして〈家族の理解や協力が得られない〉を挙げた女性の実に78.9%までが、やはり家事に2時間以上費やしている。家事に多くの時間を取られている女性たちが、精神のゆとりをなくし、〈家族の理解や協力が得られない〉と、家族に対する不満を募らせている現状を見逃すことはできない。

更に、性別役割分担への「反対」が半数を超えた結果の内実を掘り下げてみる。次に見るのは、問11〈「女性が職業に就くこと」について、どう思われますか〉で、以下の4つの選択肢から答えてもらうものである。すなわち、〈女性は職業に就かないで、家事に専念するほうがよい(家事専念型)〉、〈結婚や妊娠・出産するまでは、職業に就いているほうがよい(結婚・出産退職型)〉、〈出産・育児期間は一時退職し、子どもが成長したら再び職業に就くほうがよい(再就職型)〉、〈結婚や出産・育児にかかわらず、ずっと仕事を続けるほうがよい(職業継続型)〉の4つである。性別役割分担に対する賛否と、この問11とを掛け合わせたのが、次の参考表③になる。

【参考表③】性別役割分担(意識)に対する「反対層」「賛成層」と、女性の就業に対する考え方

単位: %

| 女性の就業のありかた |     | 家事専念型 | 結婚・出産<br>退職型 | 再就職型 | 職業継続型 |
|------------|-----|-------|--------------|------|-------|
| 女性         | 賛成層 | 7.9   | 22.1         | 44.3 | 11.4  |
|            | 反対層 | 0.0   | 8.3          | 46.2 | 35.4  |
| 男性         | 賛成層 | 11.4  | 17.9         | 45.5 | 10.6  |
|            | 反対層 | 1.1   | 10.3         | 40.8 | 34.8  |

性別役割分担に「反対」する立場—つまり「職場も、家庭も、男女がともに」という立場—からは、夫婦(カップル)の間に子どもが生まれた場合にも、夫と妻の双方が一ふたりで出産休暇・育児休暇・短縮勤務などをうまく利用しながら一緒に子育てを行うことが基本であるから、必然的に、女性(妻)も自らの職業を継続しながら育児に当たるという結論(＝職業継続型)が導かれる。この点で、職業継続型の回答比率において、性別役割分担に対する反対層と賛成層の間で、顕著な差が出たのは当然だといえる。

しかし、この参考表③で問題なのは、性別役割分担への賛成層のみならず、反対層においても、もっとも回答数が多かったのは、女性は出産してから子どもが成長するまで一旦職業を辞めて、子どもの成長後に再就職すべきだと考える「再就職型」であったことである。先述した「頭では分かっているが、体がついていかない」実態と考え合わせると、問1-Bのように「夫は外で働き、妻は家を守るべき」に賛成か反対かと尋ねられると、一応「反対」という回答を答えられるものの、「女性の就業スタイルはどのようにあるべきか」という形で間接的に訊かれると、「やっぱり子育ては女性の役割だから、女性は少なくとも子どもが幼いうちは育児に専念すべきだ」という潜在的な性別役割分担意識の“地金”(ホンネ)が顔を出すのではないか……という疑念を抱かざるをえない。出産を機に女性が一時的にせよ退職することは、女性が家事や育児を全面的に背負わされる事態につながりやすいとともに、せっかく女性が積み上げてきた職場での職歴(キャリア)を途絶させることになる。

結婚や出産の後も女性が職場を離れずに仕事を続けること、そのためにも、男性が「育児休業」など取って「家庭の仕事」を分担することが望まれるが、これを妨げる諸要因についても、今回の『市民意識調査』から浮かび上がってくる。問12〈女性が仕事を続けていくうえで、障害になっていることは何だと思いますか(複数回答可能)〉の質問に対して、〈家事・育児・介護のための社会システムや施設等が不十分である〉57.4%、〈結婚や妊娠・出産すると、仕事が続けにくい雰囲気職場にある〉56.4%、〈家事・育児・介護への家族の協力が不十分である〉41.5%の3つが、大きな障害として上げられた。安心して子どもを預けられる安価な保育園など制度的な手当でも足りず、職場によっては、いまだに「寿退社」を当然視したり、マタニティ・ハラスメント(妊娠・出産した女性労働者に対する精神的・身体的な人権侵害行為)を加えたりするところがあり、夫をはじめ家族からの理解や協力も得られない……まさに「三重苦」の様相である。『市民意識調査』でも、就労・雇用に関する自由回答のなかで、30歳代の女性が〈男女とも職場で子どもの行事や病気では休みにくいです。有給休暇制度もありますが、取りにくいです。パートの面接に行った際に言われた一言が、「どうせ子どもができましたって辞めたりするんじゃない。困るんだよね。ただでさえ子どもが小さいから病気ですぐ休むパートさん多いから」と面接の具体的なことを話す前に言われ、断られました〉と記している。

他面で、男性のほうには、家庭を顧みるつもりが無いのかということ、そういうわけでもない。問4〈仕事と

生活について何を優先したいですか」という質問では、〈仕事〉〈家庭生活〉〈地域・個人の生活〉とその組合せから、その人が優先したいものを尋ねている。これに対する20歳代以上の男性の回答を見ると、特に〈家庭生活〉のみを大切にしたいという人が34.6%を占め、ほかの要素とともに〈家庭生活〉も大切にしたいという人も25.3%いた。そうであるにも関わらず、続く問5〈現実には何を優先していますか〉を見ると、20歳代以上の男性の42.5%（30歳代から50歳代の男性では50.9%から56.0%まで）が、現実には〈仕事〉のみを優先していると答えている。〈家庭生活〉に関心はあるのに現実には〈仕事〉優先になってしまう。その理由の一端は、問9〈男性が育児休業や介護休業をとることについてどう思いますか〉から推測される。この問いに対して、〈職場環境を考えるととりにくい〉60.8%と、〈収入が減ったり、無くなると困るのでとれない〉42.6%が上位2つを占めた。事業主に対して、仕事と家庭生活等との両立支援、働きやすい職場づくりが求められている。

もう一度、問1-B〈「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」だと思う〉への賛否を問うた項目を見てみる。すると、今回はじめて質問票を送った10歳代（16～19歳）の回答は、20歳代以上とくらべて、はっきりと違っている。10歳代では、「夫が職場、妻は家庭」の性別役割分担に対する「反対層」が、男女ともに4分の3前後に達している（女性73.7%／男性75.0%）。この質問に限らず、10歳代の市民において、男女共同参画—女性と男性とが社会生活と家庭生活の双方で協力し合うことで、個々人が〈その人らしく〉暮らせる多様性のある社会—に関する意識が進んでいることが、今回の調査から分かる。10歳代において、個々人の多様で自由な生き方を尊重する傾向の高いことが見てとれる。

### 3 理解は進んだが、行動が伴わない

---

全体を総括して述べれば、男女共同参画の理念とそれを進めるための対策についても人びとの意識や理解は高まってきた。例えば、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべき』という固定的性別役割分担意識にとらわれてはいけないということが大切だと分かっているのに、如何せん、実際の行動は伴っていない。男性も（女性と対等に）家事・育児を担っていく、そのために企業も考え方を改めて、社員が残業せずに定時に帰宅できたり、育児休業や短縮勤務を取りやすくしたり……といった、具体的な実践にはまだまだ結びついていない。これが、偽らざる現在の佐賀市の（のみならず日本社会全体の）実状だろうと思われる。

性別だけで役割を限定してはいけないと分かっているのに、子育ても食事づくりも洗濯も女性（妻）に任せっきりの現状を変えられない。「仕事人間」が人事評価でもてはやされるような会社では 21 世紀は乗り切れないと分かっているのに、相変わらず残業続きで、結婚や出産をきっかけに女性社員が辞めていく状況を止められない。

この状況をどのように打開していくべきか、すぐには妙案も思い浮かばない。しかしながら、少なくとも現状の佐賀市の男女共同参画（推進）が置かれているのは、このように「理解は進んだが、行動が伴わない」状態であるという現状認識を携えて、行政や企業、そして学校やマスコミ、更には市民一人ひとりが、各自の着手できる部分から少しずつ制度改善や意識変革に取り組んでいく必要があることは間違いないといえよう。



## I 調査の概要



## 1 調査の目的

男女共同参画社会づくりに関する市民の意識と実態を把握し、平成 23 年度に策定した「第二次佐賀市男女共同参画計画 パートナースhip 21」の改定に向けた基礎資料とするとともに、今後の取り組みの参考とする。

## 2 調査対象

- (1)母集団 佐賀市内に居住する 16 歳以上の男女
- (2)標本数 2,300 人
- (3)抽出方法 等間隔無作為抽出法

## 3 調査時期

平成 26 年 7 月 7 日(月)～平成 26 年 7 月 18 日(金)  
※督促状を1回発送

## 4 調査の方法

郵送による配布、回収

## 5 回収結果

有効回収票…860 票  
有効回答率…37.4%(860 票/2,300 票)

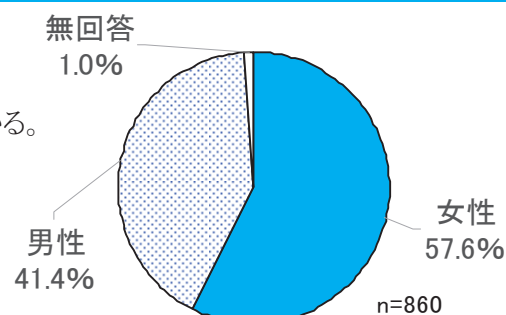
## 6 報告書の見方

- ・ 文章や表、グラフ中の回答割合(相対度数)は百分比のポイント以下 2 位を四捨五入しているので、合計は必ずしも 100%にならないことがある。
- ・ 2 つ以上の回答を求めた(複数回答)質問の場合、その回答割合の合計は 100%を超える。
- ・ 数表に記載された「n」は、回答割合算出上の基数(回答数)である。
- ・ 前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問の回答割合は、層化された回答者を基数として算出した。
- ・ 文中では選択肢(変数)を「 」で示した。選択肢の文章が長い場合は、一部省略したところがある。また、2 つ以上の選択肢を合計して表す場合には『 』で示した。
- ・ 報告書中、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせたものを「賛成層」、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせたものを「反対層」とした。
- ・ 比較分析において利用した調査名は次のとおりである。
  - 国の調査－平成 24 年 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」
  - 県の調査－平成 21 年 佐賀県「男女共同参画社会づくりのための県民意識調査」
  - 前回調査－平成 21 年 佐賀市「男女共同参画社会づくりのための市民意識調査」
  - 前々回調査－平成 16 年 佐賀市「男女共同参画社会づくりのための市民意識調査」

## 7 回答者の属性

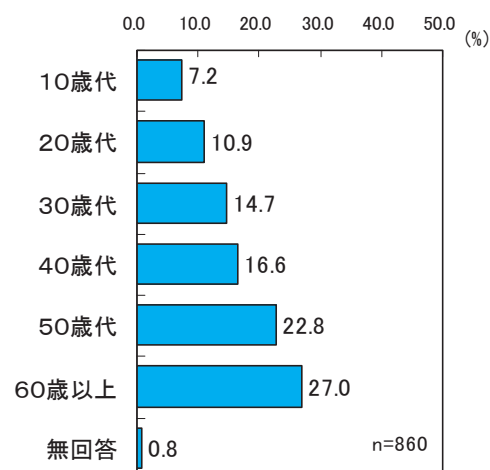
### (1) 性別

女性(57.6%)が男性(41.4%)を16.2ポイント上回っている。



### (2) 年代

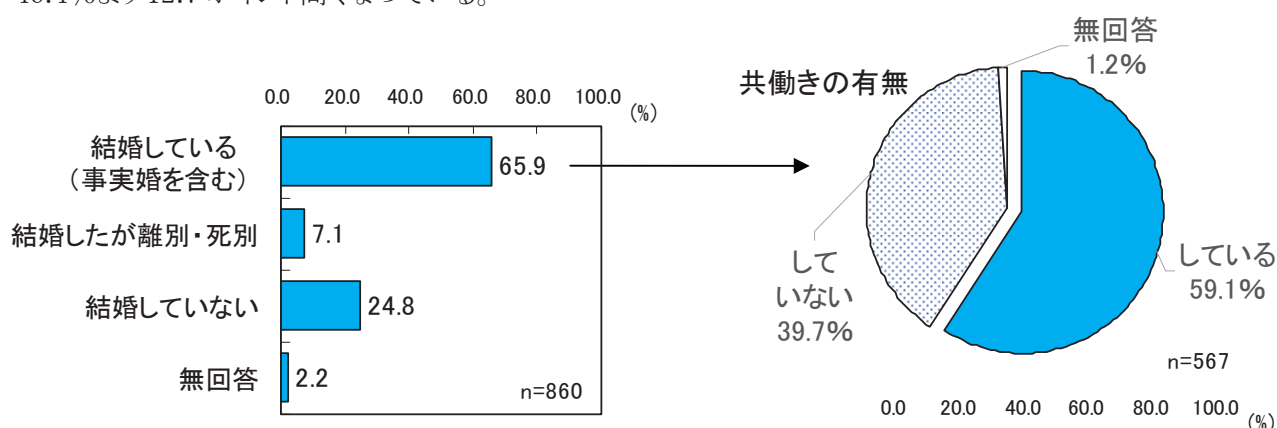
年代別の構成比は、10歳代(16歳～19歳)が7.2%、20歳代10.9%、30歳代14.7%、40歳代16.6%、50歳代22.8%、60歳以上27.0%。



### (3) 既婚・未婚の別と共働きの有無

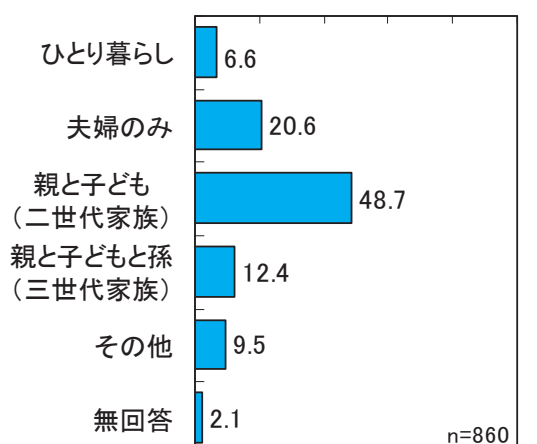
「結婚している」が65.9%となった。性別でみると、女性の63.4%、男性の70.8%が「結婚している」となっている。

結婚している人の共働きの有無では、59.1%が「している」となっており、前回調査の共働きの割合46.4%より12.7ポイント高くなっている。



### (4) 家族構成

「親と子どもの二世世代家族」が48.7%で最も多く、次いで「夫婦のみ」が20.6%、「親と子どもと孫の三世世代家族」が12.4%、「ひとり暮らし」が6.6%となっている。



## Ⅱ 調査結果の概要と課題



## 1 結婚や家庭生活について

### (1)結婚観、家庭観

#### ～「結婚は個人の自由である」に61.1%が賛成～

「結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい」の賛成層は 61.1%を占め、男性(49.4%)よりも女性(69.5%)の割合が高い(20 歳以上)。女性は若年層ほど高くなり、20 歳代で 86.9%に達するが、男性では最も高い 20 歳代でも 69.7%であり、女性と比べると低い数値である。

前回調査と比較すると、男女とも賛成層が増加しており(女性 63.9%→69.5%、男性 46.7%→49.4%)、この 5 年間で「結婚は自由である」との意識が浸透してきたことがうかがえる。

#### ～「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」。男性の半数が反対～

反対層は 54.7%で、賛成層の 32.6%を上回る(20 歳以上)。

性別にみると、女性は反対層(56.9%)が賛成層(29.5%)を大きく上回り、男性も反対層(50.0%)が賛成層(37.0%)を上回る。前回調査をみると、女性は反対層(53.3%)が賛成層(37.2%)を上回っていたが、男性では逆に賛成層(49.8%)が反対層(36.8%)を上回っていた。今回の調査では男性でも反対層が半数を占める結果となった。

女性は 70 歳代を除くすべての年代で反対層が賛成層を上回っている。男性でも 60 歳代と 70 歳代を除く年代で反対層が賛成層を上回っている。

また、反対層の割合を国(平成 24 年)、県(平成 21 年)と比較すると、今回の調査は国の結果を上回り、県の結果を下回る結果(国 45.1%、県 63.2%、佐賀市 54.1%)となった。

#### ～「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」には半数近くが反対～

反対層は 46.4%で、賛成層の 36.8%を上回る(20 歳以上)。

女性は若年層ほど「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」とする賛成層が高くなり、50 歳代以下では賛成層が反対層を上回る。一方、男性は 30 歳代を除く年代で反対層が賛成層を上回り、「結婚したら子どもを持つべき」という意識を持っている者の割合が高いことがうかがえる。

20 歳代を性別にみると、女性は賛成層が 57.4%に対し、男性は 42.5%と開きがある。前回調査と比較すると、反対層は 8.6 ポイント(55.0%→46.4%)減少し、賛成層は 6.3 ポイント(30.5%→36.8%)上昇した。

前回の調査結果と比較(20 歳以上)すると、「結婚したら子どもを持つべき」とする反対層は 55.0%から 8.6 ポイント減少している。

結婚観や家庭観に関するいずれの設問においても、「結婚はすべき」「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」「結婚したら子どもを持つべき」という固定観念は女性よりも男性が高い傾向にあるものの、男女ともに概ね年代が下がるにつれ固定観念が薄れてきている傾向にある。

これは前回調査と比較しても、同様の傾向である。

## (2) 家庭生活での役割分担

～家事については男性や家族の参画が今ひとつ進んでいない～

「家庭生活での役割を誰が行うべきか」では、「家計を支える」は「主に夫(父)」と約6割が回答、「炊事・掃除・洗濯などの家事」は「主に妻(母)」とした人が約4割を占めている。「子育てや介護」、「自治会・町内会などの地域活動」、「学校行事への参加」では、「妻と夫(母と父)」が同じ程度に分担または「家族全員」と回答した人が多くなっている。このうち「炊事・掃除・洗濯などの家事」では「主に妻(母)」の43.6%が最も高くなっているが、「妻と夫(母と父)」が同じ程度に分担が21.5%、「家族全員」が29.0%となっており、「誰が行うべきか」という意識のレベルでは「主に妻(母)」以外とした人の割合が過半数を超えている。

一方、「実際にその役割を行っている人」をみると、「炊事・掃除・洗濯などの家事」は「主に妻」が約7割、「子育てや介護」、「学校行事への参加」も「主に妻(母)」が約5割となっている。

前回調査の設定問では「家庭生活での家事を主に誰が分担しているか」を聞き、選択肢も異なるが、「食事のしたく」「食事の後片付け、食器洗い」「掃除」「洗濯」「日々の家計管理」は6割以上が「妻の役割」と回答。特に「食事のしたく」は82.0%が「妻の役割」と回答していた。

「主に妻(母)」以外とした人の割合が意識のレベルでは過半数を超えているが、実際の分担をみると、「炊事・掃除・洗濯などの家事」では約7割が「主に妻(母)」となっており、男性や家族の参画が今ひとつ進んでいないことがうかがえる。

## (3) 家事にかかる時間

～平日の家事にかかる時間は、女性「3時間以上」、男性「30分未満」が最も多い～

～休日の家事にかかる時間は、女性「3時間以上」、男性「30分以上1時間未満」が最も多い～

1日の家事にかかる時間は、男女で大きな開きがある。前回の調査結果と比較(20歳以上)すると、男性の平日の家事にかかる時間で多かった「全くしていない」「30分未満」の合計は、47.0%から50.0%にやや増加しており、特に「20歳代」と「50歳代」では、これらの「全くしていない」「30分未満」層が約6割近くに達している。

休日でも「全くしていない」「30分未満」の合計は、34.9%から36.5%にやや増加しており、特に「20歳代」では、これらの「全くしていない」「30分未満」層が過半数を超えている。

男性で家事にかかる時間が「30分以上」は、平日休日ともに、前回調査よりも5ポイント前後高くなっており、特に男性では40歳代を中心に家事への参画がうかがえる結果となっている。

## (4) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の関わり方

～希望・現実ともに「『家庭生活』を優先」の回答がもっとも多いが(希望:42.9%、現実34.0%)、男性の「20歳代」から「50歳代」までの現実「家庭生活」より「仕事」を優先していると回答～

### ＜希望＞

優先したい項目は、男女ともに「家庭生活」が一番多いが、男性は「仕事」を優先したいと回答する割合も多くなっている。

性別・年代別にみると、子育て層が多い30歳代の女性と男性はいずれも他の年代に比べて「仕事」の割合が極端に低く、その分、「家庭生活」の割合が他の年代よりも高くなっている。

### ＜現実＞

現実を希望と比較すると(20歳以上)、「仕事」は現実が14.5ポイント高く、「家庭生活」では現実が9.2ポイント低くなっている。これを性別にみると、女性では「仕事」は現実が14.2ポイント高く、「家庭生活」は現実が7.5ポイント低くなっている。希望では「家庭生活」を優先したいと思っているが、現実「仕事」優先となっている人が少なくないことがうかがえる。

性別・年代別(20歳以上)にみると、現実については、男性の「20歳代」から「50歳代」までは「家庭生活」より「仕事」を優先している回答が多く、女性の「30歳代」以上の層は「仕事」よりも「家庭生活」を優先している回答が多くなっている。

## 【課 題】

- 結婚観や家庭観には、多様性が広がってきている。固定観念については女性よりも男性で保持している者の割合が高い傾向にあるものの、男女とも概ね年代が下がるにつれ固定観念が薄れてきている傾向が認められる。特に、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という固定的性別役割分担意識について、今回の調査で男性でも反対層が過半数を占めるという結果を得たことは特筆事項である。
- 男性の家事・育児への参画は主な役割としては少ないものの、希望では「妻と夫(母と父)が同じ程度に分担」という項目は前回と比較するとすべての項目で増加傾向となっている。しかし、現実には家庭内の日常的な家事を女性が担う場面も多い。男性の意識啓発とともに行動を促す施策が求められているほか、男性が家事に参加できない(仕事をせざるを得ない)原因に対応するための施策も求められる。
- 「仕事」「家庭」「地域・個人生活」の関わり方において、希望と現実ギャップが認められる。事業所に対し、従業員の仕事と家庭生活等との両立に配慮した職場づくりを促すための啓発が必要と考えられる。

## 2 教育・子育て・介護について

### (1)子どもの育て方

～子どもは男女とも「経済的に自立できるように育てたほうがよい」「生活していくために必要な技術を身につけるように育てたほうがよい」と9割以上が望む反面、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよい」と約6割が思っている～

「経済的に自立できるように育てたほうがよい」「生活していくために必要な技術を身につけるように育てたほうがよい」に9割以上が賛成している。一方で「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよい」の賛成層は 65.6%だが、前回の調査結果と比較(20 歳以上)すると、男女ともに賛成層は減少しており、特に男性での減少幅が大きくなっている。また、この「らしさ」に賛成する割合は女性よりも男性、若年層よりも中高年層で高い。

「個性・才能を活かして育てる」については、全体では9割が賛成層。特に 10 歳代は男女ともに賛成層が 100.0%となっている。また、「好きな仕事を選ばせたほうがよい」でも、全体の9割が賛成層となっている。

「男女同等の学歴」には8割が賛成し、前回の調査結果と比較(20 歳以上)すると 4.9 ポイント高くなっている。

### (2)少子化の原因

～「子育てのための経済的な負担が大きいから」が1番の原因となっている～

少子化の原因の1位は「子育てのための経済的な負担が大きいから」(68.3%)、2位は「生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから」(66.9%)、3位は「雇用の不安など、将来の暮らしに希望が持てないから」(56.9%)となっている。

選択肢の数や内容が異なるが、前回調査と比べると、1位と2位は同じだが、前回の3位は「女性は仕事と子育ての両立が困難」となっており、「雇用の不安など、将来の暮らしに希望が持てないから」は4位となっていた。

「雇用の不安など、将来の暮らしに希望が持てないから」の割合は、前々回が 21.0%、前回 28.2%、今回 56.9%となっており、若年層や子育て層の雇用が大きな課題として認識されていることがうかがえる結果となっている。

### (3) 男女の協力関係を築くために必要な学校での教育

～「生活面の指導や進路指導において、男女を区別せずに、子どもの興味(関心)や能力を尊重する」が8割弱を占め、最も多い～

1位は「生活面の指導や進路指導において、男女の区別なく子どもの興味(関心)や能力を尊重する」で77.8%、2位は「男女平等の意識を育てる授業をする」で50.2%、3位は「教師自身の男女平等についての意識を高めるような研修を行う」で36.3%となっている。

この順位は前回調査と同じだが、「教師自身の男女平等についての意識を高めるような研修を行う」(49.1%→36.3%)と「性教育を推進する」(30.0%→12.0%)の割合は大きく減少している。

20歳以上の回答者では、「男女平等の意識を育てる授業をする」は「男性」(53.6%)が「女性」(48.4%)より回答割合が高いが、そのほかの項目ではすべて「女性」の回答割合が高くなっている。

### (4) 「男性の育児休業」取得や「男性の介護休業」取得に対する考え

～男女ともに「職場環境を考えるととりにくい」が1位～

「職場環境を考えるととりにくい」は男女とも「30歳代」で7割を超える。また、「収入が減ったり無くなる」と困るのでとれない」は「女性30歳代」と「男性50歳代」で5割を超える。

前回の調査結果との比較(20歳以上)では、前回は単一回答、今回は複数回答であるため単純に数字の比較はできないが、「育児休業」については前回、今回ともに「職場環境を考えるととりにくい」が第1位となっている。なお前回調査では、「育児休業」と「介護休業」に対する考えを別々に質問しており、「育児休業」の取得については1位が「職場環境を考えるととりにくい」、2位「父親自身の成長のためにも、とることが望ましい」、一方、「介護休業」の取得については1位が「他に介護する者がいない場合は、とることもやむを得ない」、2位「家族として当然である」となっていた。今回は「育児休業」と「介護休業」を同時に聞いており、1位は「職場環境を考えるととりにくい」で60.8%、次いで「収入が減ったり、無くなると困るのでとれない」(42.6%)、「家族として当然である」(41.0%)となっている。

### (5) 介護をするために転職、離職する人が増加する原因

～「職場において介護休業などの制度が整備されていない」が約6割で最も多い～

「職場において介護休業などの制度が整備されていない」が60.6%で最も多く、次いで「共働き家庭や単身者が増加しているため、家庭内に介護に専念する人がいない」(56.3%)、「介護と仕事を両立するための支援制度や相談窓口等の情報が得にくい」(40.9%)となっている。

#### 【課題】

- 「女の子も男の子も、個性・才能を活かした育て方を」との考え方が一般化してきている反面、約6割が「男の子は男の子らしく」、「女の子は女の子らしく」育てたほうがよいと考えている。この「らしさ」に賛成する割合は女性よりも男性、若年層よりも中高年層で高くなっているが、前回調査と比較すると、男女ともに賛成層は減少、特に男性での減少幅が大きく、学校教育や意識啓発による一定の効果があつたと思われる。今後も、引き続き子どもと親を対象とした意識啓発を続けていくことが重要である。
- 少子化の原因として、「雇用の不安など、将来の暮らしに希望が持てないから」を挙げる人の割合が徐々に高くなってきており、生き方の多様化と並んで経済的な負担が大きな要因となっている。事業主等への子育て環境の整備促進と併せて若年層や子育て層の雇用対策が課題である。
- 育児・介護休業を取得することに対しては、男性の6割が「職場環境を考えるととりにくい」と回答しているとともに、女性が男性の置かれている職場環境の悪化や休業をとりづらい雰囲気等を認識していることがうかがえる結果となっている。事業主に対する、育児休業・介護休業制度及び職場環境の整備の推進と啓発が必要である。

### 3 職業生活について

---

#### (1)「女性が職業に就くこと」に対する考え

---

～男女ともに「出産・育児期間は一時退職し、子どもが成長したら再び職業に就くほうがよい」とする「再就職型」が4割を越える～

1位は「再就職型」で 44.1%、2位は「職業継続型」で 25.2%、3位は「結婚・出産退職型」の 13.1%となっている。男女で割合は異なるが3位までの順位は変わらない。10 歳代では「再就職型」はさらに多く 54.8%を占める。

性別・年代別にみると、30 歳代の男女のいずれも「職業継続型」の割合が他の年代と比べて高くなっており、少子化の原因として「子育てのための経済的な負担が大きいから」や「雇用の不安など、将来のくらしに希望が持てないから」を実感している人が多いことと関連していると考えられる。

#### (2)女性が仕事を継続する上での障害

---

～「家事・育児・介護のための社会システムや施設等が不十分」「結婚や妊娠、出産すると、仕事が続けにくい雰囲気職場にある」が多い～

1位は「社会システムの不十分さ(家事・育児・介護)」で 57.4%、2位は「結婚・出産後に働きにくい職場の雰囲気」で 56.4%、3位は「家族の協力の不十分さ(家事・育児・介護)」で 41.5%となっている。

選択肢数が異なるが前回調査と比較すると、上位3位の順位に変化はなく、女性が仕事を継続する上での障害として社会システムの不十分さを認識している人が多いことがうかがえる。

20 歳以上の回答者では、「家事・育児・介護への家族の協力が不十分である」は、「男性」(32.8%)が「女性」(48.6%)より 15.8 ポイント低くなっている。

#### (3)女性の再就業に必要なこと

---

～「家族のための休暇がとりやすい職場を増やす」「保育施設や子育て支援サービス、高齢者介護の施設やサービスを充実させる」が多い～

1位は「家族のための休暇がとりやすい職場を増やす」で 56.4%、2位は「保育施設や子育て支援サービス、高齢者介護の施設やサービスを充実させる」で 52.9%、3位は「雇用の場を増やす」で 48.5%となっている。

前回の調査結果と比較(20 歳以上)すると、回答割合の順位に違いがみられる。前回の第1位「雇用の場を増やす(前回選択肢:再雇用制度の促進)」は今回第3位に、前回第2位の「家族のための休暇がとりやすい職場を増やす(前回選択肢:家族休暇が取得しやすい職場を増やす)」は今回第1位に、前回第3位の「保育施設や子育て支援サービス、高齢者介護の施設やサービスを充実させる(前回選択肢:保育施設・子育て支援サービスの充実)」は今回第2位となっている。

「保育施設や子育て支援サービス、高齢者介護の施設やサービスを充実させる(前回選択肢:保育施設・子育て支援サービスの充実)」については、前々回 5 位、前回 3 位、今回 2 位となっており、これらのことが、女性の再就業に必要なこととして認識する人が増加していることがうかがえる。

#### (4)職業の有無とその理由

---

##### ～男性の約7割、女性の約6割が「有職者」、女性の就業率はM字型から台形へ～

前回の調査結果と比較(20歳以上)すると、就業率は女性が56.2%から9.9ポイント、男性が69.8%から7.3ポイント上昇している。

女性の就業率を平成16年度・平成21年度と比較すると、今年度は「60歳代」を除くすべての年代でもっとも高くなっている。特に「50歳代」では80.4%と高い。

女性の就業率をグラフ化すると、かつては子育て期に低くなり、子どもが大きくなる時期に再就職するという「M字型」の曲線の谷が見られていたが、近年は子育て期の女性の就業率の上昇により台形を示す型に変化している。今回の調査結果からは、「M字型」の曲線の谷を認めることはできない。

##### ～職業に就いている理由は「生計を維持するため」が約9割～

「生計を維持するため」の回答割合は「男性」(90.3%)が「女性」(82.1%)より8.2ポイント高く、「社会に貢献するため」も「男性」(32.0%)が「女性」(16.6%)より15.4ポイント高い。一方、「生きがいを得るため」は「女性」(37.3%)が「男性」(25.1%)より12.2ポイント高く、「自分の能力・技能・資格を活かすため」は「女性」(28.6%)が「男性」(23.2%)より5.4ポイント高くなっている。

女性は男性と比べ働く理由として自己充実を求める傾向が高いことがうかがえる。前回調査をみると、「生計を維持するため」の回答割合は「女性」48.2%、「男性」86.5%と38.3ポイントの差が認められた。しかし、今回の調査での差は7.7ポイントに縮小しており(ただし、前回調査の選択肢数は18項目、今回は5項目)、女性の就労意識が大きく変化している可能性があることが示唆される結果となっている。

##### ～職業に就いていない理由は「定年退職したため」「学校に通っているから」～

「定年退職したため」が26.2%でもっとも多く、次いで「現在、学校に通っているから」(24.0%)、「病気やけがなどのため働ける状態ではないから」(13.5%)、「家事も立派な職業だから」(12.7%)となっている。「定年退職したため」と回答した人は、すべて「60歳代」と「70歳代」となっている。

女性の回答割合が男性よりも高い項目としては、「家事も立派な職業だから」、「育児や介護等のため」、「経済的に働く必要がないから」などとなっている。

#### (5)週の就労時間と就労日数

---

##### ～女性も男性も最多は「40～59時間」。フルタイム労働の割合の男女差は縮小～

1週間の就労時間は、「40～59時間」が50.8%、「20～39時間」が23.5%、「0～19時間」が13.4%である。

「女性」の「40～59時間」(フルタイム労働に相当)の回答割合をみると、「20歳代」の62.8%をピークに「40歳代」までは年代が上がるにつれて減少していく傾向が認められる。同じく「男性」の「40～59時間」をみると、「20歳代」から「50歳代」まで年代が上がるにつれて回答割合が高くなる傾向が認められる。

前回の調査結果と比較(20歳以上)すると、「0～19時間」と「40～59時間」の割合がやや増加している。特に「女性」の「40～59時間」の割合は前回より6.4ポイント増加し、45.4%となっている。同じく「男性」の「40～59時間」の割合は前回より3.3ポイント増加し、58.4%となっている。「40～59時間」(フルタイム労働に相当)の割合は依然「男性」が「女性」よりも高いが、その差は縮小していることがうかがえる。

##### ～就労日数では、「5日」が55.4%でもっとも多く、次いで「6日」(26.0%)、「4日」(6.5%)となっている～

就労日数は、男女とも「5日」が最も多く、「女性」が55.7%、「男性」が54.2%とほぼ同率。次いで「6日」が「女性」23.8%、「男性」29.4%となっている。「5日」の割合について前回調査と比較すると、「女性」は前回から12.6ポイント、「男性」は4.8ポイント、それぞれ増加しているが、特に「女性」の伸びが顕著である。

性別・年代別にみると、就労日数「4日」以下は「男性」の「20歳代」、「女性」の「30歳代」の割合が他の年代と比べ最も高くなっている。要因としては、「女性」の「30歳代」の場合は子育て期にあたる層であること、「男性」の「20歳代」は非正規労働者が増加したことによるものと思われる。

## (6)就労形態等

～男性の57.9%が正規社員であるのに対し、女性の正規社員は35.1%に過ぎない～

20歳以上の回答者をみると、「女性」では、「非正規社員」の回答割合が『40歳代～60歳代』で過半数を占める。「正規社員」は「20歳代」(48.8%)が最も高く、年代が上がるにつれ回答割合が低くなっている。また、「男性」では、「非正規社員」は「20歳代」(22.7%)と『60歳以上』の高年層で高くなっている。

就業率、就労日数、就労時間等についての男女差は、以前と比べ相当縮小しているが、正規社員の割合での男女差はかなり開いており、女性で非正規の雇用者の多さが目立っている。

～家族従事者で「労働に見合う対価を受け取っている」と感じている人は約4割～

「受け取っている」は41.2%、「受け取っているが、労働に見合う分ではない」は26.5%、「受け取っていない」は20.6%となっている。「受け取っていない」は5人に1人存在していることになる。

前回の調査結果と比較(20歳以上)すると、「受け取っている」は前回結果(16.7%)より24.5ポイント増加、「受け取っていない」は前回結果(36.1%)より15.5ポイント減少している。

～10歳代では9割、20～40歳代では8割以上が『就労意欲あり』と回答～

10歳代では「将来は職業に就くつもりである」と92.3%が回答。男女ともに、40歳までは8割以上が『就労意欲あり』(「現在、職業を探している」+「将来は職業に就くつもりである」)と回答しているが、50歳代以上では「職業に就くつもりはない」の回答割合が5割を超える。

～10歳代は「能力や技術、資格が発揮できる」「収入がよい」職場を求めるが、20歳代以上(特に30歳代から50歳の女性)は「家庭生活と両立できる」職場を求める～

仕事を選ぶ際の重視点については、「家庭生活と両立できる」が57.6%で最も多く、次いで「能力や技術、資格が発揮できる」(49.6%)、「会社の経営と雇用上の身分が安定していて、長く勤められる」(48.2%)、「収入がよい」(41.7%)となっている。

性別でみると、「家庭生活と両立できる」は「女性」(63.8%)が「男性」(45.5%)より18.3ポイント高くなっている。「女性40歳代」では94.1%、「女性50歳代」では85.7%と高くなっており、特に、この層は家庭生活に支障なく働くことができることを希望していることがうかがえる。

～就業希望者の6割が「正規社員」での雇用を望んでいる～

望む雇用形態は、「正規社員」が最も多く62.6%、次いで「非正規社員」(28.1%)、「事業主」(2.9%)となっている。

20～50歳代を性別にみると、「女性」では「正規社員」の回答割合は「50歳代」から年代が下がるほど高く、「非正規社員」は年代が上がるにつれ高くなる。「男性」では「60歳代」以外のすべての年齢層でほとんどの人が「正規社員」と回答している。

### 【課題】

- 社会的・経済的状況の変化により女性の就業率、就労日数、就労時間等が上昇し、以前と比べ男女差は相当程度縮小しているが、正規社員の割合での男女差はかなり開いており、女性で非正規雇用者の割合は50.3%と高くなっている。その背景には、女性が就労する条件として「家庭と両立できる」ことを重要視していること、子育てのためにいったん退職し再就職する例が多いこと等があると推察される。事業所には継続就業ができる制度や職場内での理解促進など、職場環境の整備が求められる。
- 男女共同参画が進まない中での社会的・経済的状況の変化は、ますます女性の仕事と家事への負担を増大させ、女性の諦め感へとつながっていると考えられる。これは職業継続型より再就職型を望む割合や非正規社員という雇用形態を望む割合の増加を生み出している。育児や介護等のための社会システムや施設等の整備とともに女性が働きやすい職場づくりが求められている。

## 4 健康・福祉について

### (1) 妊娠・出産・性に対する考え

～妊娠や出産、性感染症など女性の健康と権利については、約9割が『配慮する必要がある』と回答～

20歳以上の賛成層は89.2%であり、性別にみると、「女性」は89.3%、「男性」は88.9%である。そのうち積極的な「賛成」は71.6%であり、「女性」70.7%、「男性」72.9%となっており、男性の割合がやや高い。

～男女が理解し合うためにもっとも大切なことは「配偶者やパートナー間の話し合い」と5割が回答～

20歳以上でみると、「配偶者やパートナー間の話し合い」が52.6%で最も高く、次いで「学校における女性の健康と権利に関する教育」(20.3%)、「講座の開催などによる学習機会の提供」(7.8%)となっている。性別による差は、ほとんど認められない。

### (2) 望ましい介護者

～「ヘルパーなどの介護専門職」または「配偶者」に二分～

希望する介護者は「ヘルパーなどの介護専門職」または「配偶者」に二分されるが、性別にみると違いがみられる。女性の回答割合(20歳以上)の第1位は「ヘルパーなどの介護専門職」で50.1%、第2位「配偶者」26.4%となっている。一方、男性(20歳以上)の第1位は「配偶者」で55.4%、第2位「ヘルパーなど介護専門職」28.6%となっている。「女性」は「ヘルパーなどの介護専門職」を望ましい介護者として多くの人が多く、「男性」は「配偶者」の介護を希望している人が多い。

なお、「ヘルパーなどの介護専門職」の選択肢は今回調査から新設した。前回調査では女性の1位は「配偶者」で39.5%(今回26.3%)、2位が「娘」で24.5%(今回13.6%)、男性は1位が「配偶者」で66.7%(今回55.4%)となっている。

#### 【課題】

- 妊娠や出産、性感染症など女性の健康と権利については、約9割が『配慮する必要がある』と賛成している。性に関する女性の健康と権利について必要な知識を正しく啓発するとともに、健康や権利を守るための環境整備を進める必要がある。
- ヘルパーなど専門職による介護の仕組みができ、家族介護より介護サービスによる介護を希望する人が増えている。女性は介護サービスに期待する人が多く、男性では半数以上が配偶者による介護を希望しており、男女の考え方に違いが見られる。今後は、より利用しやすい介護サービスの仕組みを整備していくことが必要である。

## 5 地域活動について

---

### (1) 地域活動をする場合の障害

---

～男性は「仕事が忙しすぎる」、女性は「家事で手いっぱい」～

性別にみると、「仕事が忙しすぎる」と回答した割合は「男性」が49.7%で、「女性」(30.1%)より19.6ポイント高い。「家事が手いっぱい自由時間がない」と回答した割合は、「男性」の4.2%に対し、「女性」は15.8%と高い。このことから、日常生活において、男性は仕事、女性は家事というように役割分担をしている人が少なくないことがうかがえる。

### (2) 防災・災害復興時において、男女共同参画に根ざした対応をとるために必要なこと

---

～「防災計画策定段階から男女双方の意見が反映される体制整備」が約6割で最多～

「防災計画等の計画策定の段階から、男女双方の意見が反映できるような体制を整える」が62.3%、「避難時に必要な知識や防災機材の取り扱い方等の研修会に男女ともに参加する」が44.1%、「自治会等の地域の役員を男性も女性も積極的に担う」が30.3%、「普段の地域活動において、性別だけで役割を決定しない」が29.0%となっている。

#### 【課 題】

- 社会活動をする上では、「仕事が忙しすぎる」、「家事で手いっぱい」など「精神的・時間的にゆとりがない」ことが障害となっている。ワーク・ライフ・バランスの改善や男性の家事参画などの行動が地域活動に参加しやすい環境や条件をつくるきっかけになる可能性があることが示唆されている。
- 防災・災害復興に関しては、どのような場面でも性別に関わらず意見を反映でき、役割を担うことができることに留意した啓発活動などを心がける必要があると考えられる。

## 6 人権について

### (1)メディアにおける性や暴力の表現に対する考え

～望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない～

「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないようにする配慮が足りない」が 45.0%、「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」が 41.2%、「女性や子どもに対する犯罪を助長するおそれがある」が 34.8%で続く。

性別にみると、女性では年代が下がるにつれ「特に問題はない」と回答した人の割合が高くなっていく。

前回の調査結果と比較(20 歳以上)すると、回答割合での上位 3 項目は同じだが、「子どもの目に触れない配慮が足りない」の回答割合は、前回(50.1%)より 4.7 ポイント減少、「女性や子どもに対する犯罪を助長する」は前回(44.6%)より 9.1 ポイント減少している。

### (2)ドメスティック・バイオレンスの実態と対応

～「されたことがある」「したことがある」のいずれも「怒鳴る、無視する、脅す」が最も多い～

「ドメスティック・バイオレンス(以下「DV」という。)を「されたことがある」または「したことがある」または「どちらもある」と回答した割合は「怒鳴る、無視する、脅す」が 21.8%でもっとも多く、次いで「殴る、蹴る、物を投げる、物を壊す」(10.8%)、「生活費を渡さない、高価な買い物を勝手にする、ギャンブルに入れ込む」(6.5%)、「メール・携帯をチェックする」(6.4%)となっている。

#### ■精神的なもの(怒鳴る、無視する、脅す)

他の種類の DV に比べて「したことがある」「されたことがある」のいずれの割合も高い。

男性では「したことがある」が、女性では「されたことがある」が多くなっている。

#### ■経済的なもの(生活費を渡さない、高価な買い物を勝手にする、ギャンブルに入れこむ)

男性では「したことがある」が、女性では「されたことがある」が多くなっている。「10 歳代」では「したことがある」「されたことがある」いずれも皆無。

#### ■性的なもの(セックスを強要する、避妊に協力しない)

「したことがある」男性は 0.6%であるのに対し、「されたことがある」女性は 4.6%となっており、加害者側の加害意識の低さがみられる。

#### ■社会的なもの(メール・携帯電話をチェックする)

「10 歳代」は、「したことがある」は男女ともに 0%であるのに対し、「されたことがある」は女性が 5.3%、男性 4.2%となっている。

～DVを受けた時は「我慢した」が6割～

男女ともに「我慢した」の割合が圧倒的に高く、回答者全体の 62.8%を占める。

性別にみると、「我慢した」「謝ったり、なだめたりした」の割合は男性が高く、「友人に相談した」「家族・親族に相談した」は女性が高くなっている。

前回の調査結果と比較(20 歳以上)すると、「我慢した」は 70.3%から 9.6 ポイント減少、「相談しようと思わなかった」は 12.1%で前回(7.4%)より 4.7 ポイント増加している。

～我慢した、相談しようとは思わなかった理由は「相談しても無駄だと思ったから」が約4割～

「相談しても無駄だと思ったから」が40.5%でもっとも多く、次いで「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」(30.4%)、「相談するほどのことではないと思ったから」(27.8%)、「自分にも悪いところがあると思ったから」(26.6%)となっている。

性別にみると、「相談しても無駄だと思ったから」と回答した割合は「女性」が50.0%で、「男性」(20.0%)を30.0ポイント上回っている。

前回の調査結果と比較(20歳以上)すると、前回1位だった「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」は、今回の順位は2位で50.9%から22.1ポイント減少している。

### (3)セクシュアル・ハラスメントの実態と対応

---

～「されたことがある」の最多は「結婚はまだ？子どもはまだ？」としつこく言われる。「したことがある」の最多は「性的な冗談や質問、ひやかしの言葉を言う」～

「されたことがある」または「したことがある」と回答した割合は、「性的な冗談や質問、ひやかしの言葉を言う」が12.1%、「結婚はまだ？」「子どもはまだ？」としつこく言う」が10.0%となっている。

セクシュアル・ハラスメントを「されたことがある」と「したことがある」の差がもっとも大きいのは、「結婚はまだ？」「子どもはまだ？」としつこく言う」(「されたことがある」8.7%、「したことがある」1.3%)となっており、加害意識が低いことが分かる。

前回の調査結果と比較(20歳以上)すると、「女性」で「接待や宴会で、酌やデュエット、ダンスを強要」を「されたことがある」の割合は前回の15.9%から10.9ポイント低くなっている。「したことがある」では「男性」で「異性をじろじろ眺めたり、容姿を話題にしたりする」の割合は前回の9.8%から4.1ポイント低くなっている。

～約4割は「誰にも相談しなかった」～

「誰(どこ)にも相談しなかった」が42.6%で最も多く、次いで「家族・友人・知人に相談した」が36.0%となっている。

10歳代では、8人中6人が「家族・友人・知人に相談した」と回答している。

20歳代以上で「家族・友人・知人に相談した」割合をみると、「女性」が39.2%であるのに対し、「男性」は4.2%と極端に低い。また、「誰にも相談しなかった」は「男性」(66.7%)が「女性」(41.2%)より25.5ポイント上回っており、身近な人にもなかなか相談できない状況にあることがうかがえる。

前回調査と比較すると、「家族・友人・知人に相談した」は8.9ポイント減少しており、「誰(どこ)にも相談しなかった」が2.5ポイント、「上司・同僚に相談した」が2.4ポイントそれぞれ増加している。

## (4)女性に対する暴力への対策

---

～女性に対する暴力をなくすためには「被害女性が安心して相談できる窓口を確保する」が6割でもっとも高い～

「被害女性が安心して相談できる窓口を確保する」が 58.4%でもっとも多く、次いで「法律・制度の制定や見直しを行う」(44.3%)、「被害女性を保護するための施設を整備する」(39.2%)となっている。

性別にみると、男性に比べ女性の割合が高い項目は「被害女性を保護するための施設を整備する」など被害者に対する支援に関するものであり、女性に比べ男性が高い項目は「法律・制度の制定や見直しを行う」など制度等の見直し強化による取締り策となっている。

### 【課 題】

- メディアにおける性や暴力の表現については、「子どもの目に触れない配慮が足りない」や「女性や子どもに対する犯罪を助長する」は前回調査より減少傾向となっているが、依然、メディアの自己管理を求めるとともに、情報を客観的に見て、情報を受け取る目的・目標を明確にするためメディアリテラシーの教育や啓発がさらに必要と考えられる。
- DV については、前回の調査結果と比べ、「我慢した」が減少しているが、回答割合そのものは高い。一方で、「相談しようと思わなかった」は増加している。つまり、DV 被害者には「我慢した」と回答した割合が高く、表面化していないケースが数多く存在することがうかがえる。女性に対する暴力対策も含め DV 防止の啓発と相談窓口のPRとともに各窓口の緊密な連携が求められている。
- セクハラは、被害意識に対して加害意識が低いケースが少なくないことから、理解と防止を促す啓発が必要である。また、「誰(どこ)にも相談しなかった」が4割台となっており、男女ともに安心して相談できる窓口の設置などの環境づくりが求められている。

## 7 男女平等・男女共同参画社会について

---

### (1) 男女共同参画についての学習経験

---

～約半数が男女平等や男女共同参画について話し合ったり学習したりしたことは「ない」～

「ない」と回答した人が半数を超えている。話し合ったことなどがあると回答した人の内容をみると、「友人との間で話し合ったことがある」が 18.5%で最も多く、次いで「夫婦や親子など家族の場で話し合ったことがある」(16.4%)、「佐賀市主催の研修会や公民館の講座などに参加したことがある」(11.3%)が続いている。

性別・年代別にみると、「佐賀市主催の研修会や公民館の講座などに参加したことがある」の回答割合は、男女ともに「20 歳代」から「60 歳代」まで年代が上がるにつれ高くなっていく。「ない」の回答割合が高かったのは「男性 30 歳代」(68.6%)、「女性 40 歳代」(64.0%)、「男性 50 歳代」(61.9%)、「女性 30 歳代」(61.3%)となっている。

前回調査では「新聞や雑誌で関連記事を読んだことがある」が選択肢にあり、44.3%と最も高い回答を得ていた。一方、「学習経験はない」の割合は 25.3%となっており、「ない」が過半数となっている今回調査とは異なる結果となっている。

### (2) 男女共同参画関連用語の認知

---

～「4月14日パートナーデー」について、『知っている』(「内容まで知っている」+「聞いたことがある」)は、前回結果より13.1ポイント増加～

「内容まで知っている」のは「ジェンダー」の 16.0%が最も多く、次いで「ワーク・ライフ・バランス」(13.4%)、「パートナーデー」(9.3%)が続く結果となっている。

前回の調査結果と比較(20歳以上)すると、「内容まで知っている」の割合は「ジェンダー」、「ワーク・ライフ・バランス」、「パートナーデー」のいずれも増加しているが、「全く知らないし、聞いたことがない」が過半数を超えている。

年代別にみると、「内容まで知っている」と回答した人の割合が高いのは、「ジェンダー」では男女ともに「20 歳代」から「50 歳代」、「ワーク・ライフ・バランス」は男女ともに「20 歳代」から「40 歳代」となっている。

### (3) 男女平等に関する意識

---

～「家庭」「職場」「地域や社会活動」「就職」では約5割が「男性優遇」と回答～

「学校教育の場」では全体の約 4 割、10 歳代では 5 割以上が「男女平等になっている」と回答。それ以外の分野では、「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合が「男女平等になっている」を上回っている。

20 歳以上の回答者では、「男性優遇」と感じる分野は、1位が「職場」で 51.7%、2位が「家庭」で 50.3%、3位が「地域や社会活動の場」の 49.2%。前回の調査結果と比較(20 歳以上)すると、「職場」、「家庭」は減少傾向にあるが、「地域や社会活動の場」は前回より 4.1 ポイント高くなっている。

「男性優遇」と感じる割合を性別にみると、全ての分野で女性の割合が男性を上回っており、男性よりも女性が「男性優遇」と感じている人が多いことがうかがえる。

#### 【課 題】

- 年代などにより接触できる「男女共同参画について学習する機会」は異なり、また、性別で感じ方も異なっている。その点に留意して学習の場や内容を検討する必要があるとともに、いつでも、どこでも、好きな時に接触できる媒体やメディアを通じた広報・啓発に力を入れていく必要がある。
- 男女共同参画についての知識や情報を持っている人は、依然として一部の市民に留まっている。男女共同参画についての意識の醸成を広く図るための啓発及び広報のあり方の検討をするとともに、実践に繋がる学習方法を検討する必要があると考えられる。
- 「家庭」や「職場」においては、「男性優遇」と感じる人の割合が減少傾向を示しており、広報・啓発・学習の効果が徐々に浸透しつつあることがうかがえるが、「地域や社会活動の場」などでは悪化傾向を示している。全ての分野で「男性優遇」と感じる人、特に女性で「男性優遇」と感じている人が多いことから、さらなる広報・啓発が求められている。

### Ⅲ 調査結果



### III

## 調査結果

### 1 結婚や家庭生活について

#### (1)結婚観、家庭観

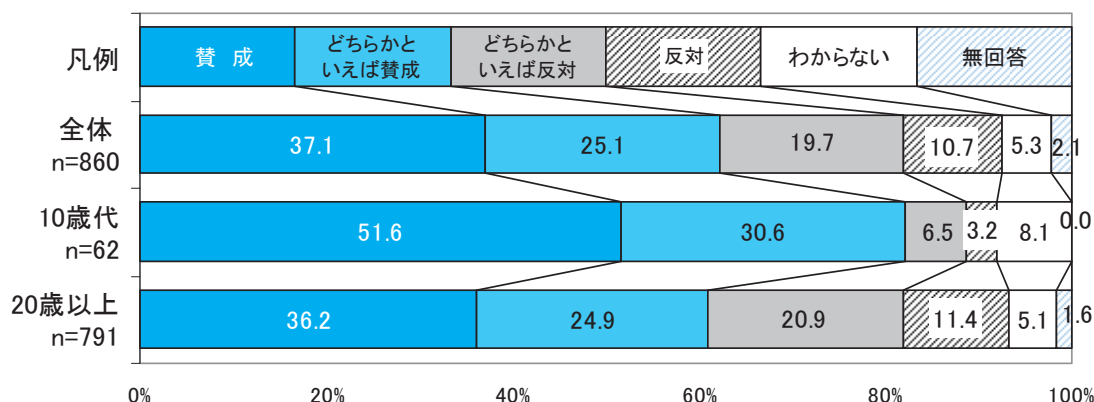
問1 結婚・家庭についてどのように考えますか。

#### A 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

- 『賛成』(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)が過半数を占めるが、「男性」より「女性」、高齢者より若年者で『賛成』の人が多い

『賛成』(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)と回答した人の割合は 62.2%。

性別でみると、『賛成』は「男性」(50.8%)より「女性」(71.1%)が 20.3 ポイント高くなっている。60 歳代以下の層になると「女性」ではすべての年代で『賛成』の割合が高く、特に「10 代女性」では 89.5%が『賛成』と回答している。



#### ◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

『賛成』82.2%、『反対』9.7%。

#### ◇性別

『賛成』と回答した人の割合は、「女性」が 89.5%で、「男性」(70.8%)より 18.7 ポイント高い。

#### ◆20 歳代以上結果

『賛成』61.1%、『反対』32.3%。

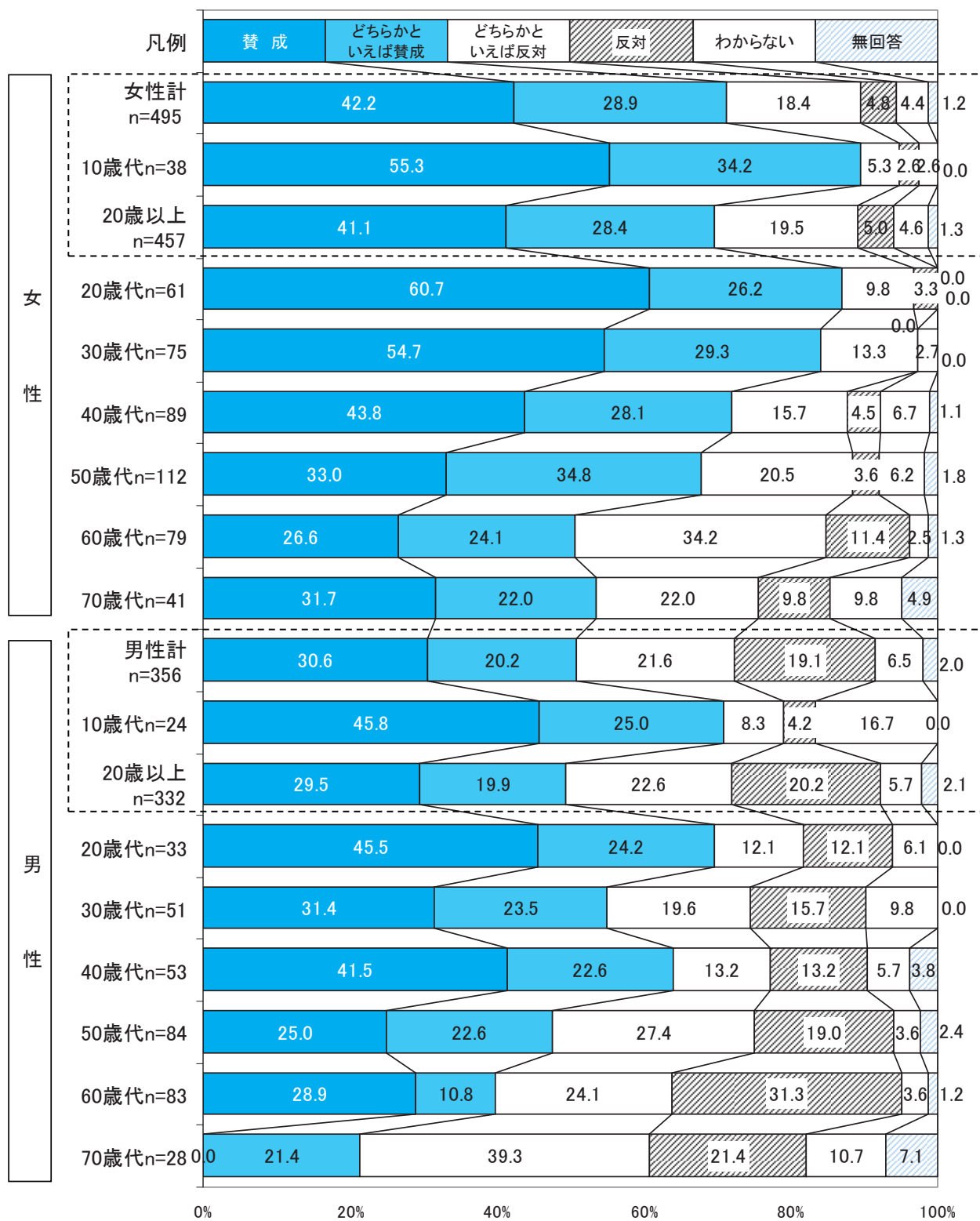
前回の調査結果と比較すると、『賛成』と回答した人の割合は「男性」で 2.7 ポイント(前回 46.7%)、「女性」で 5.6 ポイント(前回 63.9%)高くなっている。

#### ◇性別

『賛成』と回答した人の割合は、「女性」が 69.5%で、「男性」(49.4%)より 20.1 ポイント高くなっている。

#### ◇性・年代別

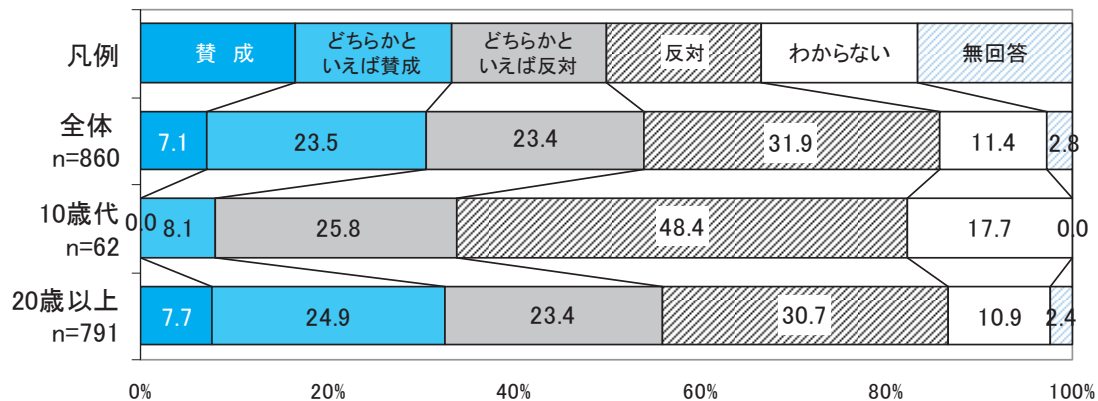
男女ともに『賛成』と回答した人の割合は「20 歳代」が最も高く、「男性 20 歳代」69.7%「女性 20 歳代」86.9%になっている。「男性 70 歳代」では「賛成」と回答した人が 0 人(「どちらかといえば賛成」は 21.4%・6 人)で最も少なくなっている。



## B 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」だと思う

- 『反対』(「反対」+「どちらかといえば反対」)が過半数を占める

『賛成』(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)と回答した人の割合は 30.6%。『反対』(「反対」+「どちらかといえば反対」)と回答した人は 55.3%と過半数を占めている。



### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

「賛成」と回答した人は 0 人。『反対』(「反対」+「どちらかといえば反対」)と回答した人は 74.2%となっている。

#### ◇性別

『反対』と回答した人の割合は、「男性」が 75.0%、「女性」が 73.7%となっている。

### ◆20歳代以上結果

前回の調査結果と比較すると、『反対』と回答した人の割合は「男性」で 13.2 ポイント(前回 36.8%)、「女性」で 3.6 ポイント(前回 53.3%)高くなっている。

#### ◇性・年代別

「女性 20 歳代」では「賛成」と回答した人は 0 人。『反対』と回答した人の割合は他の年齢層に比べて高く 63.9%となっている。

「女性 30 歳代」の『賛成』は 34.7%で女性 60 歳代以下の層で最も高いのに対し、「男性 30 歳代」の『賛成』は 15.7%で他の年齢層に比べて最も低くなっている。

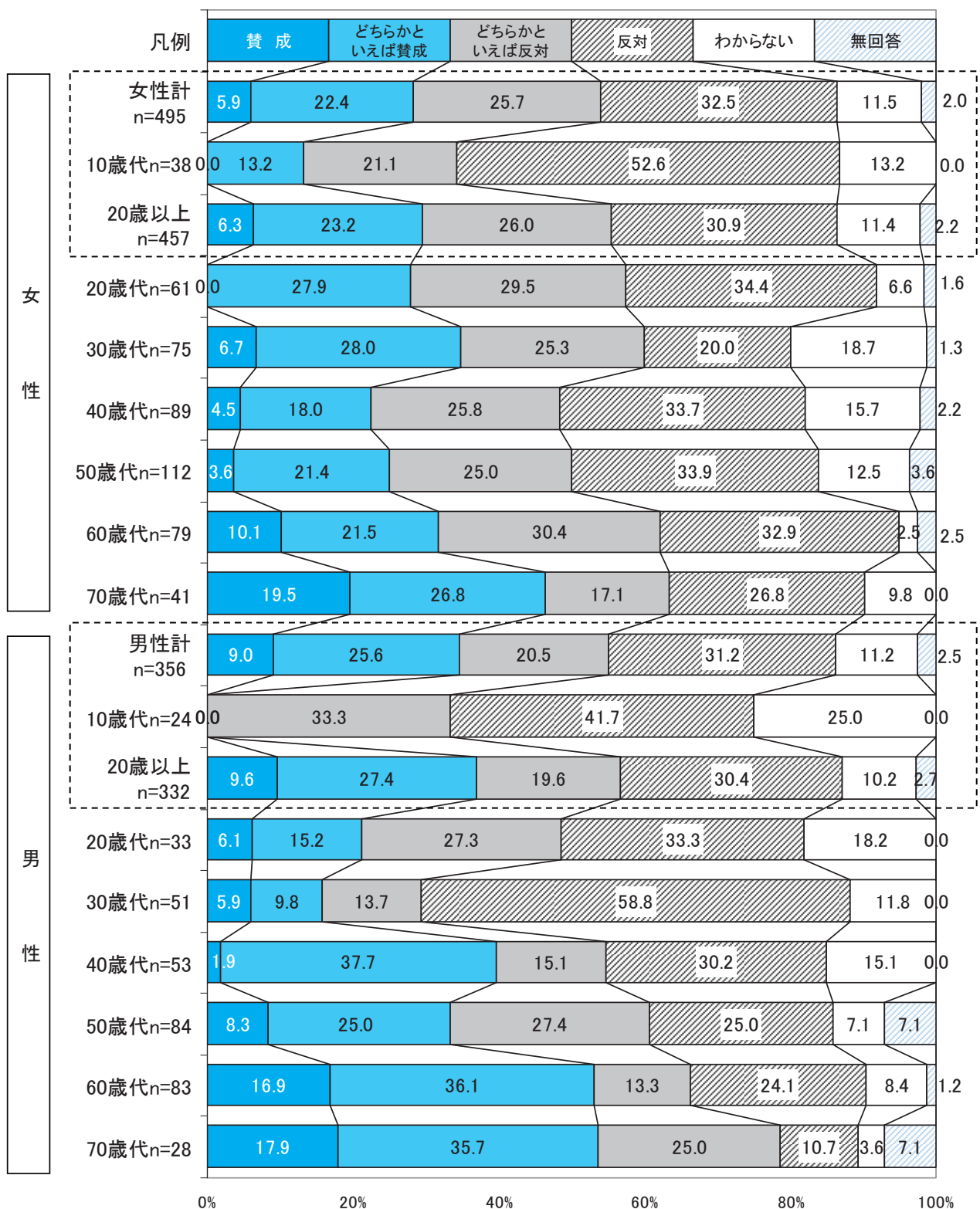
### ◆国、県の調査結果との比較

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についての反対層の割合を国や県の調査と比較すると、佐賀市は国の調査結果より高く、佐賀県の結果よりも低くなっている。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について反対層の割合

|    | 国(H24) | 佐賀県(H21) | 佐賀市    |        |       |
|----|--------|----------|--------|--------|-------|
|    |        |          | H16 調査 | H21 調査 | 今回調査  |
| 全体 | 45.1%  | 63.2%    | 50.7%  | 46.2%  | 54.1% |
| 女性 | 48.8%  | 65.2%    | 56.8%  | 53.3%  | 56.9% |
| 男性 | 41.0%  | 60.7%    | 43.6%  | 36.8%  | 50.0% |

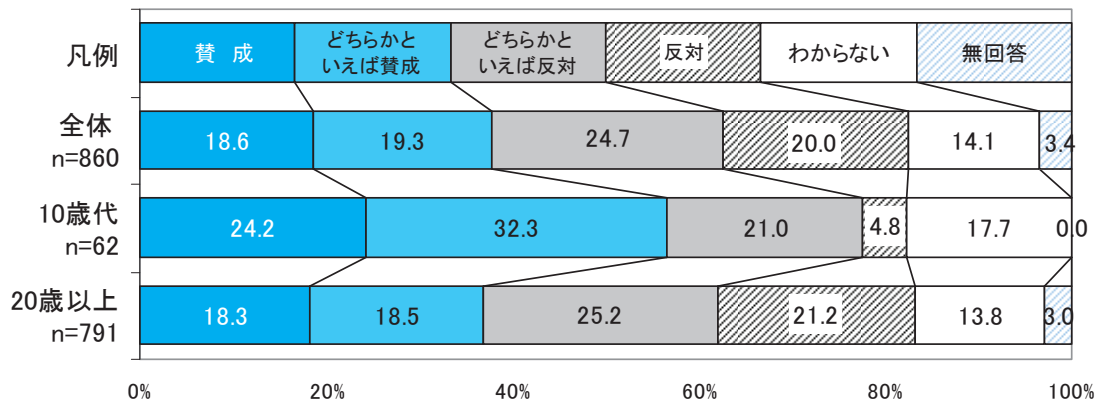
※対象は 20 歳以上



## C 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

- 『10 歳代』では『賛成』(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)、『20 歳代以上』では『反対』が多い

『賛成』(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)と回答した人の割合は 37.9%。性別でみると、『賛成』は「男性」(29.4%)より「女性」(44.6%)が 15.2 ポイント高くなっている。



### ◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

『賛成』56.5%、『反対』25.8%。

『賛成』と回答した人の割合は「女性」は 68.4%で、「男性」(37.5%)より 30.9 ポイント高くなっている。

### ◆20 歳代以上結果

『賛成』36.8%、『反対』46.4%。

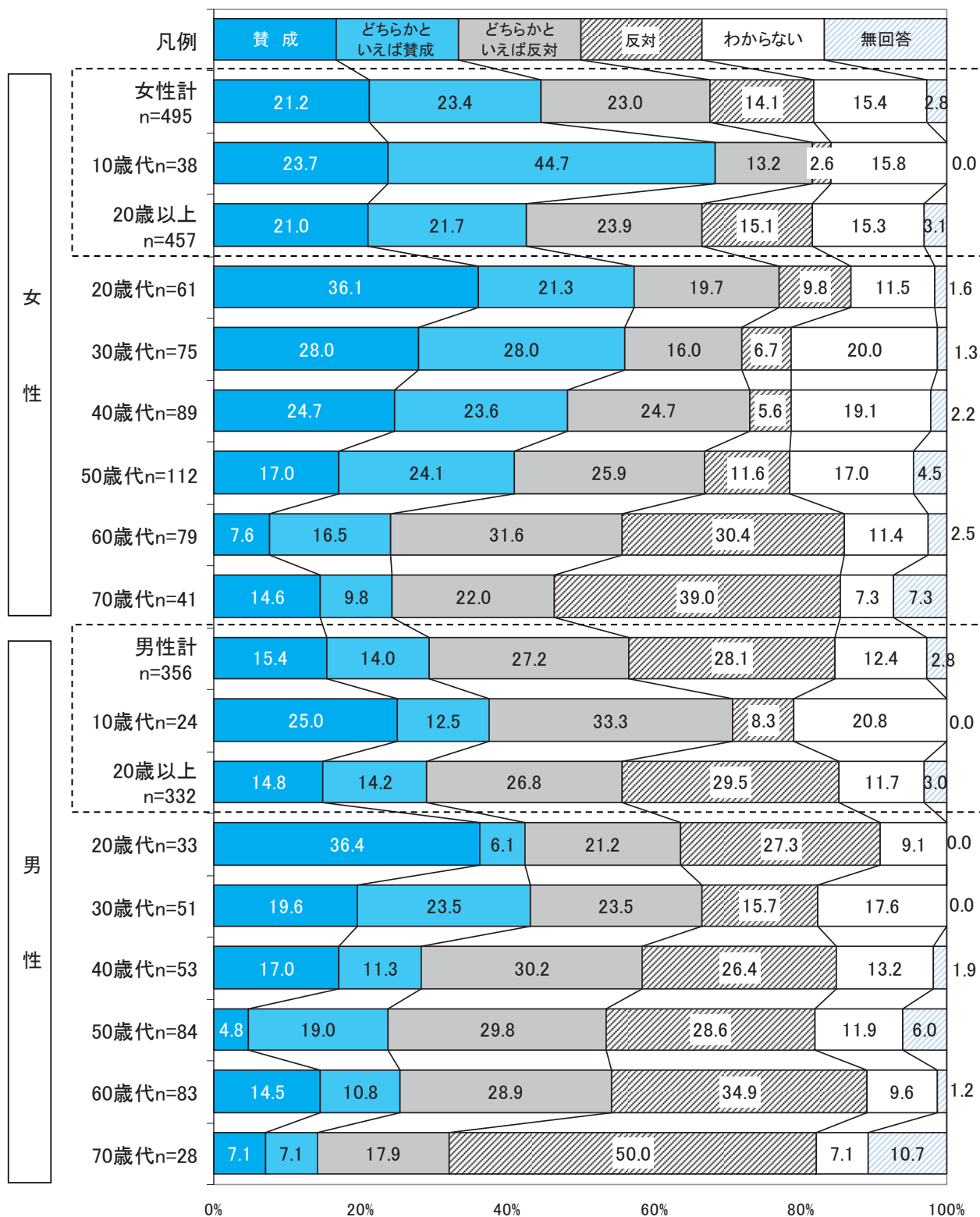
前回の調査結果と比較すると、『賛成』と回答した人の割合は「男性」で 4.6 ポイント(前回 24.4%)、「女性」で 7.2 ポイント(前回 35.5%)高くなっている。

#### ◇性別

『賛成』と回答した人の割合は「女性」42.7%で、「男性」(29.0%)より 13.7 ポイント高くなっている。

#### ◇性・年代別

女性は「60 歳代」を除き、年齢が低いほど『賛成』と回答した人の割合が高い。男性では「20 歳代」「30 歳代」の若年層で『賛成』の割合が高く、『40 歳代以上』で『賛成』の割合が低くなっている。



## (2) 家庭生活での役割分担

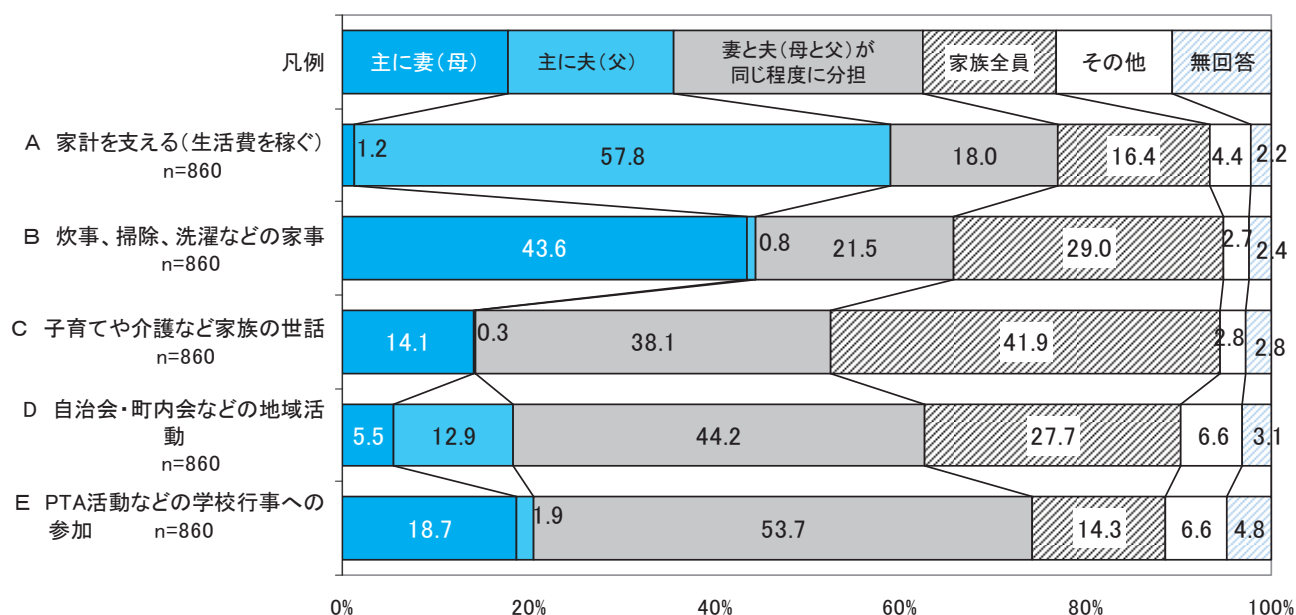
問2 家庭での役割分担について、どう思いますか。

### ① その役割を行うべきと思う人

- 「妻と夫が同じ程度」「家族全員」で分担と考える人が多い

「家計を支える」は「主に夫」(57.8%)、「炊事・掃除・洗濯などの家事」は「主に妻」(43.6%)と回答した人が多い。

一方、ほかの3項目では「主に妻」または「主に夫」と回答した人の割合は2割程度(「子育てや介護」14.4%、「自治会・町内会などの地域活動」18.4%、「学校行事への参加」20.6%)で、「妻と夫が同じ程度に分担」または「家族全員」と回答した人が多くなっている。

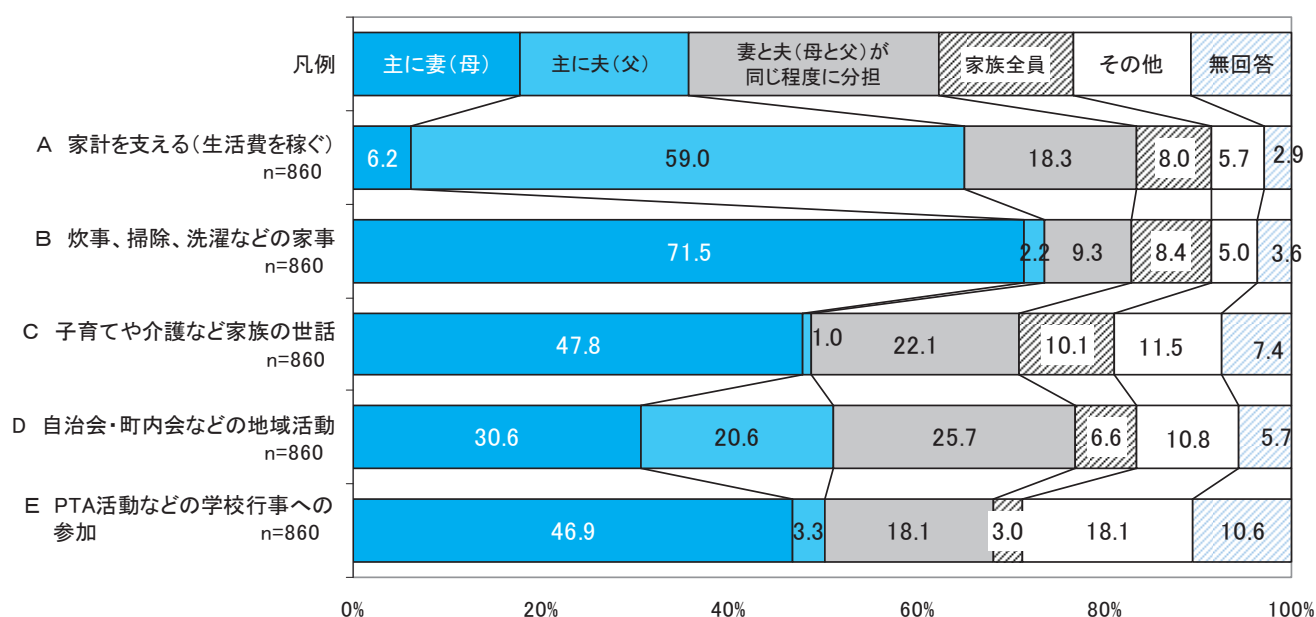


## ② 実際にその役割を行っている人

- 実際には「家計は夫」「家事・育児は妻」が担う場合が多い。20 歳代以上では「家計は夫」が 10.5 ポイント減少

「家計を支える」は「主に夫」(59.0%)、「炊事・掃除・洗濯などの家事」は「主に妻」(71.5%)と回答した人が多い。

「子育てや介護」「学校行事への参加」では「主に妻」と回答した人が多い。「自治会・町内会などの地域活動」では「主に妻」(30.6%)、「妻と夫が同じ程度」(25.7%)、「主に夫」(20.6%)と続いている。



### ◆20 歳代以上結果

全体の結果とほぼ同じ傾向となっている。

#### ・「家計を支える」

前回の調査結果と比較すると、前回、今回ともに「主に夫」が最多だが、今回の結果(59.7%)は前回(70.2%)より 10.5 ポイント減少している。

#### ・自治会・町内会などの地域活動

前回とほぼ同じ割合であるが、「主に夫」(20.9%)は前回(25.9%)より 5.0 ポイント減少している。

#### ・PTA 活動などの学校行事への参加

前回とほぼ同じ割合であるが、「妻と夫が同じ程度に分担」(17.7%)は前回(27.2%)より 9.5 ポイント減少している。

#### ◇性別

「家計を支える」では「主に夫」と回答した割合が女性より男性が 8 ポイント高い。「炊事・掃除・洗濯などの家事」「子育てや介護など家族の世話」では「主に妻」と回答した割合が、「男性」より「女性」が約 10 ポイント高くなっている。

### (3)家事にかかる時間

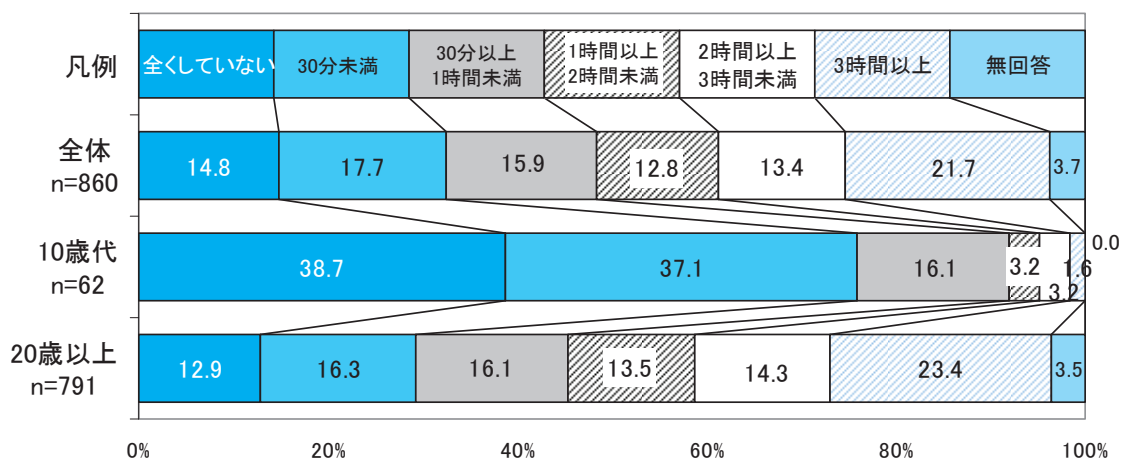
問3 1日に平均してどれくらいの時間を家事(育児・介護を含む)にかけていますか。

#### A 平日

- 「女性」の『30 歳代以上』の約 6 割が『2 時間以上』と回答

「3 時間以上」(21.7%)が最も多く、次いで「30 分未満」(17.7%)、「30 分以上 1 時間」(15.9%)。「全くしていない」は 14.8%。

性別でみると、「3 時間以上」と回答した人は「女性」の 33.7%に対し「男性」は 5.3%と 28.4 ポイントも低くなっている。また、「男性」で「全くしていない」人は 25.0%となっている。



#### ◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

「全くしていない」が 38.7%で全体結果より 23.9 ポイント高い。『1 時間以上』と回答した人は 8.0%。

#### ◇性別

「女性」では「30 分未満」が 42.1%で最も多い。

「全くしていない」の回答割合は「女性」(28.9%)より「男性」(54.2%)が 25.3 ポイント高くなっている。

#### ◆20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

前回の調査結果と比較すると、ほぼ同じ傾向となっている。

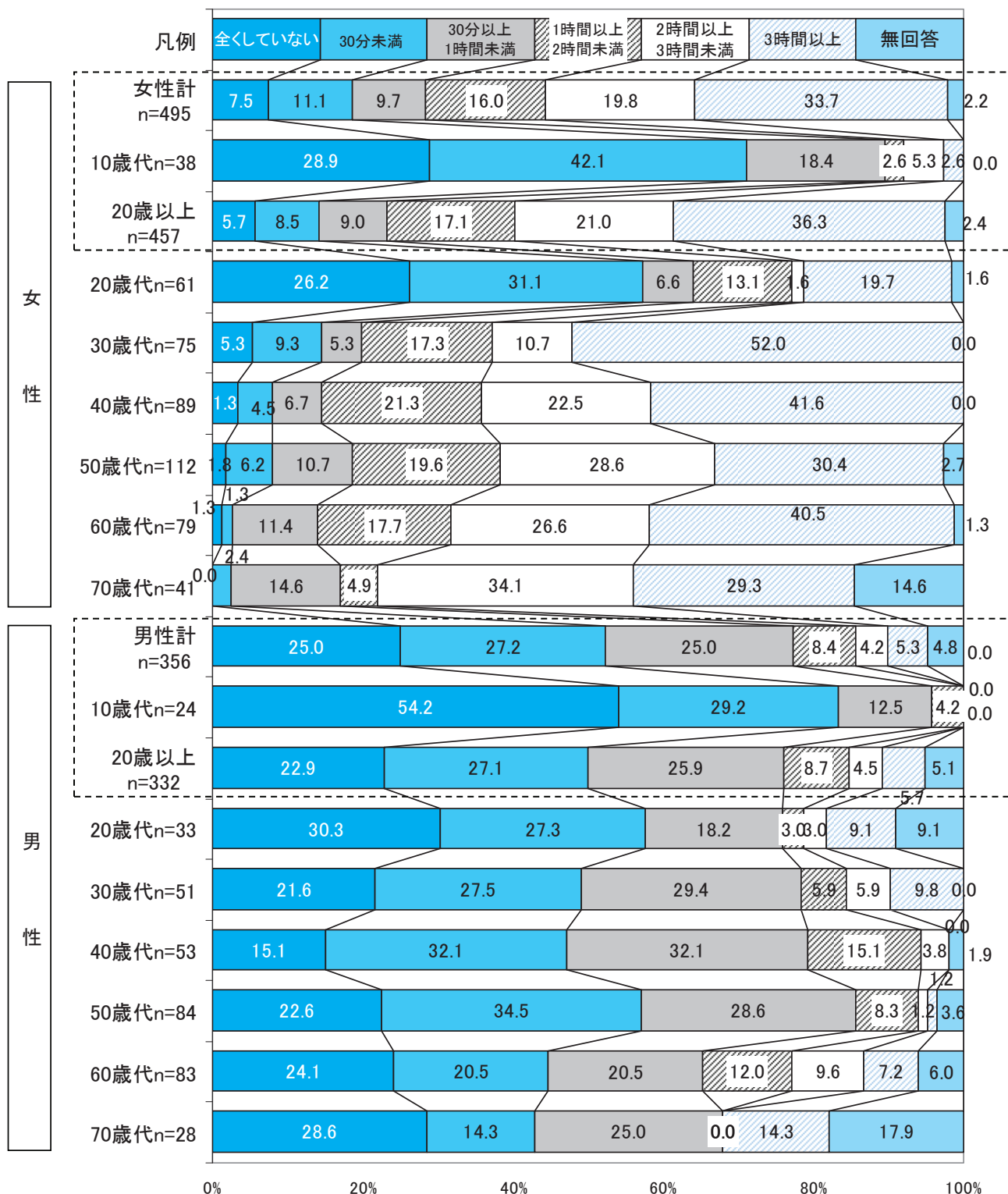
#### ◇性別

「3 時間以上」の回答割合は「女性」が 36.3%で「男性」(5.7%)より 30.6 ポイント高い。一方、「全くしていない」の回答割合は「女性」(5.7%)より「男性」(22.9%)が 17.2 ポイント高くなっている。

#### ◇性・年代別

「女性」では、「全くしていない」または「30 分未満」の人は「40 歳代」以下の層になると、年齢が低くなるほど多い。「3 時間以上」と回答した人は「30 歳代」(52.0%)で最も多く、「30 歳代」以上のすべての年齢層で「2 時間以上 3 時間未満」「3 時間以上」をあわせた割合が約 6 割を超えている。

「男性」では、「全くしていない」人は「20 歳代」(30.3%)で最も高い。「30 歳代」「40 歳代」「50 歳代」では 3 割前後が「30 分以上 1 時間未満」と回答し、他に比べて高くなっている。

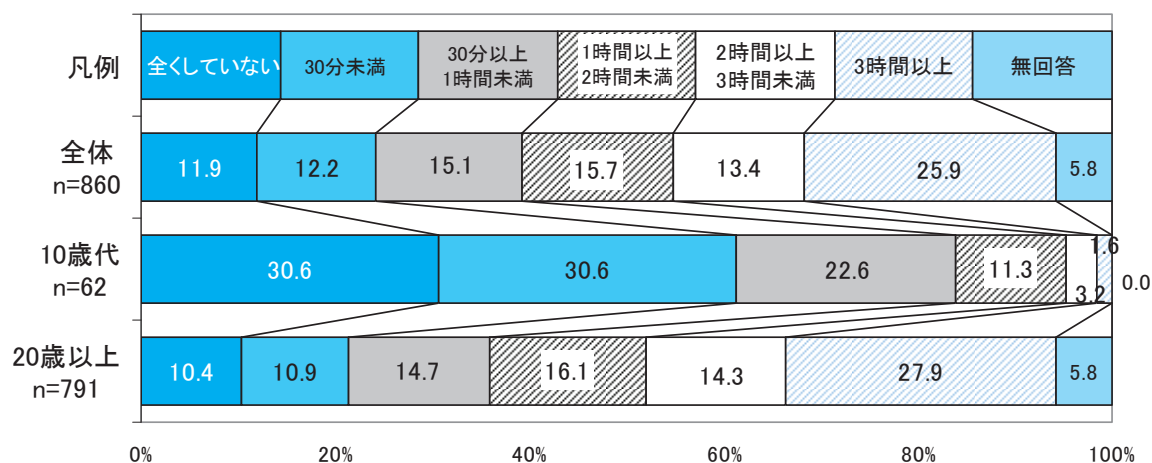


## B 休日

- 4人に1人が「3時間以上」と回答

「3 時間以上」(25.9%)が最も多く、次いで「1 時間以上 2 時間未満」(15.7%)、「30 分以上 1 時間」(15.1%)となっている。一方、「全くしていない」は 11.9%。

性別でみると、「3 時間以上」と回答した人は「女性」の 38.2%に対し「男性」は 9.3%と 28.9 ポイント低い。また、「男性」で「全くしていない」人は 19.9%となっている。



### ◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

「全くしていない」が 30.6%で全体結果より 18.7 ポイント高い。約 8 割が『1 時間未満』と回答している。

#### ◇性別

「女性」では「30 分以上 1 時間未満」が 31.6%で最も多い。

「全くしていない」の回答割合は「女性」(21.1%)より「男性」(45.8%)が 24.7 ポイント高くなっている。

### ◆20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

前回の調査結果と比較すると、ほぼ同じ傾向となっている。

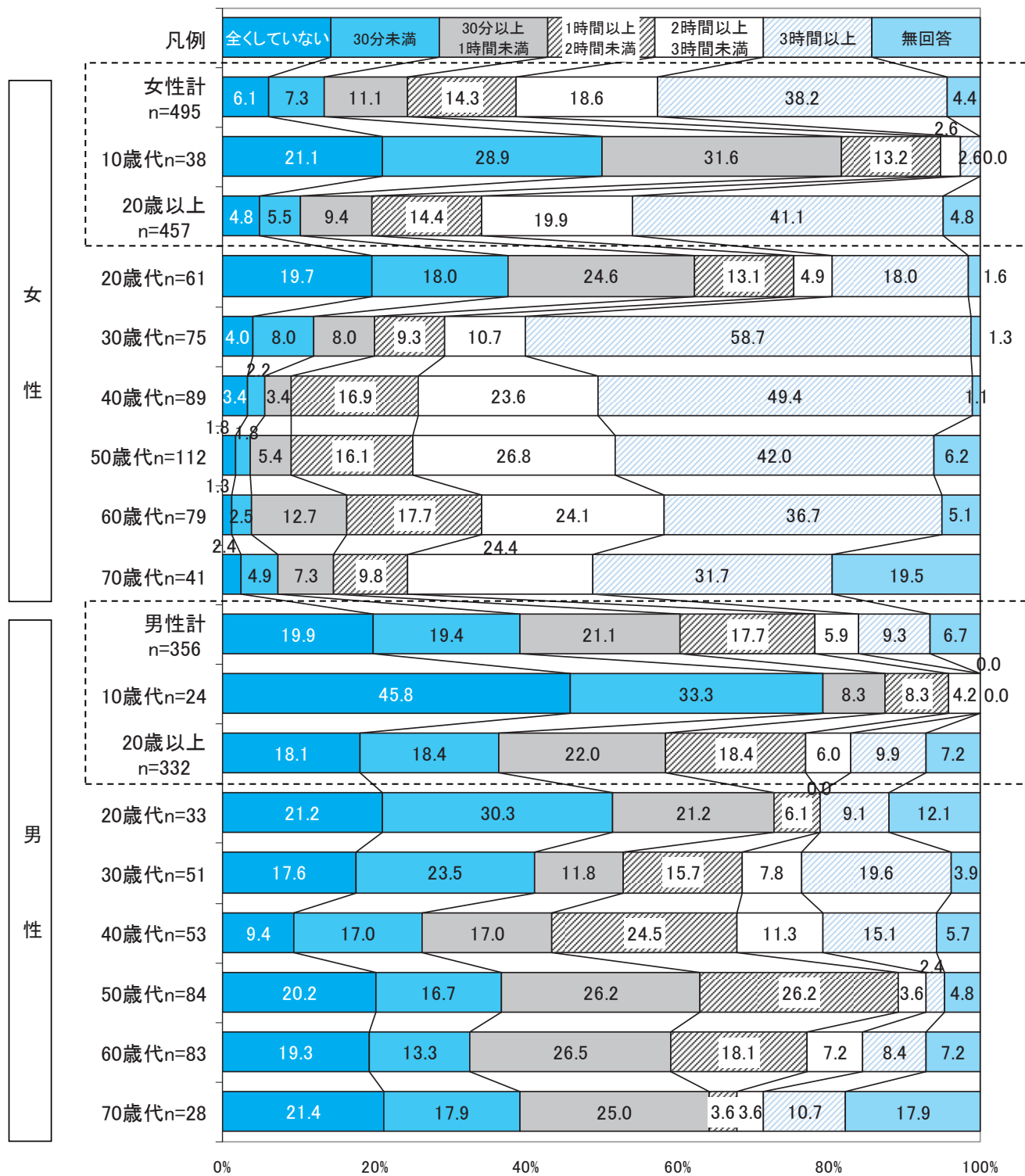
#### ◇性別

「3 時間以上」の回答割合は「女性」が 41.1%で「男性」(9.9%)より 31.2 ポイント高い。一方、「全くしていない」の回答割合は「女性」(4.8%)より「男性」(18.1%)が 13.3 ポイント高くなっている。

#### ◇性・年代別

「女性」では、「全くしていない」または「30 分未満」の人は「50 歳代」から年齢層が低いほど多い。「3 時間以上」と回答した人は「30 歳代」(58.7%)で最も多くなっている。

また、「男性」でも「3 時間以上」と回答した人は「30 歳代」(19.6%)で最も多くなっている。「40 歳代」(24.5%)、「50 歳代」(26.2%)では 4 人に 1 人が「1 時間以上 2 時間未満」と回答している。



#### (4)「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の関わり方

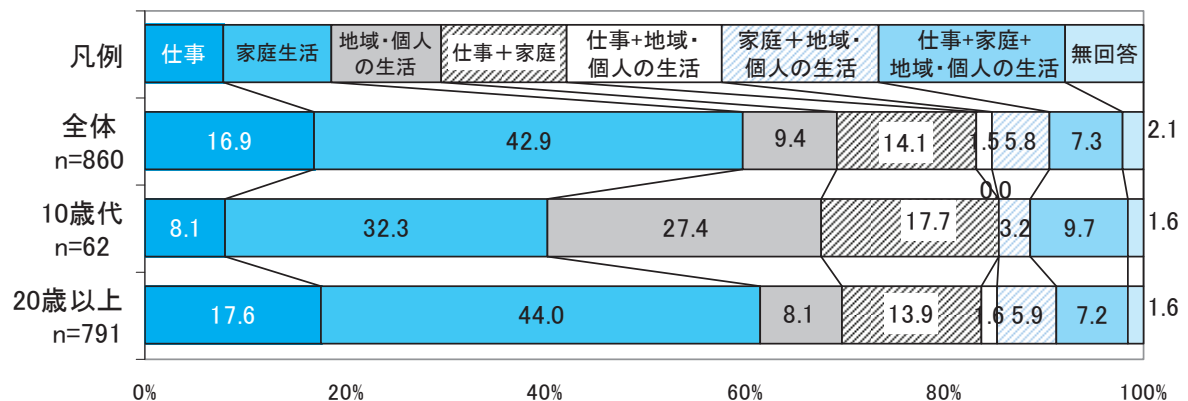
問4 仕事と生活について何を優先したいですか。(〇はいくつでも)

<希望>

##### ● 「家庭生活」を優先したいが最多の 42.9%

「家庭生活」を優先したいがもっとも多く 42.9%、次いで、「仕事」を優先したい(16.9%)、「仕事+家庭」を優先したい(14.1%)となっている。

性別でみると、「家庭生活」を優先したいは、「男性」(35.4%)より「女性」(48.7%)が 13.3 ポイント高く、「仕事」を優先したいでは、「女性」(10.5%)より「男性」(25.8%)が 15.3 ポイント高くなっている。



##### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

全体結果と比べると、「家庭生活」(32.3%)は 10.6 ポイント低く、「地域・個人の生活」(27.4%)で 18.0 ポイント高くなっている。

##### ◇性別

性別でみると、「家庭生活」は「女性」(23.7%)より「男性」(45.8%)が 22.1 ポイント高くなっている。一方で、「地域・個人の生活」は「男性」(20.8%)より「女性」(31.6%)が 10.8 ポイント高くなっている。

##### ◆20歳代以上結果

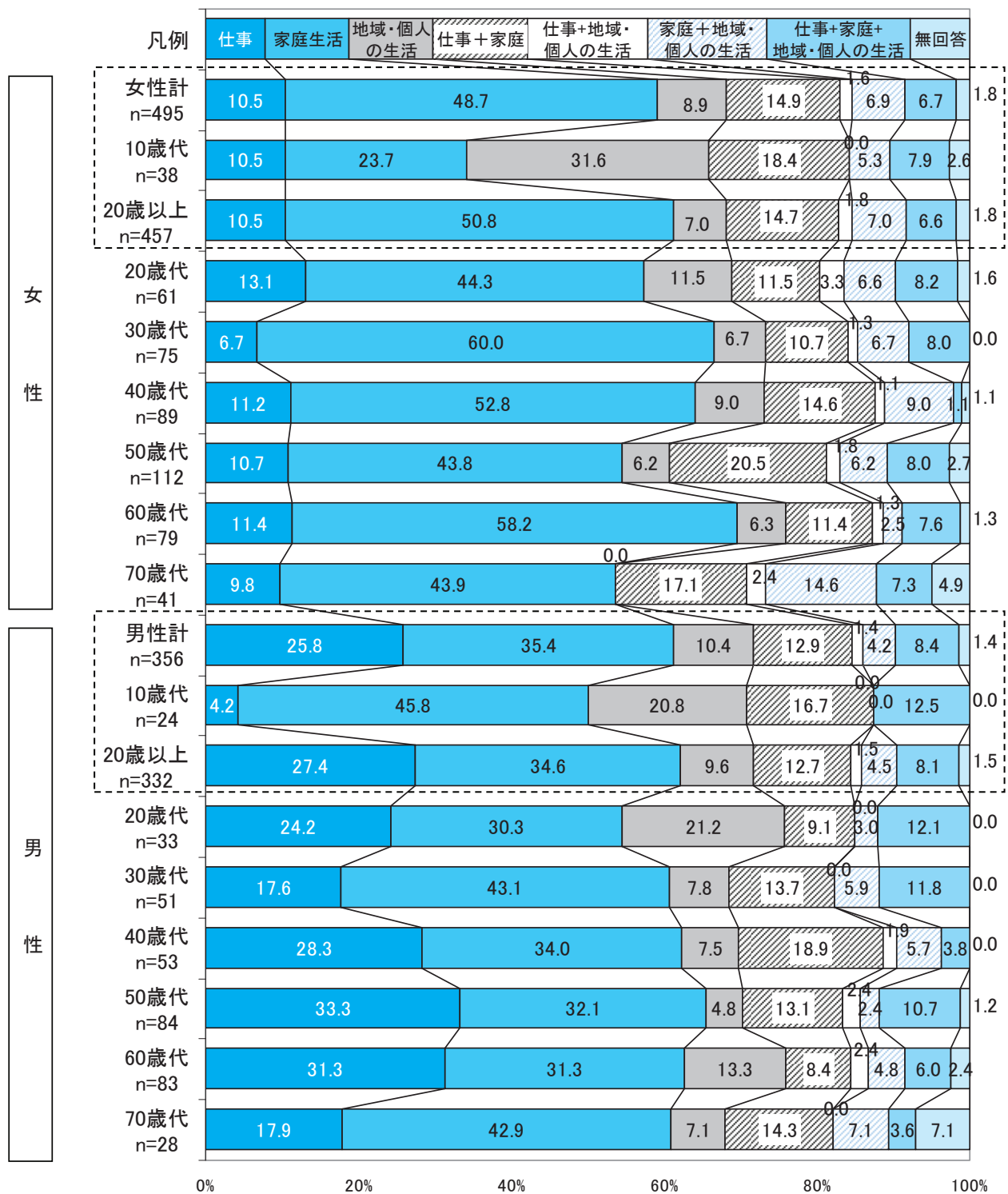
全体結果とほぼ同じ割合となっている。

前回の調査結果と比較すると、回答割合の順位に違いがみられる。

前回…①「仕事+家庭生活」を優先したい、②「家庭生活」を優先したい、③「仕事+家庭生活+地域・個人の生活」のいずれも優先したい。今回は①「家庭生活」を優先したい、②「仕事」を優先したい、③「仕事+家庭生活」を優先したいとなっている。ただし、前回調査は単一回答、今回調査は「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の 3 つの選択肢の複数回答結果から前回の選択肢と同様に再集計したことに留意する必要がある。

##### ◇性年代別

男女とも「30歳代」で「家庭生活」を優先したいの回答割合がもっとも高くなっている。

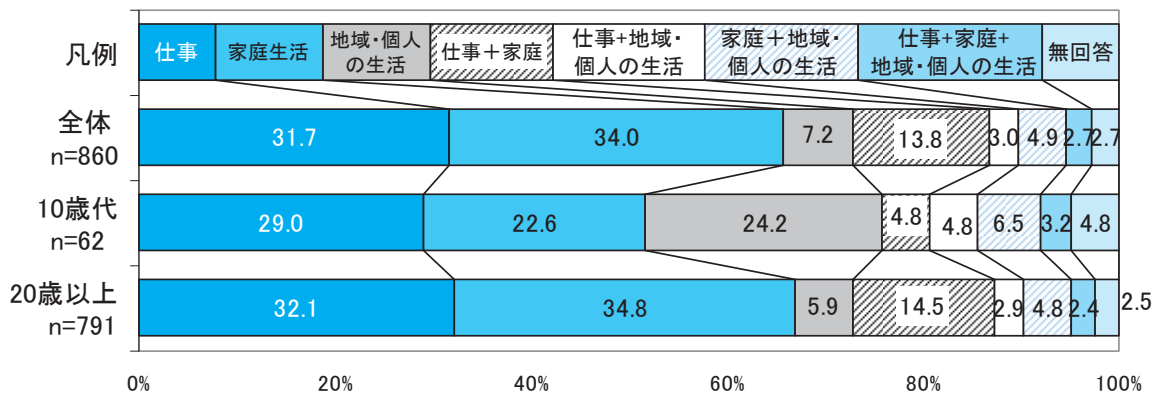


問5 現実に何を優先していますか。(〇はいくつでもかまいません)

<現状>

- 優先したいことに比べて現状は「仕事を優先」が 14.8 ポイント高い

「家庭生活」が 34.0%で最も多く、次いで「仕事」(31.7%)、「仕事+家庭」(13.8%)となっている。  
この結果を前問の「優先したい」項目と比較すると、「仕事」は 14.8 ポイント高く、「家庭生活」が 8.9 ポイント低くなっている。



◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

全体結果と比べて「地域・個人の生活」(24.2%)が 17.0 ポイント高くなっている。

◇性別

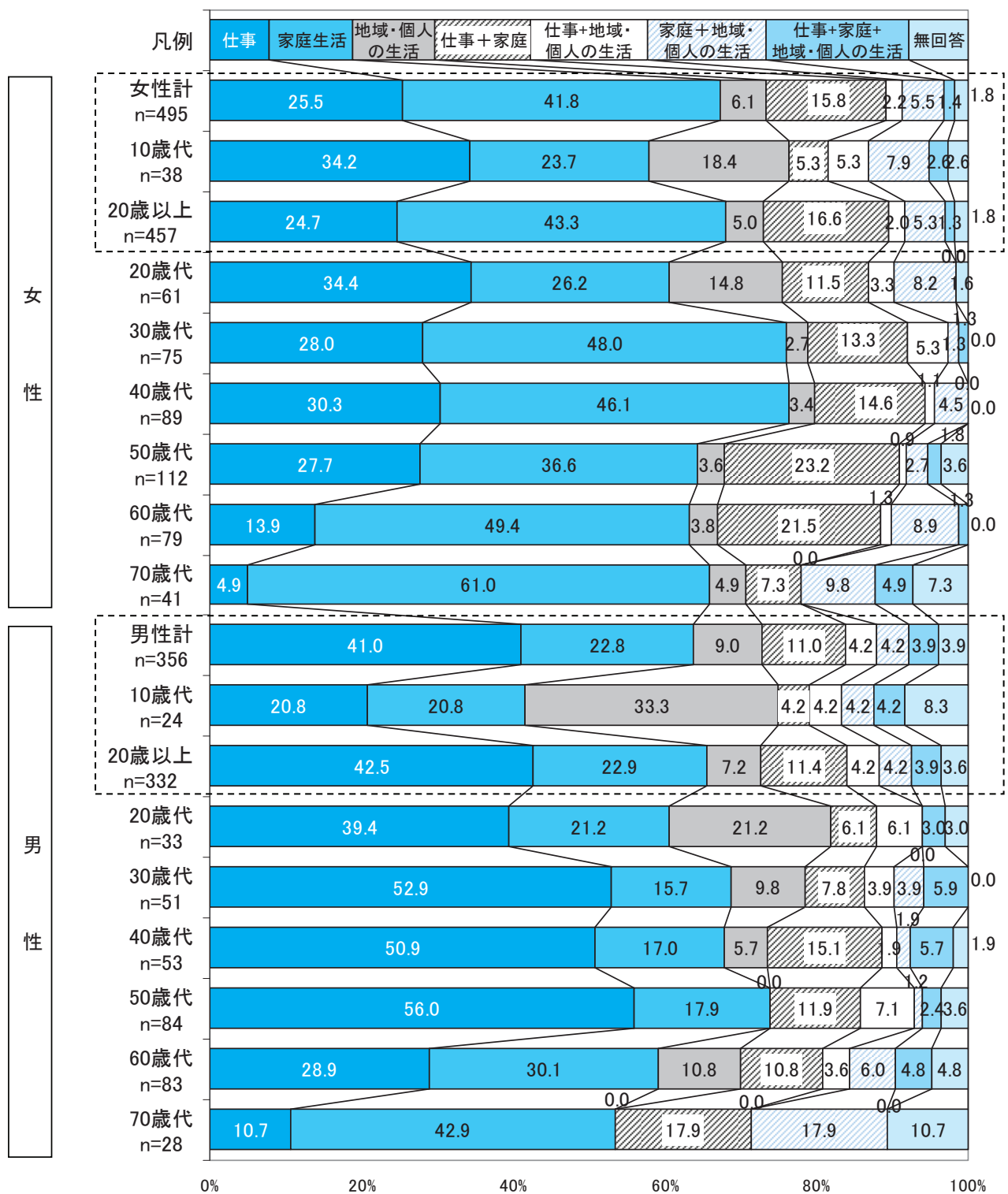
「仕事」を優先しているは、「男性」(20.8%)より「女性」(34.2%)で高くなっている。一方、「男性」は「地域・個人の生活」の回答割合が高く 33.3%となっている。

◆20 歳代以上結果

前回の結果と比較すると、「仕事」、「家庭生活」のどちらの割合も増加している。

◇性・年代別

男性の「20 歳代」から「50 歳代」までは「家庭生活」より「仕事」を優先している回答が多く、女性の「30 歳代」以上の層は「仕事」よりも「家庭生活」を優先している回答が多くなっている。「地域・個人の生活」は男女とも「20 歳代」が最も高くなっている。



## 2 教育・子育て・介護について

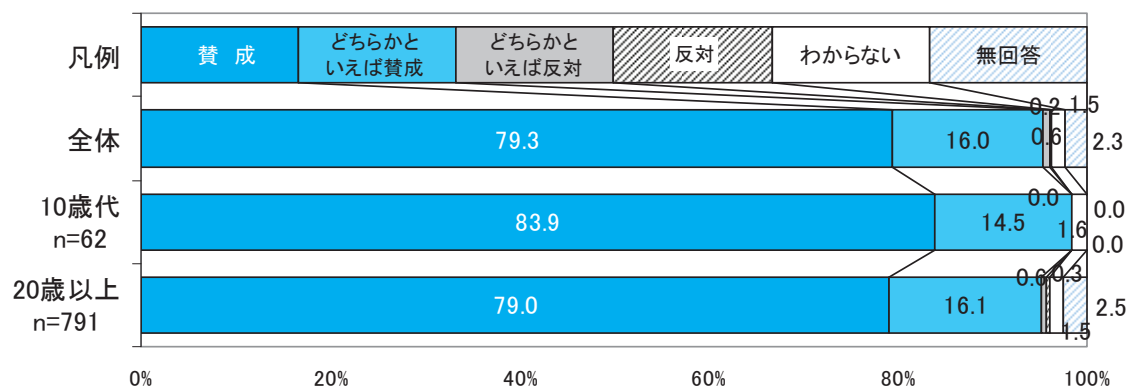
### (1)子どもの育て方

問6 子どもの育て方について、どのような考えをお持ちですか。

#### A 女の子も男の子も、経済的に自立できるように育てたほうがよい

- 女の子も男の子も「経済的に自立できるように育てたほうがよい」の回答が9割強

「賛成」が79.3%を占め、「どちらかといえば賛成」を合わせた回答割合は95.3%となっている。

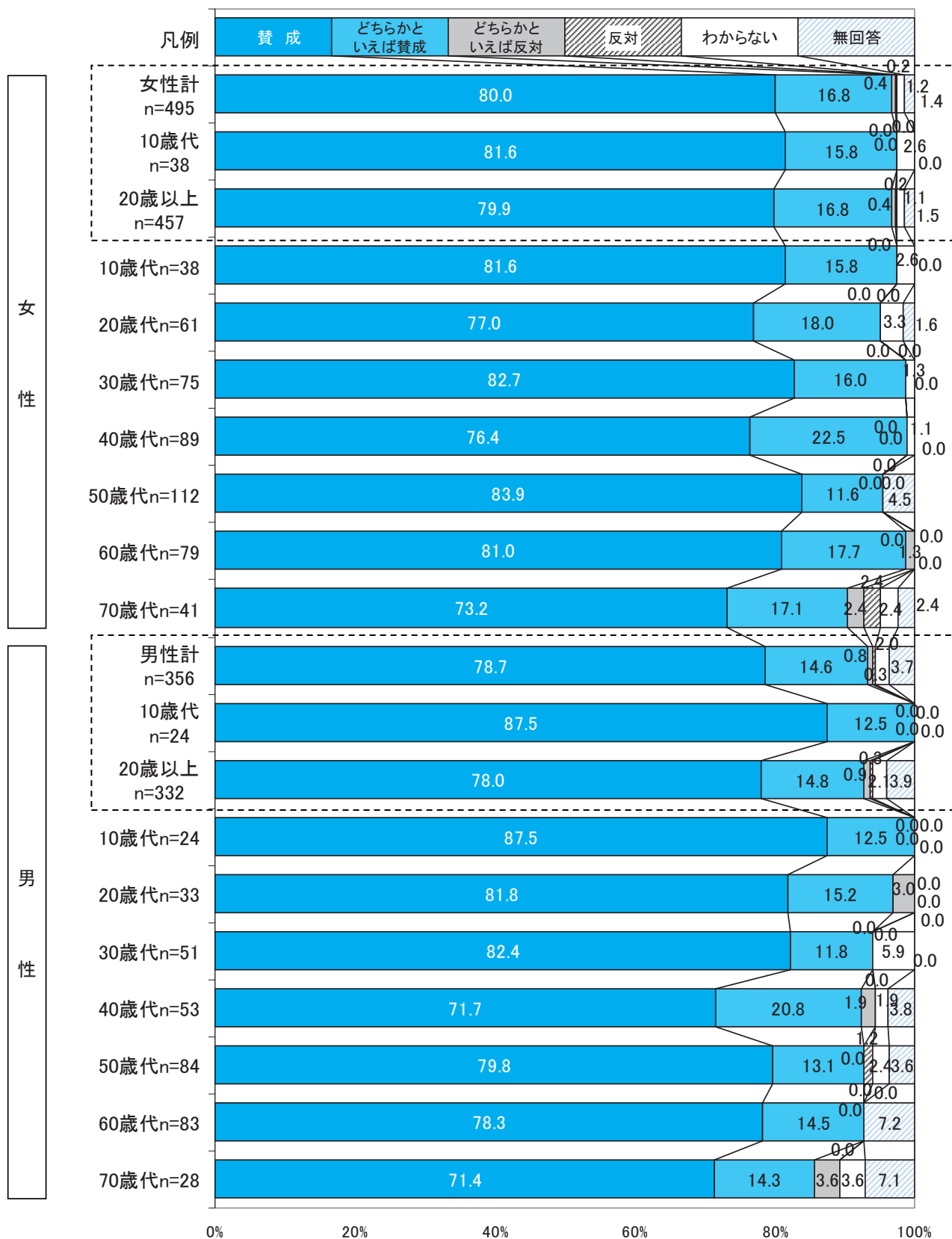


◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

「男性」では『賛成』と回答した人の割合は 100.0%となっている。

◆20 歳代以上結果

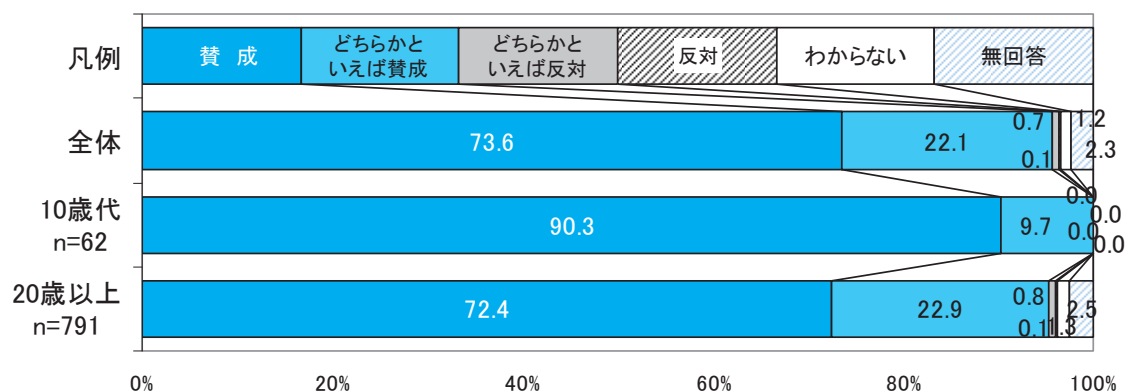
前回の調査結果と比較すると、『賛成』と回答した人の割合は 2.3 ポイント高くなっている(前回 92.8%)。



## B 女の子も男の子も、炊事、掃除、洗濯など、生活していくために必要な技術を身につけるように育てたほうがよい

- 女の子も男の子も「生活していくために必要な技術を身につけるように育てたほうがよい」の回答が9割強

「賛成」(73.6%)と「どちらかといえば賛成」(22.1%)をあわせた回答割合は 95.7%となっている。



### ◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

全体結果に比べ「賛成」が 90.3%と 16.7 ポイント高くなっている。

#### ◇性別

「男性」では『賛成』と回答した人の割合は 100.0%となっている。

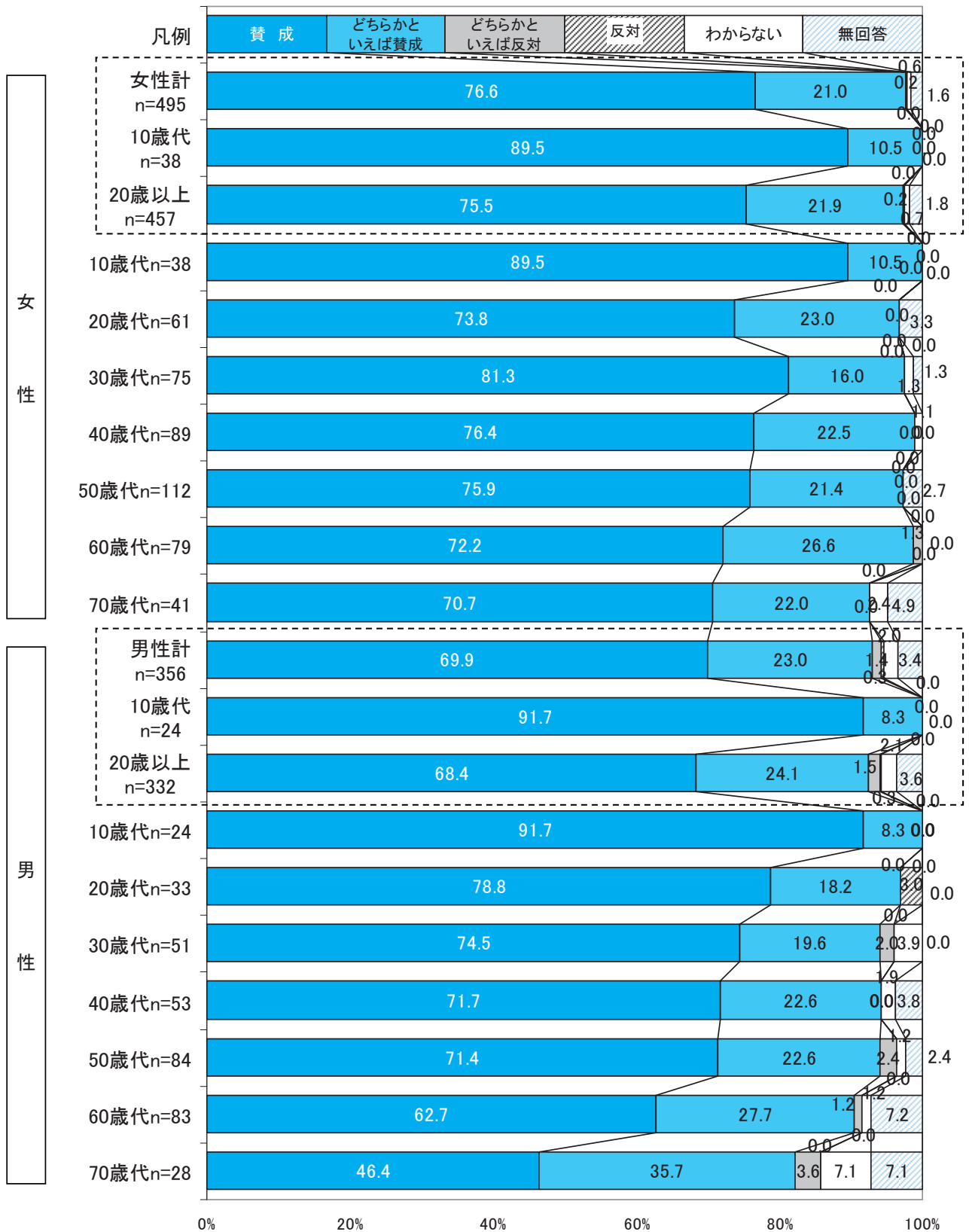
### ◆20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

前回の調査結果と比較すると、『賛成』と回答した人の割合は 4.6 ポイント高くなっている(前回 90.7%)。

#### ◇性・年代別

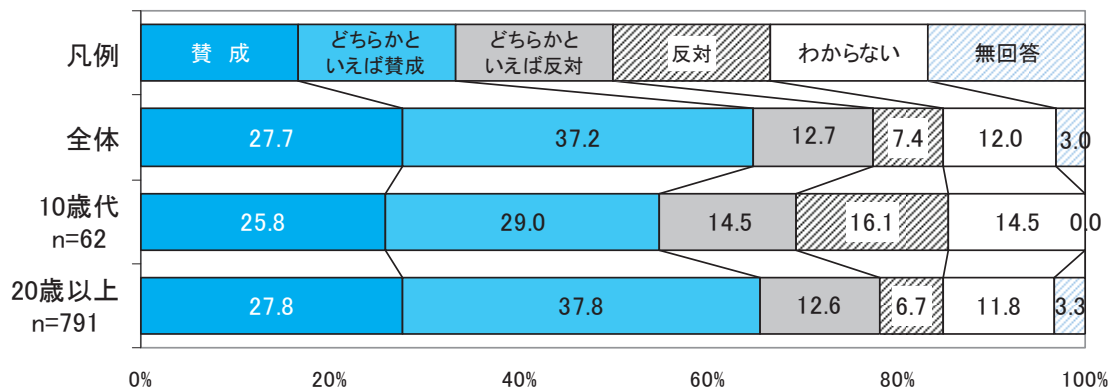
「男性」では年齢が高いほど「賛成」の回答割合が低く、「70 歳代」では 46.4%となっている。



## C 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよい

- 子どもの教育に「女(男)らしさ」を希望する『賛成』は前回調査から 8.3 ポイント減

「賛成」(27.7%)と「どちらかといえば賛成」(37.2%)をあわせた回答割合は 64.9%となっている。



### ◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

全体結果に比べ『反対』(30.6%)が 10.5 ポイント高くなっている。

#### ◇性別

「反対」の回答割合は、「女性」(21.1%)より「男性」(8.3%)が 12.8 ポイント低い。

「男性」では 25.0%が「わからない」と回答している。

### ◆20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

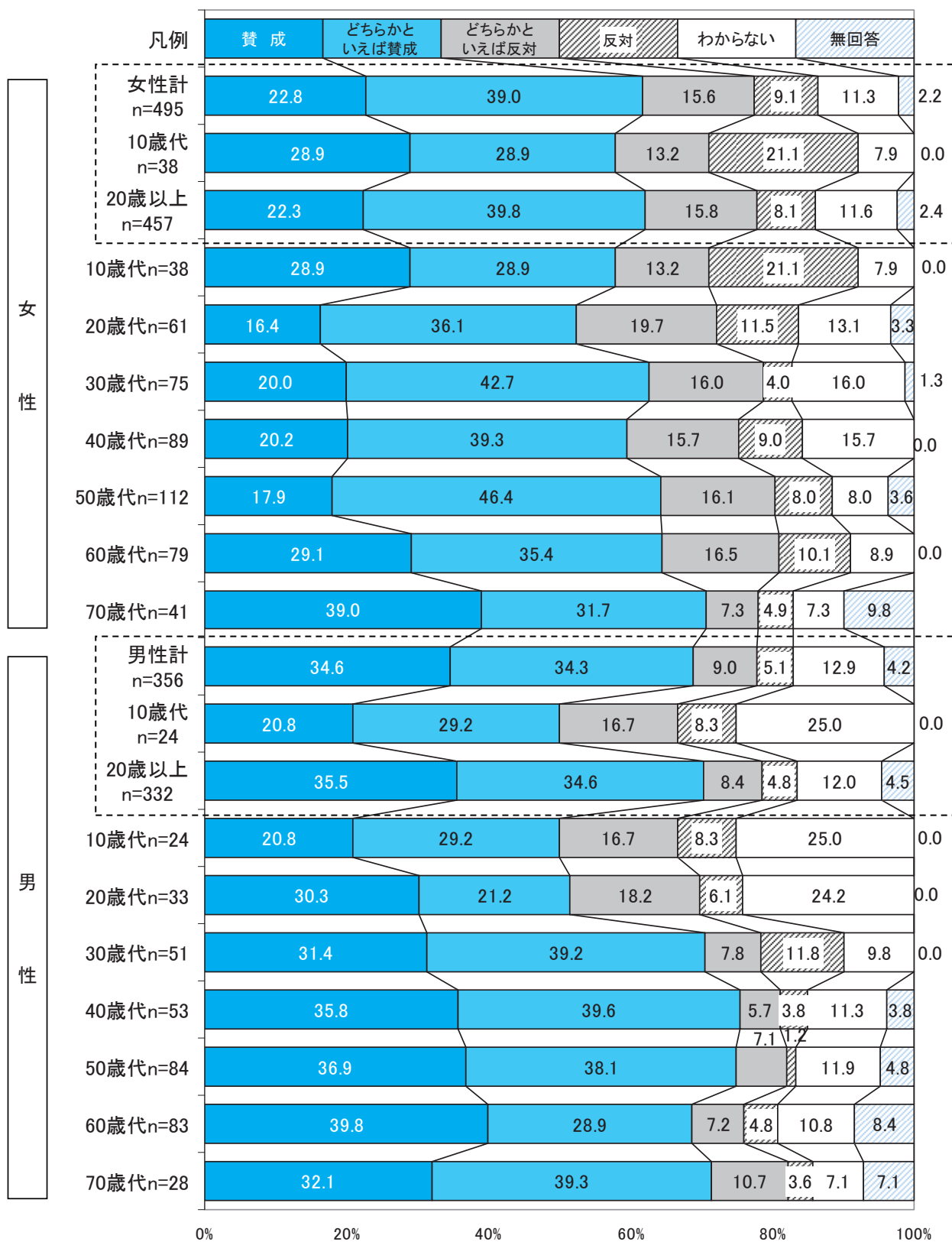
前回の調査結果と比較すると、『賛成』と回答した人の割合は 8.3 ポイント低くなっている(前回 73.9%)。

#### ◇性別

『賛成』と回答した割合は「女性」(62.1%)より「男性」(70.1%)が 8.0 ポイント高くなっている。

#### ◇性・年代別

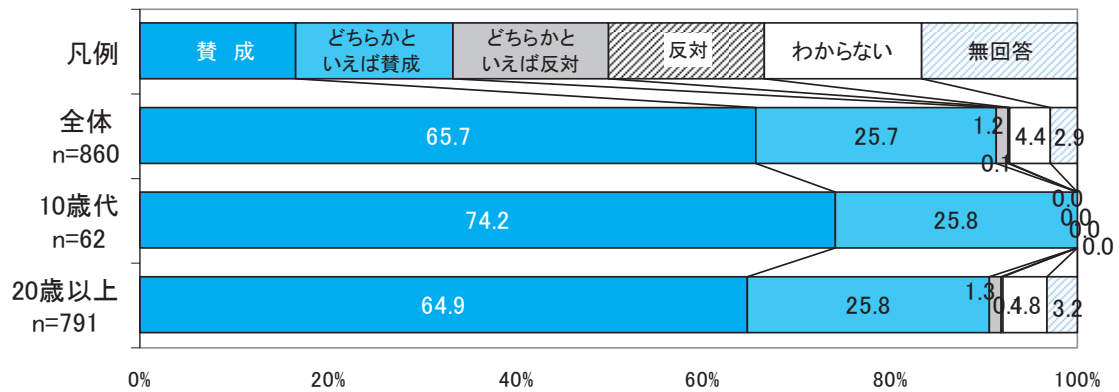
「男性」では『20 歳以上』のすべての層で「賛成」の回答割合が3割を超える。一方、「女性」では『20 歳代から 50 歳代』で「賛成」の回答割合は 2 割前後となっている。



## D 女の子も男の子も、生まれ持った個性・才能を可能な限り活かして育てたほうがよい

- 女の子も男の子も、「個性・才能を活かして育てるほうがよい」が9割を占める

「賛成」(65.7%)と「どちらかといえば賛成」(25.7%)をあわせた回答割合は 91.4%となっている。



### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

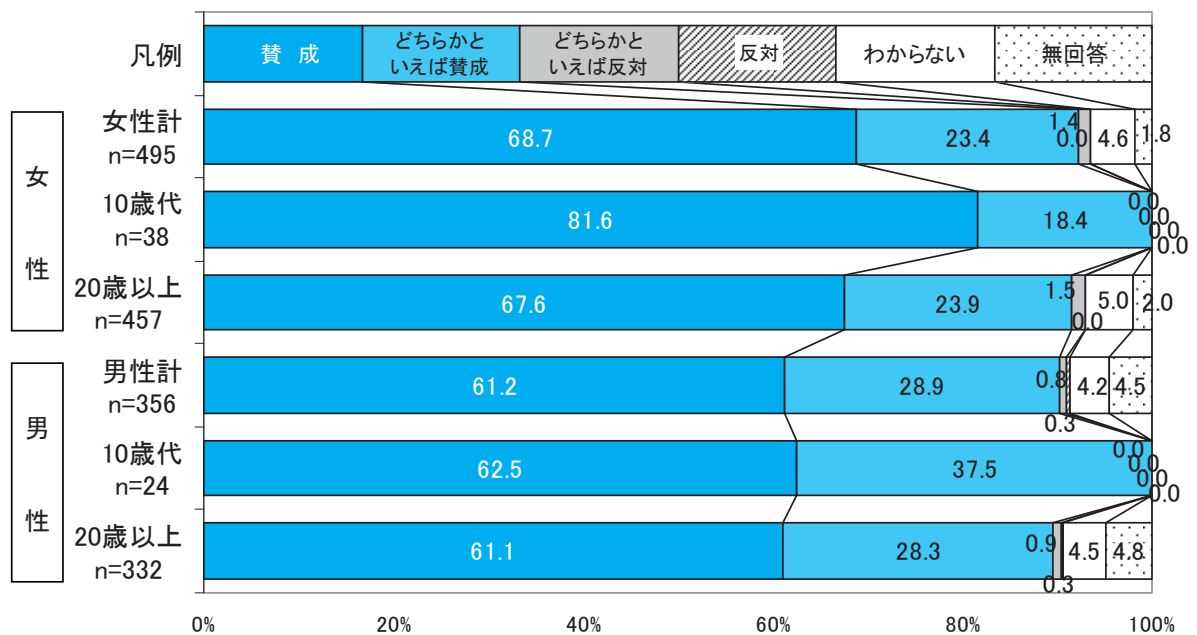
『賛成』が 100.0%となっている。

#### ◇性別

「賛成」と回答した人の割合は、「女性」(81.6%)が「男性」(62.5%)より 19.1 ポイント高くなっている。

### ◆20歳代以上結果

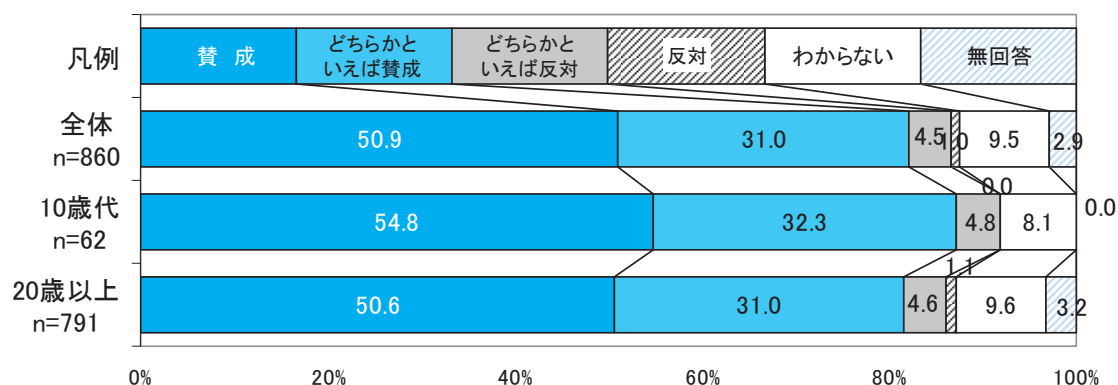
全体結果とほぼ同じ割合となっている。



## E 女の子も男の子も同じ程度の学歴を持たせたほうがよい

- 8割が女の子も男の子も「同程度の学歴」を希望と回答

「賛成」(50.9%)と「どちらかといえば賛成」(31.0%)をあわせた回答割合は 81.9%となっている。



### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

#### ◇性別

「賛成」と回答した人の割合は「男性」(58.3%)が「女性」(52.6%)より 5.7 ポイント高くなっている。

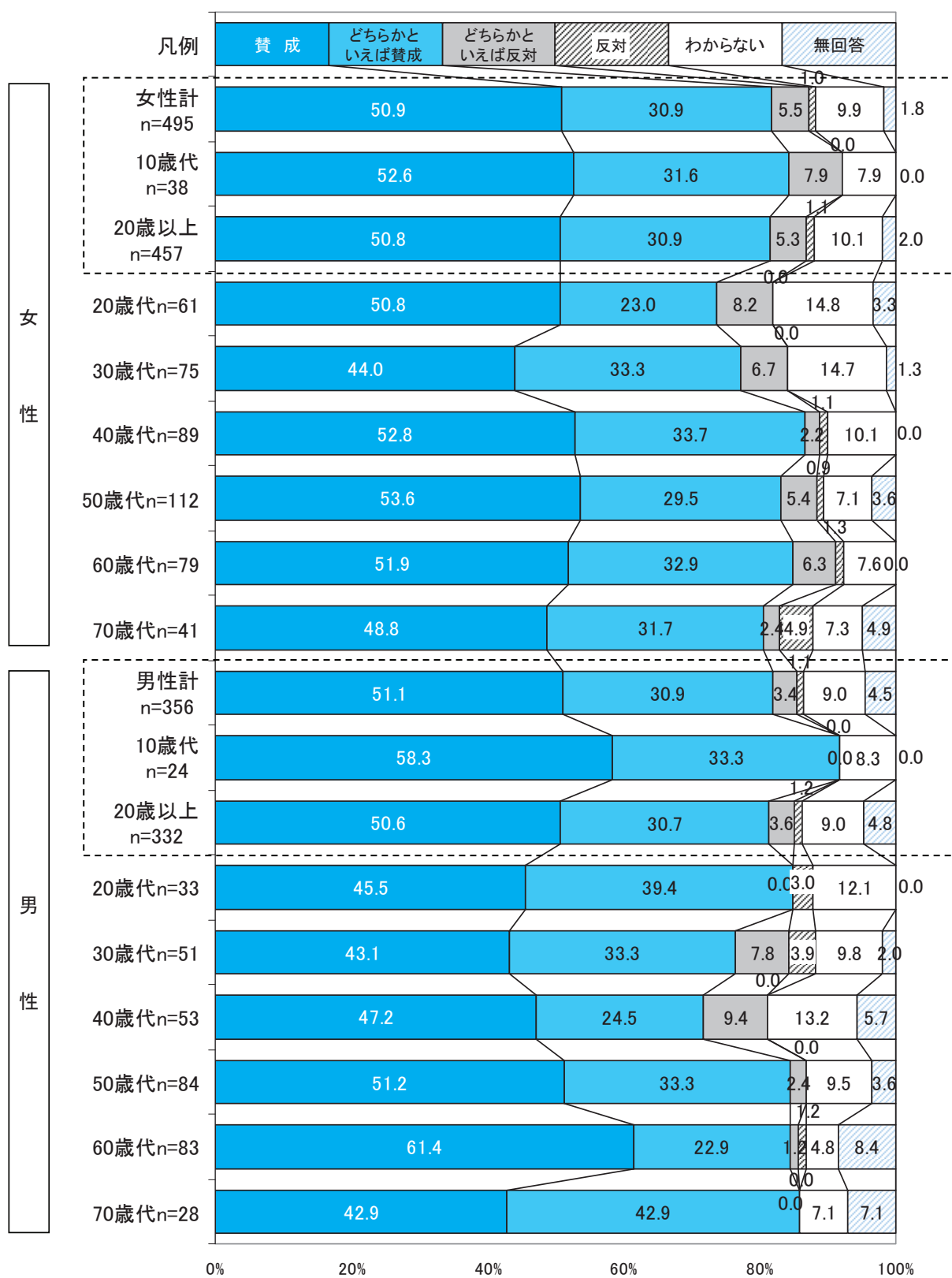
### ◆20歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

前回の調査結果と比較すると、『賛成』と回答した人の割合は 4.9 ポイント高くなっている(前回 77.0%)。

#### ◇性・年代別

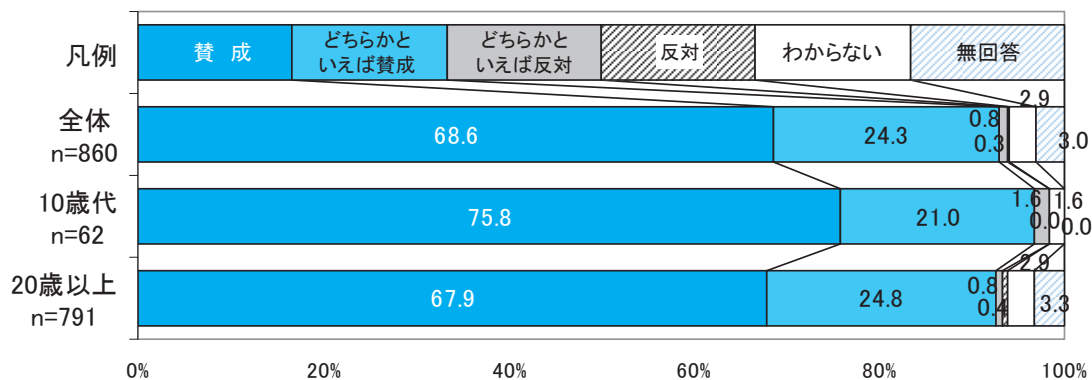
「賛成」の回答割合は「男性 60 歳代」で最も高く 61.4%となっている。



## F 女の子、男の子に限らず、好きな仕事を選ばせたほうがよい

- 約9割が女の子も男の子も「職業選択の自由」を望むと回答

「賛成」(68.6%)と「どちらかといえば賛成」(24.3%)をあわせた回答割合は 92.9%となっている。



### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

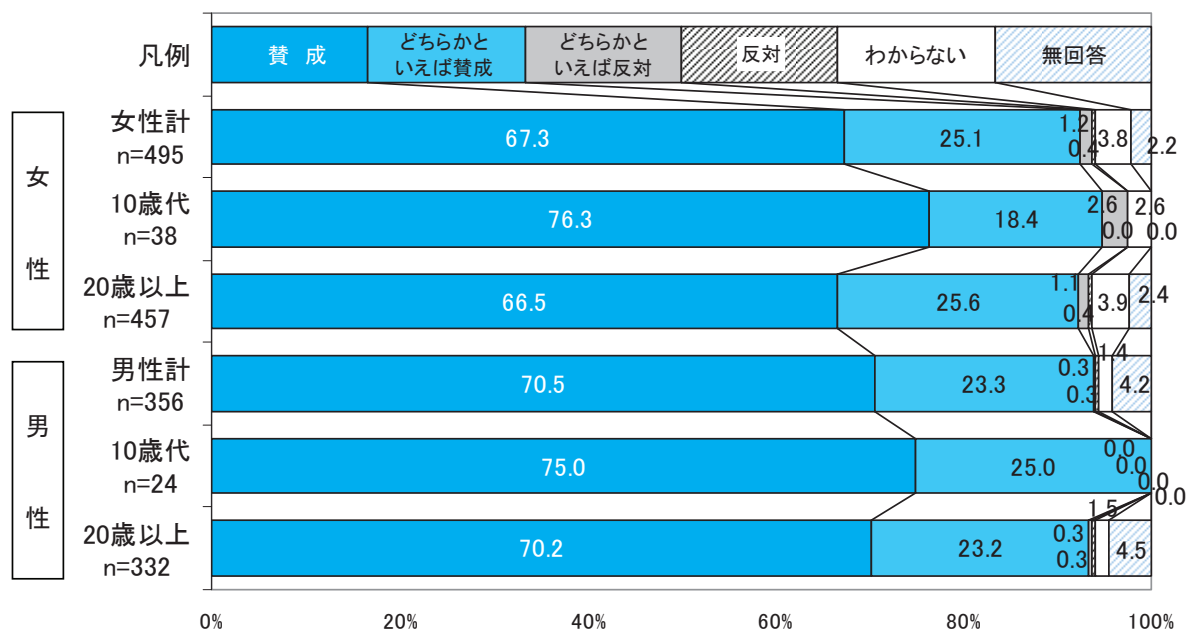
96.8%が『賛成』と回答している。

### ◇性別

大きな差はみられない。ただし、「男性」では『賛成』と回答した人の割合は 100.0%となっている。

### ◆20歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

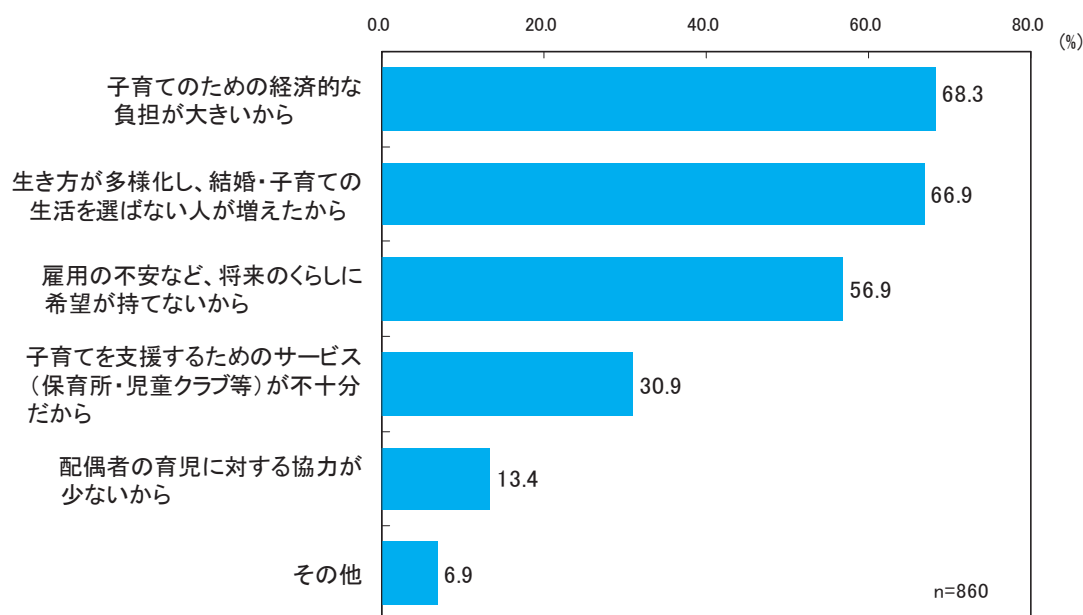


## (2)少子化の原因

問7 わが国では近年少子化傾向にあります、その理由は何だと思いますか。(3つ)

- 経済的理由、生き方の多様化と考える人が多い

「子育てのための経済的な負担が大きいから」(68.3%)が最も多く、次いで「生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから」(66.9%)、「雇用の不安など、将来の暮らしに希望が持てないから」(56.9%)と続いている。



### ◆20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

前回の調査結果と比較すると、「子育てのための経済的な負担が大きいから」は前回の 58.5%から 9.5 ポイント増加している。

#### ◇性別

「子育てのための経済的な負担が大きいから」と回答した人の割合は、「男性」(72.9%)が「女性」(64.6%)より 8.3 ポイント高くなっている。

#### ◇性・年代別

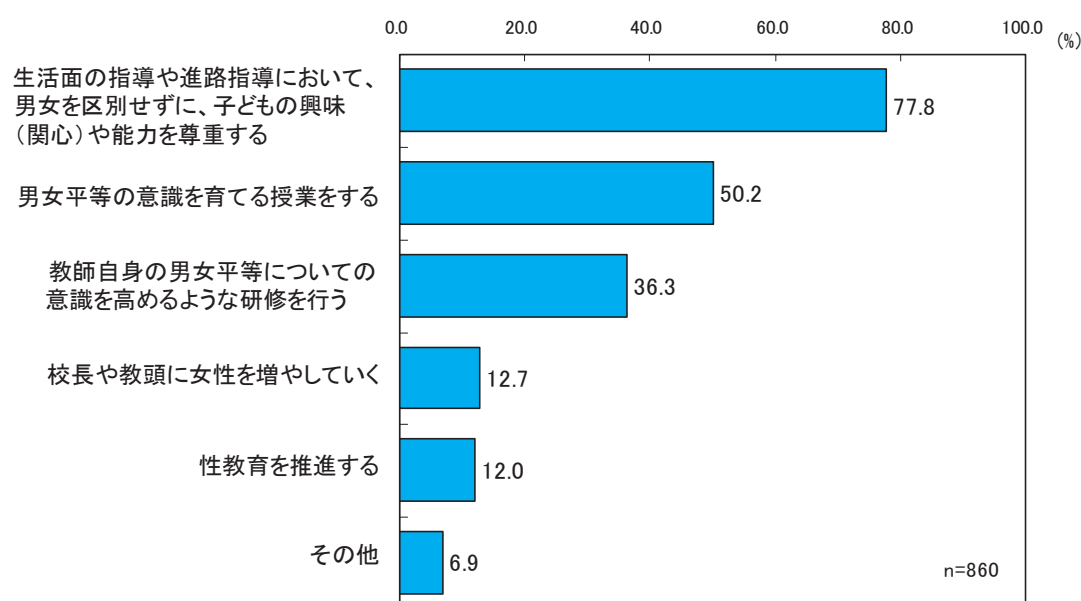
「子育てを支援するためのサービスが不十分だから」は「女性 30 歳代」(44.0%)で最も高くなっている。

### (3)男女の協力関係を築くために必要な学校での教育

問8 男女の望ましい協力関係をつくっていくために、学校教育の場でどのようなことに力を入れたほうがよいと思いますか。(3つ)

- 「生活面の指導や進路指導において、男女を区別せずに、子どもの興味(関心)や能力を尊重する」がいずれの層でも最も多い

「生活面の指導や進路指導において、男女を区別せずに、子どもの興味(関心)や能力を尊重する」が77.8%で最も多く、次いで「男女平等の意識を育てる授業をする」(50.2%)、「教師自身の男女平等についての意識を高めるような研修を行う」(36.3%)となっている。



#### ◆20歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

前回の調査結果との比較では、「教師自身の男女平等についての意識を高めるような研修を行う」(前回 49.1%、今回 36.8%)は 12.3 ポイント減少、「性教育を推進する」(前回 30.0%、今回 12.1%)は 17.9 ポイント減少している。

#### ◇性別

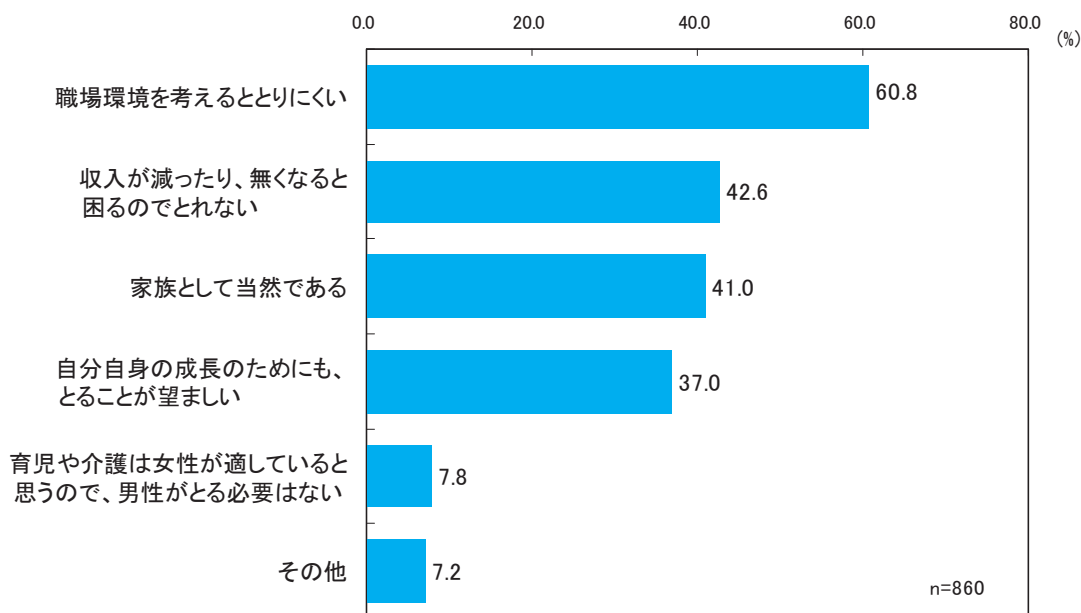
「男女平等の意識を育てる授業をする」では、「男性」(53.6%)が「女性」(48.4%)より回答割合が高いが、そのほかの項目ではすべて「女性」の回答割合が高くなっている。

#### (4) 男性の「育児休業」「介護休業」取得に関する考え

問9 男性が育児休業や介護休業をとることについてどう思いますか。

- 20 歳代の男性は育児・介護休業をとることに肯定的だが、30 歳代以上では「とりにくい」「とれない」と考える人が増える

「職場環境を考えるととりにくい」が 60.8%で最も多く、次いで「収入が減ったり、なくなると困るのでとれない」(42.6%)、「家族として当然である」(41.0%)、「自分自身の成長のためにも、とることが望ましい」(37.0%)となっている。



#### ◆20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

前回の調査結果を見てみると、前回は「育児休業」の取得については1位が「職場環境を考えるととりにくい」、「介護休業」の取得については1位が「他に介護する者がいない場合は、とることもやむを得ない」となっている。

#### ◇性・年代別

「家族として当然である」の項目は男性は「20 歳代」、女性は「60 歳代」で最も回答割合が高い。一方、「職場環境を考えるととりにくい」は男女とも「30 歳代」が 7 割を超え、「収入が減ったり無くなると困るのでとれない」は「女性 30 歳代」と「男性 50 歳代」で 5 割を超えて高くなっている。

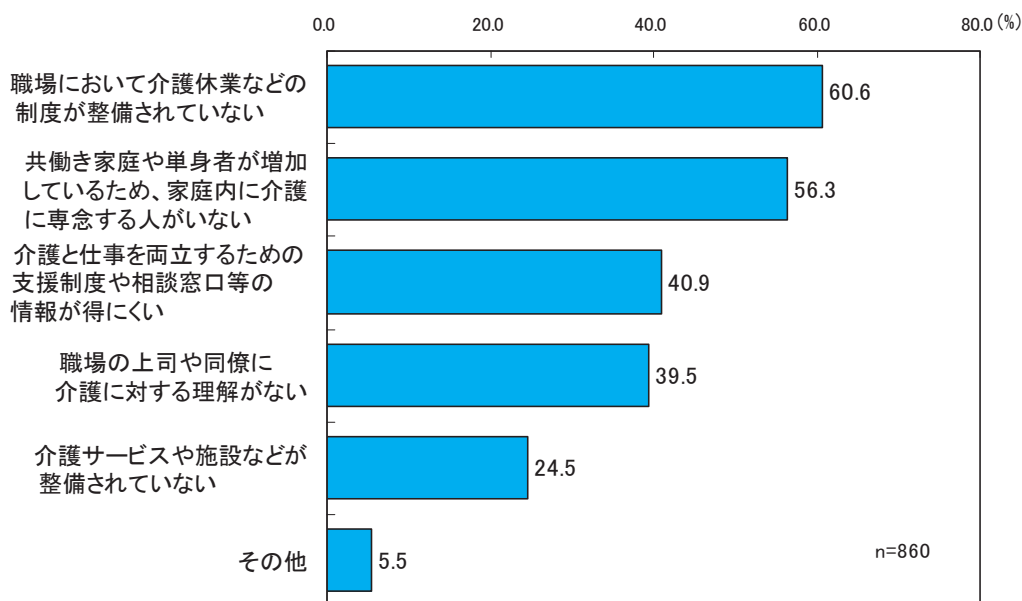
また、「女性 70 歳代」では「育児や介護は女性が適していると思うので、男性がとる必要はない」が 26.8%と高くなっている（「男性 70 歳代」は 10.7%）。

## (5)介護をするために転職、離職する人が増加する原因

問10 介護をするために転職、離職する人が増加していますが、何が原因だと思いますか。(3つ)

- 「職場において介護休業などの制度が整備されていない」からと約 6 割が回答

「職場において介護休業などの制度が整備されていない」が 60.6%で最も多く、次いで「共働き家庭や単身者が増加しているため、家庭内に介護に専念する人がいない」(56.3%)、「介護と仕事を両立するための支援制度や相談窓口等の情報が得にくい」(40.9%)、「職場の上司や同僚に介護に対する理解がない」(39.5%)となっている。



### ◆20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

#### ◇性・年代別

「職場の上司や同僚に介護に対する理解がない」の回答割合は、「男性20歳代」では21.2% (全体結果 39.5%)と低く、「女性20歳代」は52.5%と高くなっている。

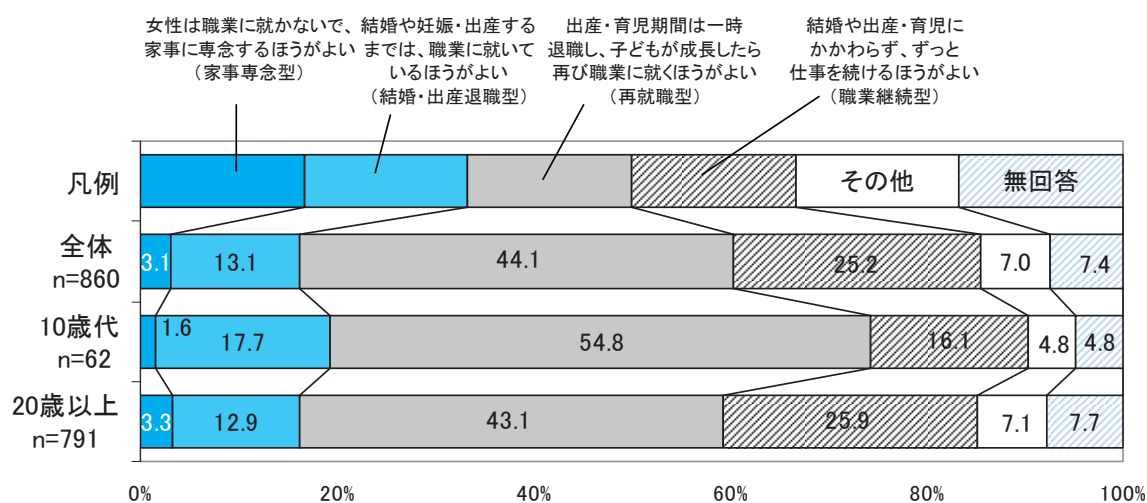
### 3 職業生活について

#### (1)【女性が職業を持つこと】に対する考え

問 11 「女性が職業に就くこと」について、どう思われますか。

- 「出産・育児期間は一時退職し、子どもが成長したら再び職業に就くほうがよい」と約 4 割が回答

「出産・育児期間は一時退職し、子どもが成長したら再び職業に就くほうがよい」が 44.1%で最も多く、次いで「結婚や出産・育児に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい」(25.2%)、「結婚や妊娠・出産するまでは、職業に就いているほうがよい」(13.1%)となっている。



#### ◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

「出産・育児期間は一時退職し、子どもが成長したら再び職業に就くほうがよい」が 54.8%で最も多く(全体結果 44.1%)、「結婚や出産育児に関わらずずっと仕事を続ける方がよい」は 16.1%で全体結果(25.2%)より 9.1 ポイント低くなっている。

#### ◇性別

「出産・育児期間は一時退職し、子どもが成長したら再び職業に就くほうがよい」の回答割合は「女性」(63.2%)が「男性」(41.7%)より 21.5 ポイント高く、「結婚や妊娠・出産するまでは職業に就いている方がよい」では「男性」(29.2%)が「女性」(10.5%)より 18.7 ポイント高くなっている。

一方で、10 歳代男性は問 1B「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」に対する考えでは、『賛成派』は皆無。このことから 10 歳代男性は性的役割分担には賛成しないが、出産や育児を考慮すると「結婚・出産退職型」がよいと考える人が多いことがわかる。性的役割分担に対する考えと、女性が職業を持つことに対する考えが最も矛盾している層がこの 10 歳代男性で、出産や育児をまだ身近な問題として捉えていないことや、育児休業時の各種制度と内容を知らないことなどがその原因と推測できる。

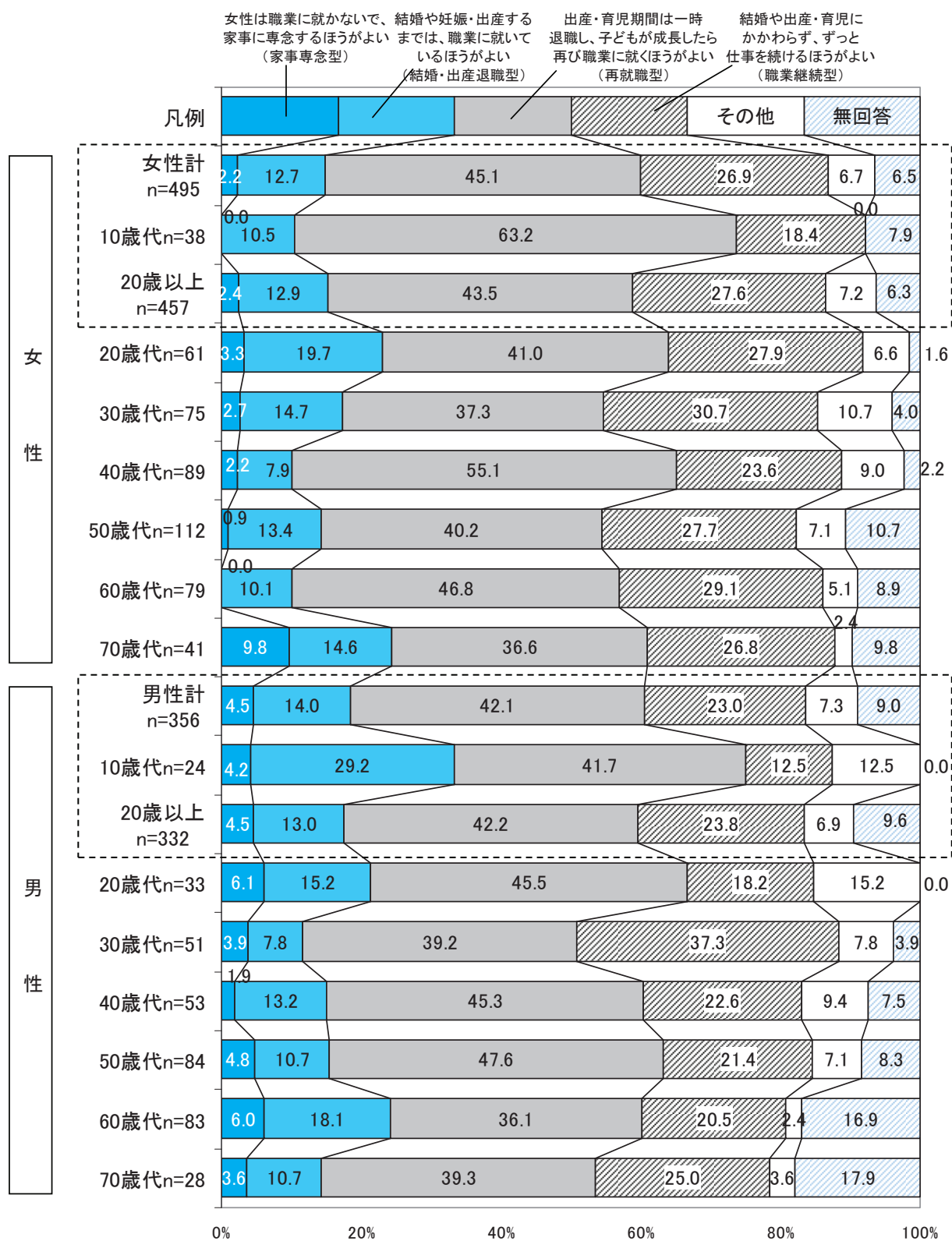
#### ◆20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

#### ◇性・年代別

「出産・育児期間は一時退職し、子どもが成長したら再び職業に就くほうがよい」の回答割合は、「女性 40 歳代」が 55.1%で最も高い。

「結婚や出産育児に関わらずずっと仕事を続ける方がよい」の回答割合は、「男性 30 歳代」が 37.3% で最も高くなっている。

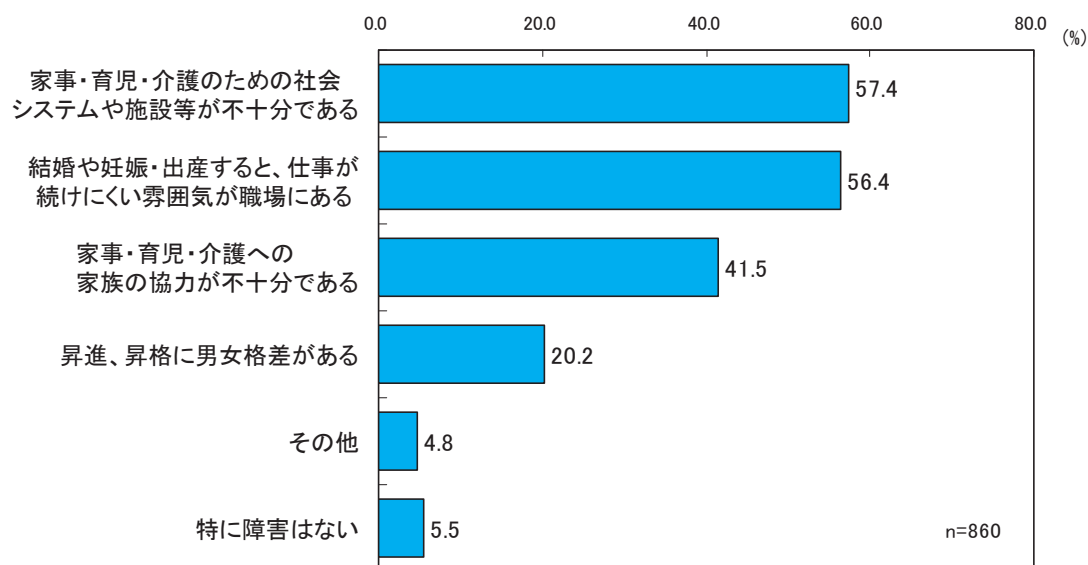


## (2) 女性が仕事を継続する上での障害

問 12 女性が仕事を続けていくうえで、障害になっていることは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 「家事・育児・介護のための社会システムや施設等が不十分である」「結婚や妊娠・出産すると、仕事が続けにくい雰囲気が職場にある」と考える人が多い

「家事・育児・介護のための社会システムや施設等が不十分である」が 57.4%で最も多く、次いで「結婚や妊娠・出産すると、仕事が続けにくい雰囲気が職場にある」(56.4%)、「家事・育児・介護への家族の協力が不十分である」(41.5%)となっている。



### ◆20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

### ◇性別

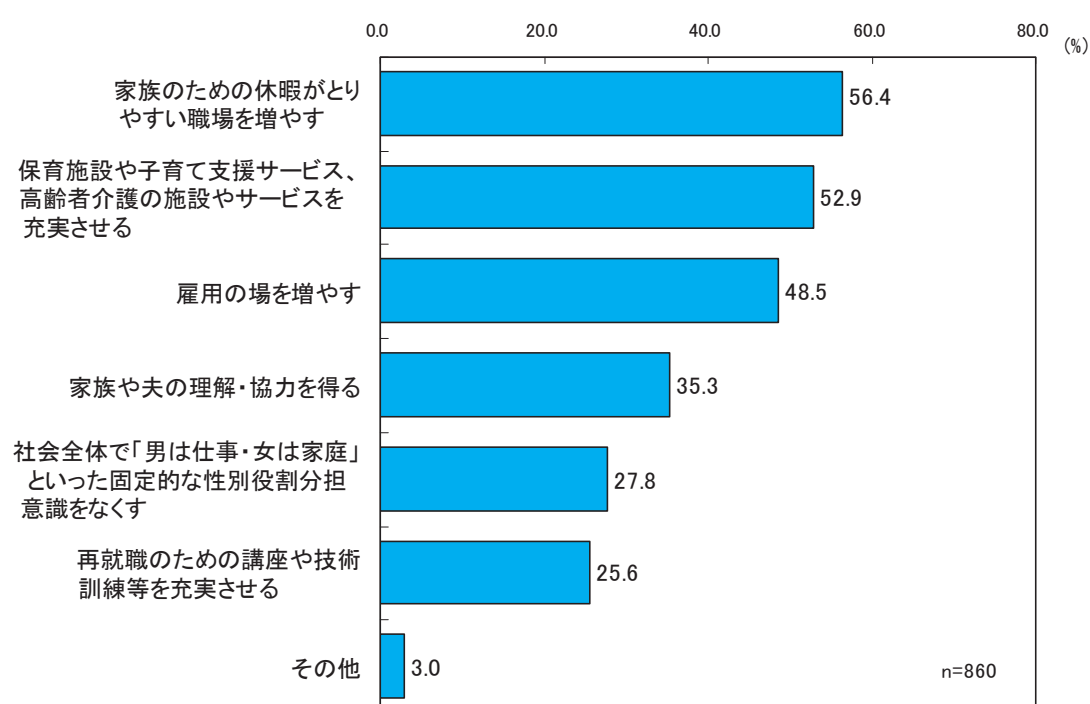
「家事・育児・介護への家族の協力が不十分である」の回答割合は、「男性」が 32.8%と低く、「女性」(48.6%)より 15.8 ポイント低くなっている。

### (3) 女性の再就業に必要なこと

問 13 女性が結婚や出産によって仕事をやめる場合がありますが、女性が再び仕事に就くために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 「家族のための休暇がとりやすい職場を増やす」「保育施設や子育て支援サービス、高齢者介護の施設やサービスを充実させる」が上位にランキング

「家族のための休暇がとりやすい職場を増やす」が 56.4%で最も多く、次いで「保育施設や子育て支援サービス、高齢者介護の施設やサービスを充実させる」(52.9%)、「雇用の場を増やす」(48.5%)となっている。



#### ◆20 歳代以上結果

前回調査結果との比較では、ランキングに違いがみられる。前回ランキング第1位の「雇用の場を増やす(前回選択肢:再雇用制度の促進)」は今回第3位に、前回第2位の「家族のための休暇が取得しやすい職場を増やす(前回選択肢:家族のための休暇がとりやすい職場を増やす)」は今回第1位に、前回第3位の「保育施設や子育て支援サービス、高齢者介護の施設やサービスを充実させる(前回選択肢:保育施設や子育て支援サービスの充実)」は今回第2位となっている。

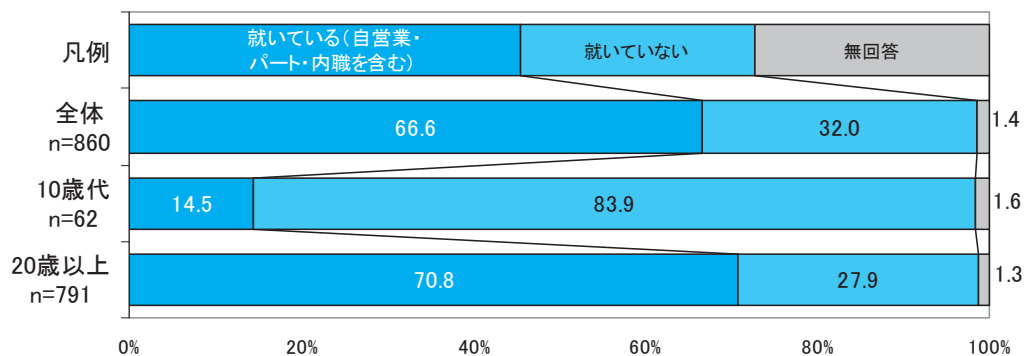
## (4)職業の有無とその理由

問 14 現在職業に就いていますか。

- 男性の約7割、女性の約6割が「職業に就いている」

「就いている」66.6%、「就いていない」32.0%。

性別でみると、「就いている」と回答した割合は「男性」(72.8%)が「女性」(62.2%)より 10.6 ポイント高くなっている。



### ◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

「就いている」は 14.5%、「就いていない」は 83.9%となっている。

### ◆20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合になっている。

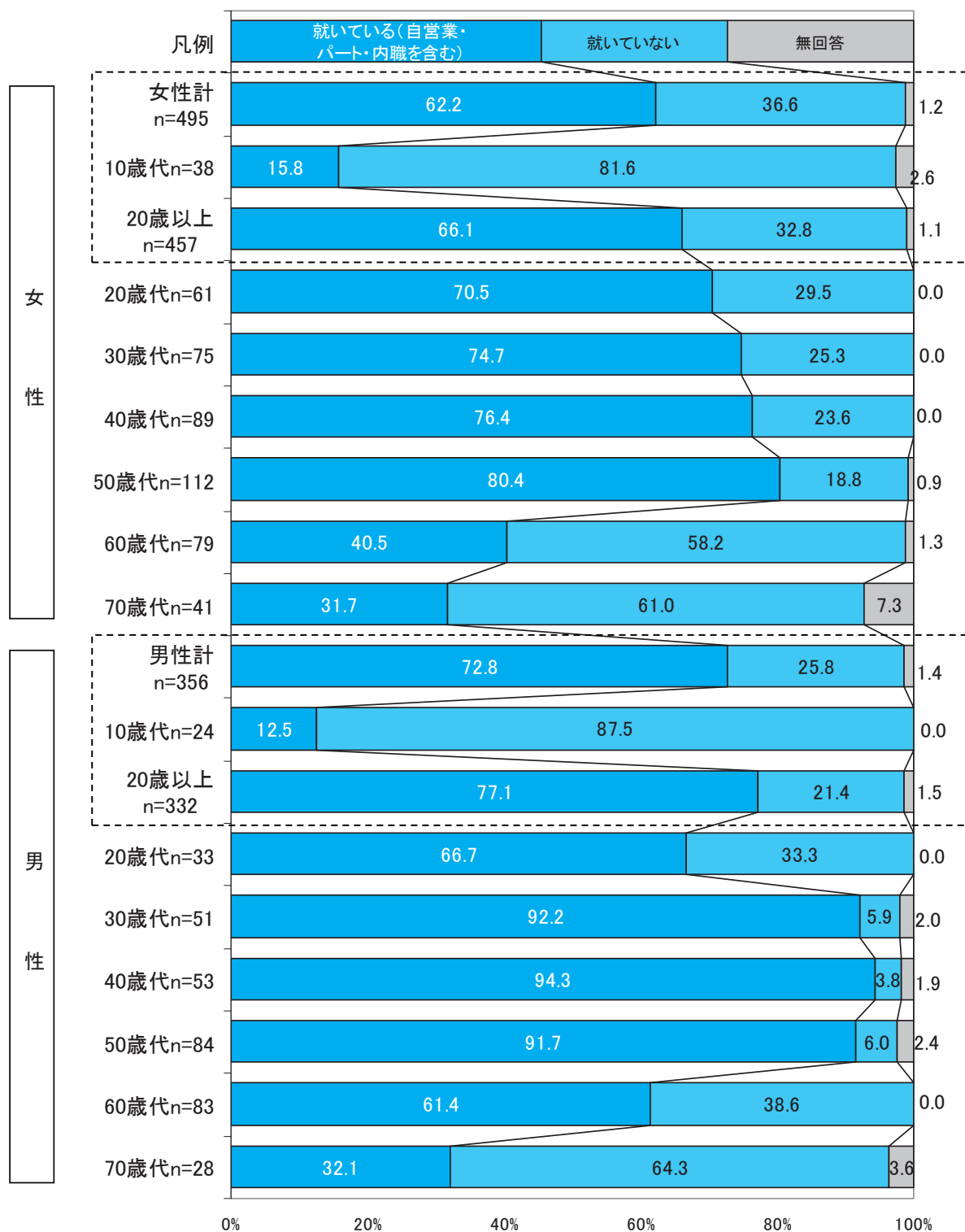
前回の調査結果と比較すると、「就いている」と回答した割合は前回 (61.7%) に比べて 9.1 ポイント高くなっている。

### ◇性別

「就いている」と回答した割合は、「男性」(77.1%)が「女性」(66.1%)より 11.0 ポイント高くなっている。

### ◇性・年代別

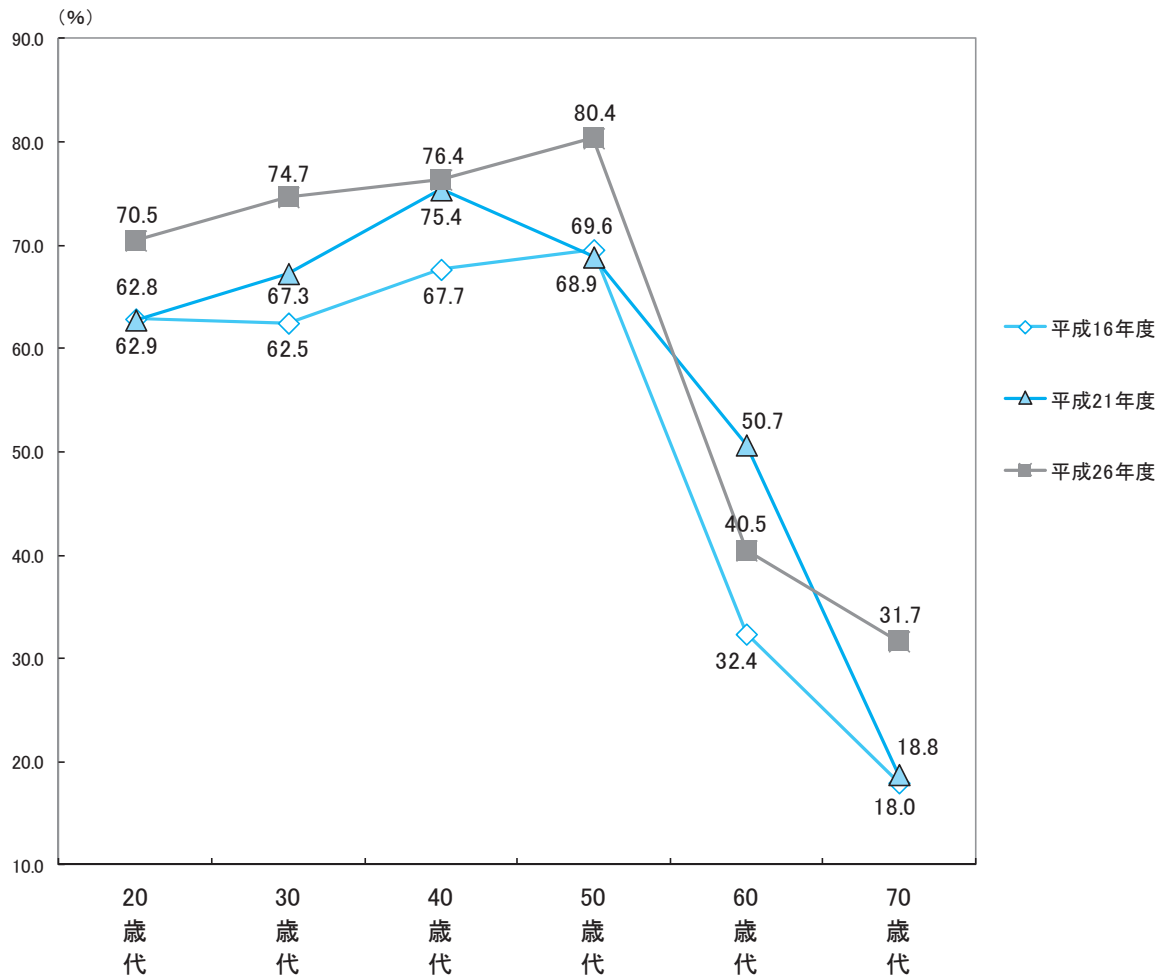
「就いている」と回答した割合は、男性・女性ともに「20 歳代」から「50 歳代」までは全体結果の 66.6%より高く、「男性 60 歳代」で 61.4%、「女性 60 歳代」では 40.5%まで下がっている。



### 職業を持っている女性の割合の推移

職業を持っている女性の割合を平成 16 年度・平成 21 年度と比較すると、今年度は「60 歳代」を除くすべての年代で最も高くなっている。特に「50 歳代」では 80.4%と高くなっている。

「60 歳代」は平成 21 年度(50.7%)より 10.2 ポイント少ない 40.5%となっているが、「70 歳代」は平成 21 年度(18.8%)より 12.9 ポイント高い 31.7%となっている。



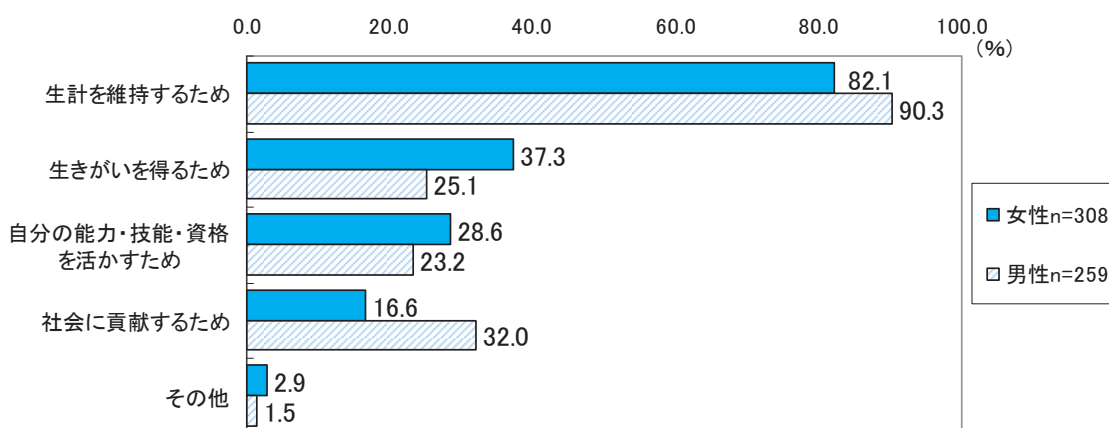
問 15 職業に就いている主な理由を次の中から選んでください。(○はいくつでも)

● 「生計を維持するため」が約 9 割、男女差は前回調査より縮まる

「生計を維持するため」が 86.0%で最も多く、次いで「生きがいを得るため」(31.8%)、「自分の能力・技能・資格を生かすため」(25.8%)となっている。

性別でみると、「生計を維持するため」の回答割合は「男性」(90.3%)が「女性」(82.1%)より8.2ポイント高く、「社会に貢献するため」も「男性」(32.0%)が「女性」(16.6%)より 15.4 ポイント高くなっている。

一方、「生きがいを得るため」は「女性」(37.3%)が「男性」(25.1%)より 12.2 ポイント高くなっている。



◆ 20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

前回の調査結果と比較すると、「生計を維持するため」の回答割合は、前回の「女性」は 48.2%で「男性」(86.5%)と38.3ポイント差があった。今回のその差は7.7ポイントとなっている。(ただし、前回調査は選択肢が 18 項目あったことに留意する必要がある)

◇ 性別

全体結果と同じく、「生計を維持するため」の回答割合は「男性」(90.2%)が「女性」(82.5%)より 7.7ポイント高く、「社会に貢献するため」も「男性」(32.4%)が「女性」(16.9%)より 15.5ポイント高くなっている。一方、「生きがいを与えるため」は「女性」(37.7%)が「男性」(25.4%)より 12.3ポイント高くなっている。

◇ 性・年代別

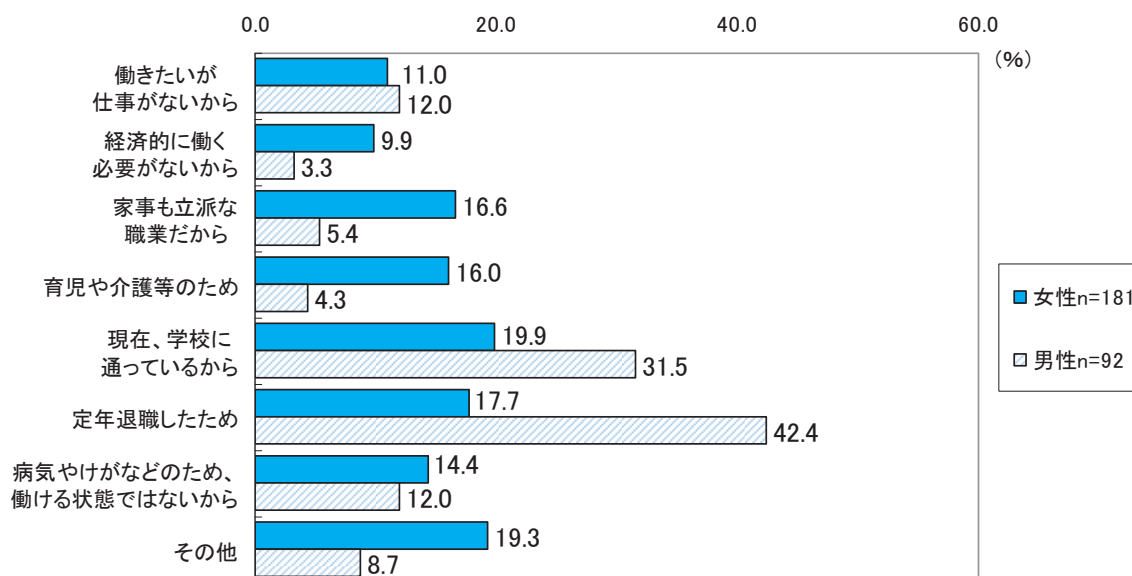
「30 歳代」は男女ともに「生計を維持するため」の回答割合が高く 9 割を超えている。「女性」の『40 歳代以上』では「生きがいを得るため」の回答割合が高くなっている。一方、「男性」の「20 歳代」「40 歳代」「50 歳代」では「社会に貢献するため」の回答割合が高くなっている。

問 16 職業に就いていない主な理由を次の中から選んでください。(○はいくつでも)

● 上位2項目は「定年退職したため」「学校に通っているから」

「定年退職したため」が 26.2%で最も多く、次いで「現在、学校に通っているから」(24.0%)、「病気やけがなどのため働ける状態ではないから」(13.5%)、「家事も立派な職業だから」(12.7%)となっている。

性別でみると、「家事も立派な職業だから」「育児や介護のため」は「男性」より「女性」が約 10 ポイント高く、「定年退職したため」は「女性」(17.7%)より「男性」(42.4%)が 24.7 ポイント高くなっている。



【その他の理由】

- ・高齢のため
- ・現在求職中
- ・妊娠・出産を考えてどうするか検討中
- ・ボランティアグループに所属し、活動しているため
- ・趣味とパソコンを極めたい

◆20 歳代以上結果

「現在、学校に通っているから」が 7.7% (全体結果 24.0%) と低い以外はほぼ全体結果と同じ割合となっている。

◇性別

「定年退職したため」の回答割合は「男性」54.9%、「女性」20.7%で 34.2 ポイントの差がある。

◇性・年代別

「育児や介護等のため」の回答割合は「女性 30 歳代」(68.4%)、「女性 40 歳代」(23.8%)、「女性 50 歳代」(28.6%) で高くなっている。

「現在、学校に通っているから」の回答割合は「男性 20 歳代」(81.8%)、「女性 20 歳代」(38.9%) で高くなっている。

「定年退職したため」と回答した人は、すべて「60 歳代」「70 歳代」となっている。

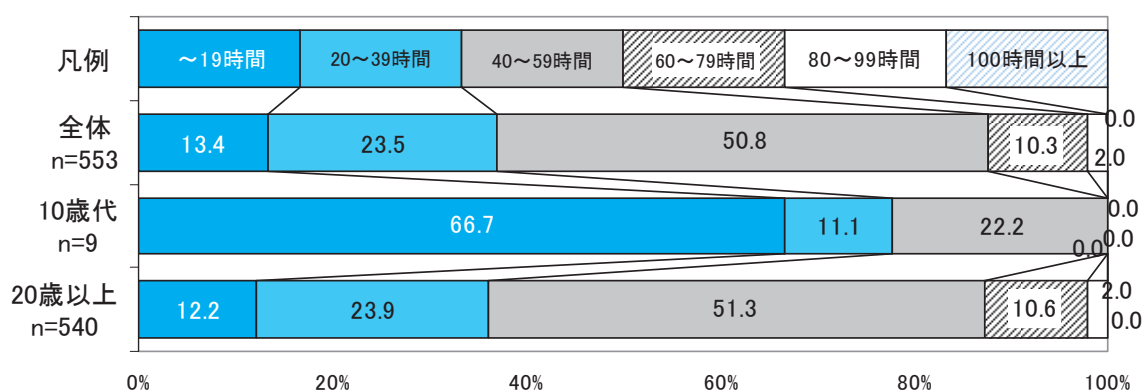
## (5) 週の就労時間と就労日数

※ 問14で「1(職業に)就いている」と答えた方にお尋ねします。

問 17 ①平均すると1週間に何時間働いていますか。2つ以上の仕事に就いている方はその合計でお答えください。ただし、仕事の休息時間は除きます。

- 女性も男性も最多は「40～59 時間」。ただし、「男性」は『60 時間以上』が2割強

「40～59 時間」が 50.8%で最も多く、次いで「20～39 時間」(23.5%)、「～19 時間」(13.4%)となっている。



### ◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

全体結果と比べて「～19 時間」(66.7%)は、53.3 ポイント高くなっている。

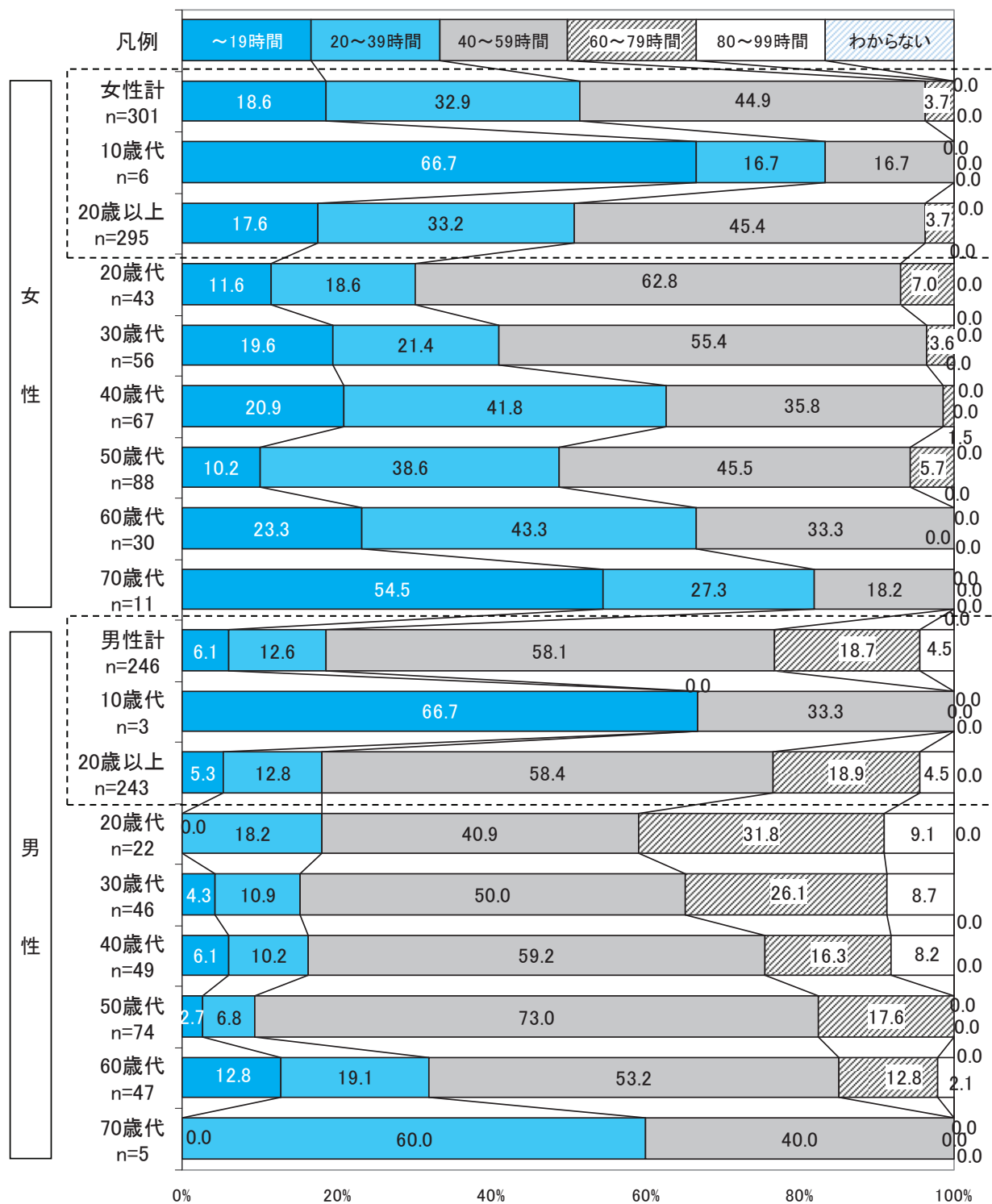
### ◇性別

男女とも「～19 時間」の割合が高くなっている。

### ◆20 歳代以上結果

「女性」の「40～59 時間」の回答割合をみると、「20 歳代」の 62.8%をピークに「40 歳代」までは年代が上がるにつれて減少していく傾向がみられる。同じく「男性」の「40～59 時間」をみると、「20 歳代」から「50 歳代」まで年代が上がるにつれて回答割合が高くなる傾向がみられる。

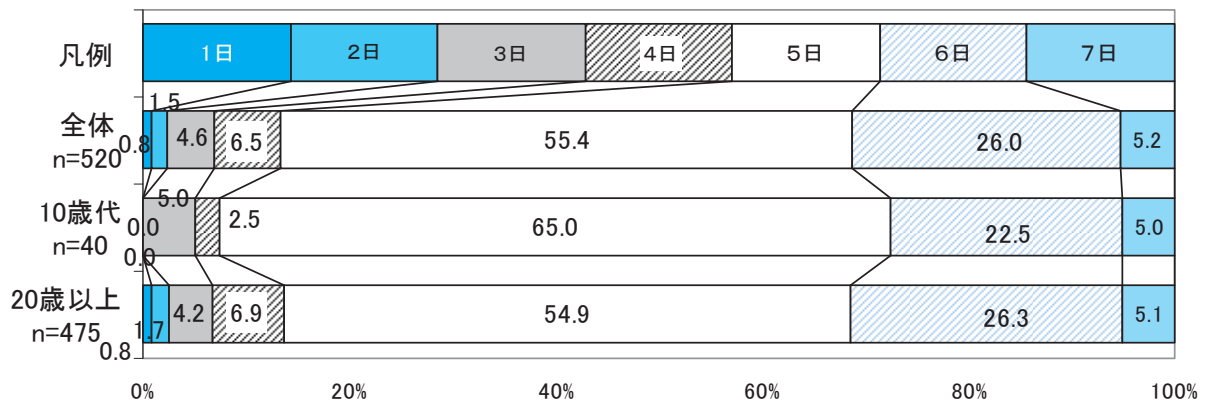
前回の結果と比較すると、「～19 時間」と「40～59 時間」の割合がやや増加している。



②日数では週に何日働いていますか。(仮に、1日1～2時間でも働いていれば、1日と数えてお答えください。)下の枠の中に、それぞれ数字を記入してください。

- 「女性の30歳代」は「女性の20歳代」と比較して「5日」と「6日」の割合が減少

「5日」が55.4%で最も多く、次いで「6日」(26.0%)、「4日」(6.5%)となっている。



#### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

全体結果と比べて「5日」(65.0%)は、9.6ポイント高くなっている。

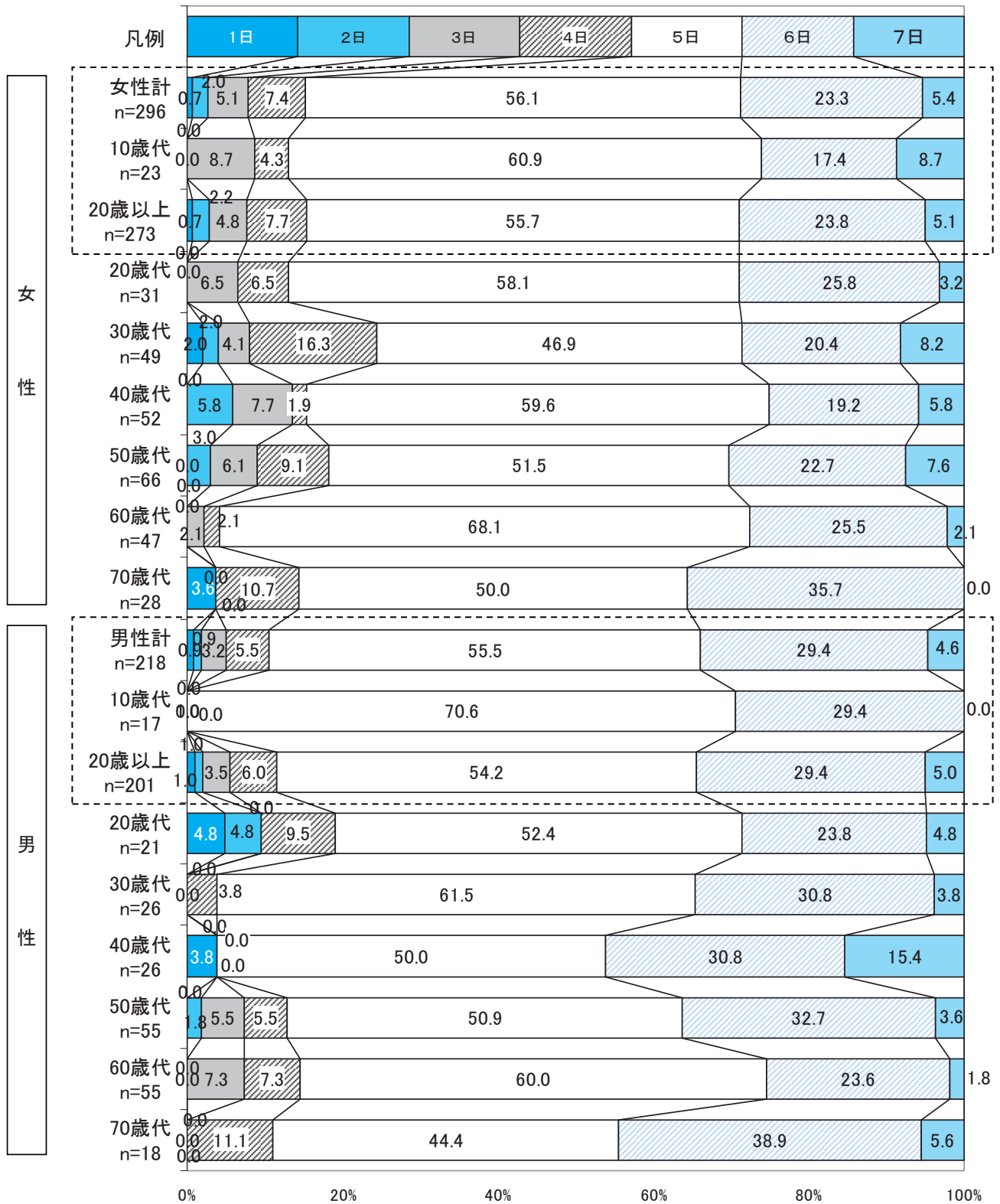
#### ◇性別

「6日」の回答割合は、「男性」(29.4%)が「女性」(17.4%)より12.0ポイント高くなっている。

#### ◆20歳代以上結果

「女性30歳代」は「女性20歳代」と比較して、「5日」と「6日」の割合が少なく、その分、「4日」の割合が多い。『男性30～50歳代』は「6日」の割合が30%を超えている(70歳代は標本数過小)ほか、「男性40歳代」は「7日」の割合が15.4%で他の性・年代に比べて極めて高くなっている。

前回の結果と比較すると、「7日」が2.7ポイント減少し、「5日」が9.2ポイント増加している。



## (6)就労形態等

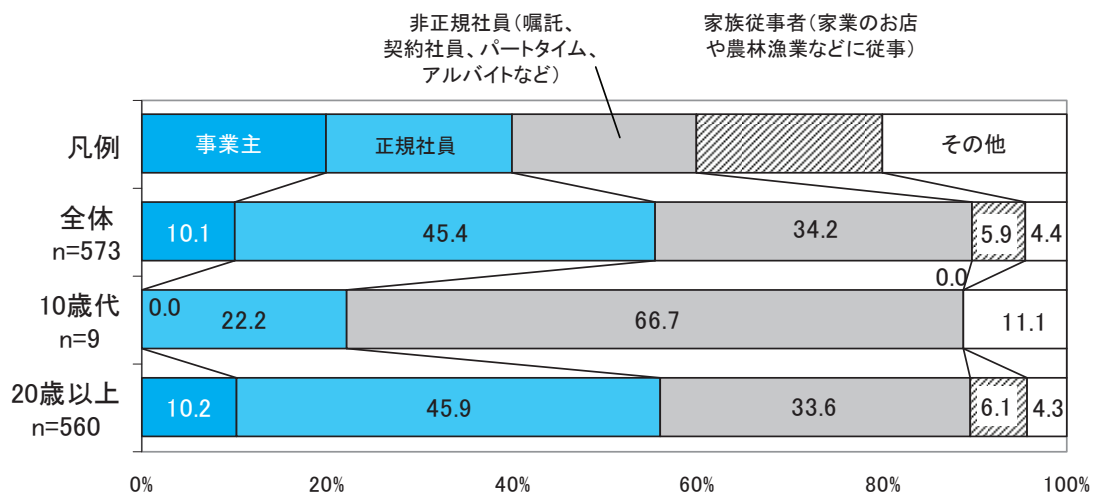
問 18 今どのような形で働いていますか。

### ● 女性の5割が「非正規社員」と回答

「正規社員」が 45.4%で最も多く、次いで「非正規社員」が 34.2%となっている。

性別でみると、「正規社員」の回答割合は「男性」(57.9%)が「女性」(35.1%)より 22.8 ポイント、「事業主」では「男性」(17.4%)が「女性」(3.9%)より 13.5 ポイント高い。

一方、「非正規社員」では「女性」(50.3%)が「男性」(14.7%)より 35.6 ポイント高くなっている。



### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

「非正規社員」が 66.7%で全体結果(34.2%)より 32.5 ポイント高く、「正規社員」(22.2%)は全体結果(45.4%)より 23.2 ポイント低くなっている。

「女性」では「非正規社員」が 83.3%となっている(ただし母数は 6)。

### ◆20歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

前回の調査結果と比較すると、ほぼ同じ傾向となっている。

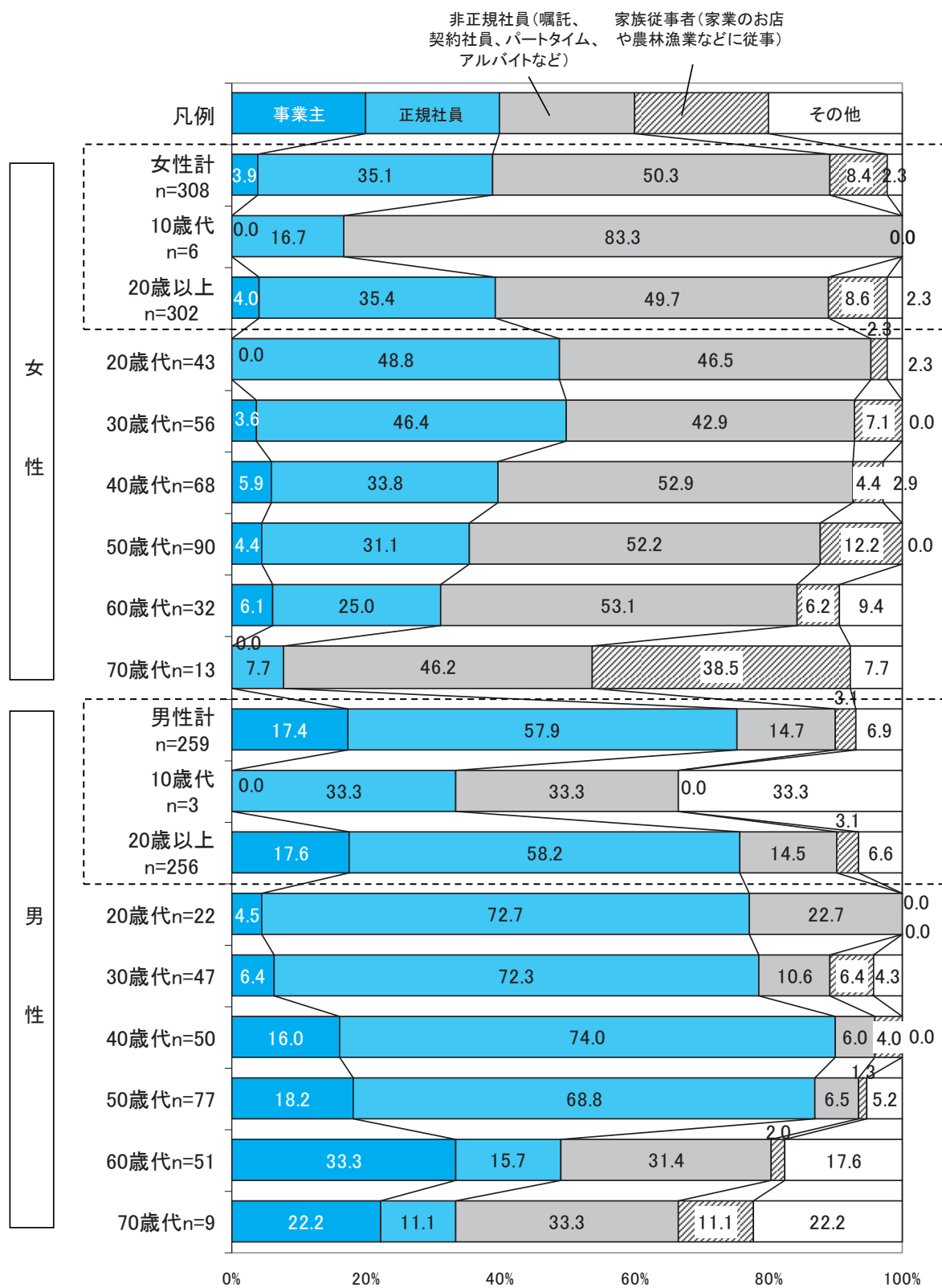
### ◇性別

「正規社員」の回答割合は「男性」(58.2%)が「女性」(35.4%)より 22.8 ポイント、「事業主」では「男性」(17.6%)が「女性」(4.0%)より 13.6 ポイント高い。一方、「非正規社員」では「女性」(49.7%)が「男性」(14.5%)より 35.2 ポイント高くなっている。

### ◇性・年代別

「女性」では、「非正規社員」の回答割合は「30歳代」の 42.9%が最も低く、『40歳代～60歳代』では過半数を占めている。また、「正規社員」は「20歳代」(48.8%)が最も高く、年齢が高くなるにつれ回答割合が低くなる。

「男性」では、「非正規社員」は「20歳代」(22.7%)と『60歳以上』の高年層で高くなっている。一方で「正規社員」は「20歳代」「30歳代」「40歳代」「50歳代」で7割前後と高く、『60歳以上』で1割台まで下がる。「事業主」の回答割合は年齢が上がるほど高くなっている(70歳代を除く)。



※ 問18で「4 家族従事者」と答えた方にお尋ねします。

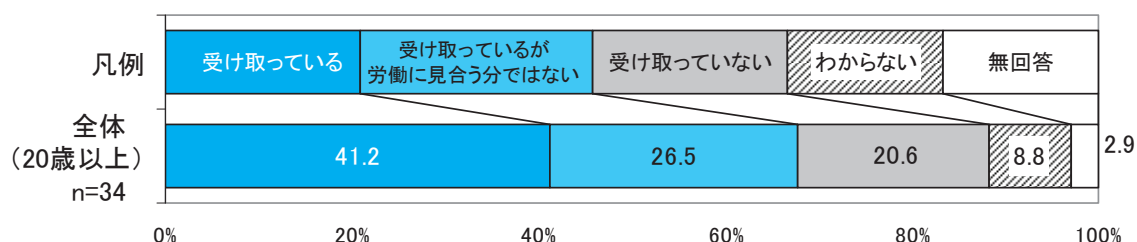
問 19 家業に従事されていて、労働に見合う分の対価(給料)を受け取られていますか。

- 5人に1人が「受け取っていない」と回答

※問 19 では回答対象者がすべて 20 歳以上となるため、10 歳代の分析を省略

「受け取っている」の回答割合は 41.2%、「受け取っているが、労働に見合う分ではない」と感じている人が 26.5%となっている。一方、「受け取っていない」は 20.6%となっている。

前回の調査結果と比較すると、「受け取っている」は前回結果(16.7%)より 24.5 ポイント増加、「受け取っていない」は前回結果(36.1%)より 15.5 ポイント減少している。

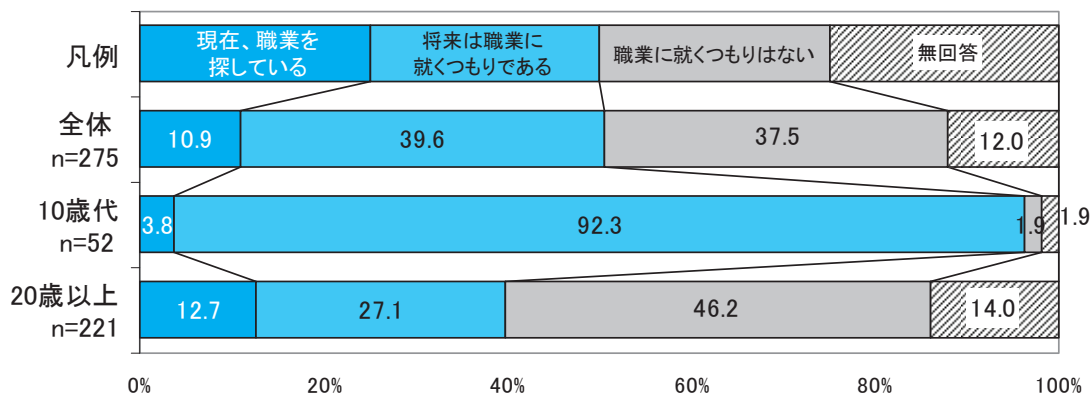


※ 問14で「2(職業に)就いていない」と答えた方にお尋ねします。

問 20 今後、職業に就きたいと思いますか。

- 10 歳代では 9 割、20、30、40 歳代では8割上が『就労意欲あり』と回答

「将来は職業に就くつもりである」が 39.6%で最も多く、「現在、職業を探している」は 10.9%。一方、「職業に就くつもりはない」と 37.5%が回答している。



#### ◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

「将来は職業に就くつもりである」と 92.3%が回答している。

#### ◆20 歳代以上結果

「職業に就くつもりはない」が 46.2%で最も多く、次いで「将来は職業に就くつもり」(27.1%)となっている。

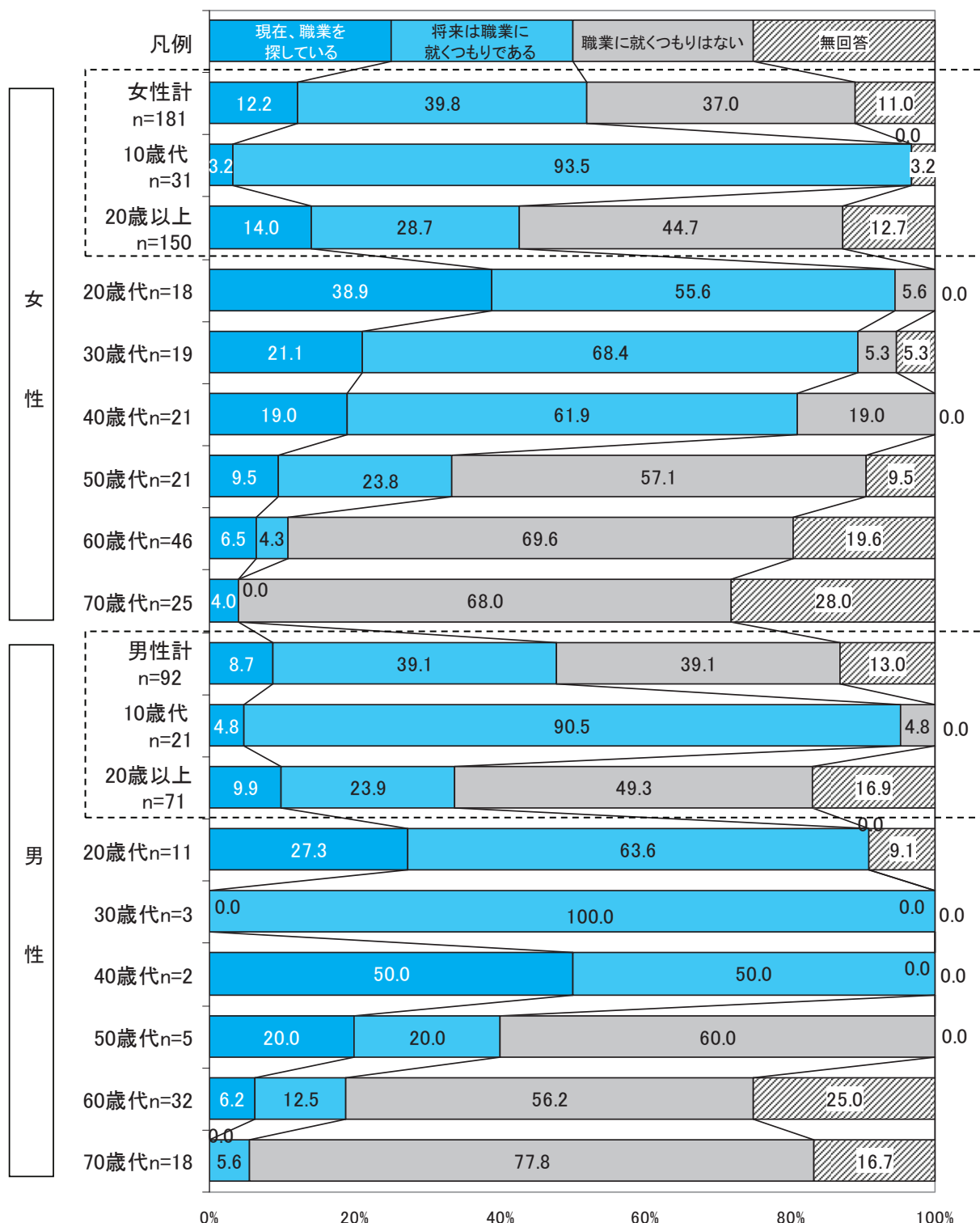
前回の調査結果と比較すると、「将来は職業に就くつもりである」は前回結果(18.7%)から8.4ポイント増加している。

## ◇性別

「現在職業を探している」と回答した割合は「女性」(14.0%)が「男性」(9.9%)より4.1ポイント高く、「職業につくつもりはない」は「男性」(49.3%)が「女性」(44.7%)より4.6ポイント高くなっている。

## ◇性・年代別

男女ともに、40歳までは8割以上が『就労意欲あり』(「現在、職業を探している」+「将来は職業に就くつもりである」)と回答しているが、50歳代以上では「職業に就くつもりはない」の回答割合が5割を超える。また、「現在、職業を探している」の回答割合は「男性40歳代」(50.0%)、「女性20歳代」(38.9%)、「男性20歳代」(27.3%)、「女性30歳代」(21.1%)で高くなっている。



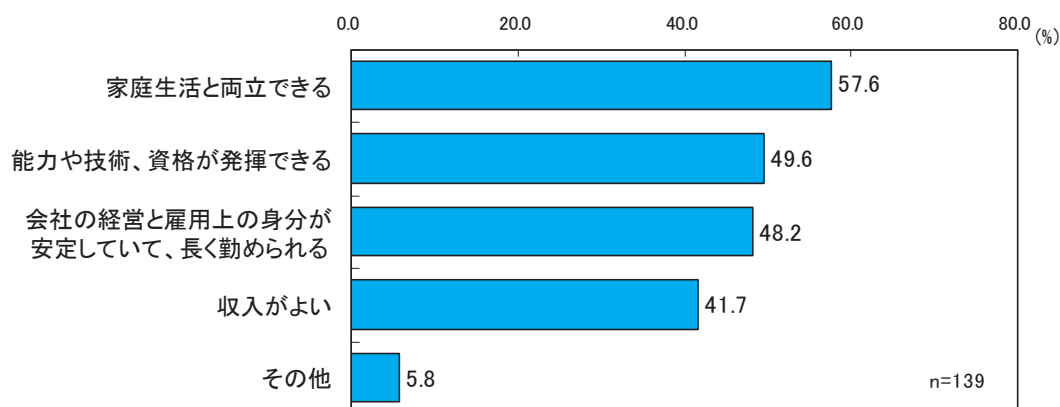
※ 問20で「1 現在、職業を探している」「2 将来は職業に就くつもりである」と答えた方にお尋ねします。

問 21 働く場合には、どのような点を重視して仕事を選びますか。(〇はいくつでも)

● 20 歳代以上(特に 30 歳代から 50 歳代の女性)は「家庭生活と両立できる」職場を求める

「家庭生活と両立できる」が 57.6%で最も多く、次いで「能力や技術、資格が発揮できる」(49.6%)、「会社の経営と雇用上の身分が安定していて、長く務められる」(48.2%)、「収入がよい」(41.7%)となっている。

性別でみると、「家庭生活と両立できる」は「女性」(63.8%)が「男性」(45.5%)より 18.3 ポイント高くなっている。



◆ 20 歳代以上結果

「家庭生活と両立できる」が 63.6%で最も多く、次いで「会社の経営と雇用上の身分が安定していて、長く務められる」(44.3%)、「能力や技術、資格が発揮できる」(34.1%)、「収入がよい」(29.5%)となっている。

◇ 性別

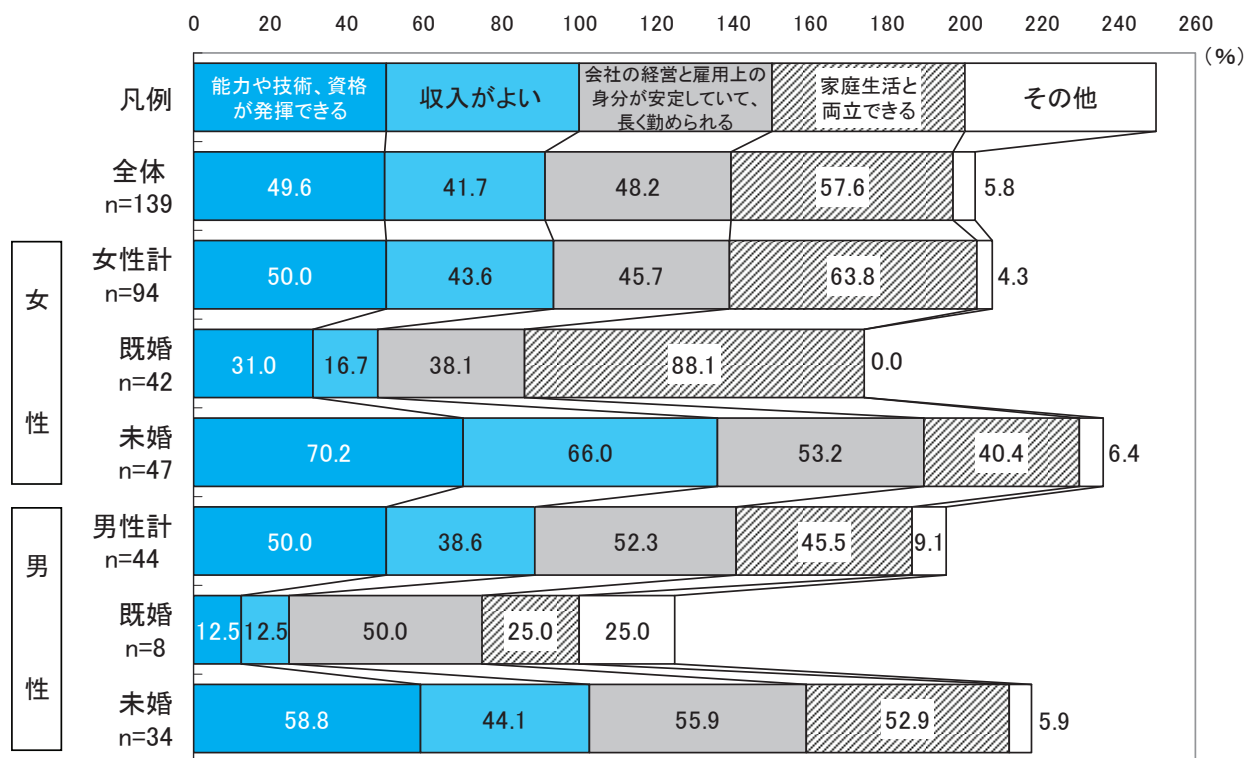
「女性」では「家庭生活と両立できる」が 71.9%と高くなっている(「男性」は 41.7%)。なお、「男性」はすべての項目で回答割合が全体結果より低くなっている。

◇ 性・年代別

「家庭と両立できる」の回答割合は「女性 40 歳代」(94.1%)、「女性 50 歳代」(85.7%)、「女性 30 歳代」(82.4%)で特に高くなっている。

● 「既婚女性」の 88.1%が「家庭生活と両立できる」を重視

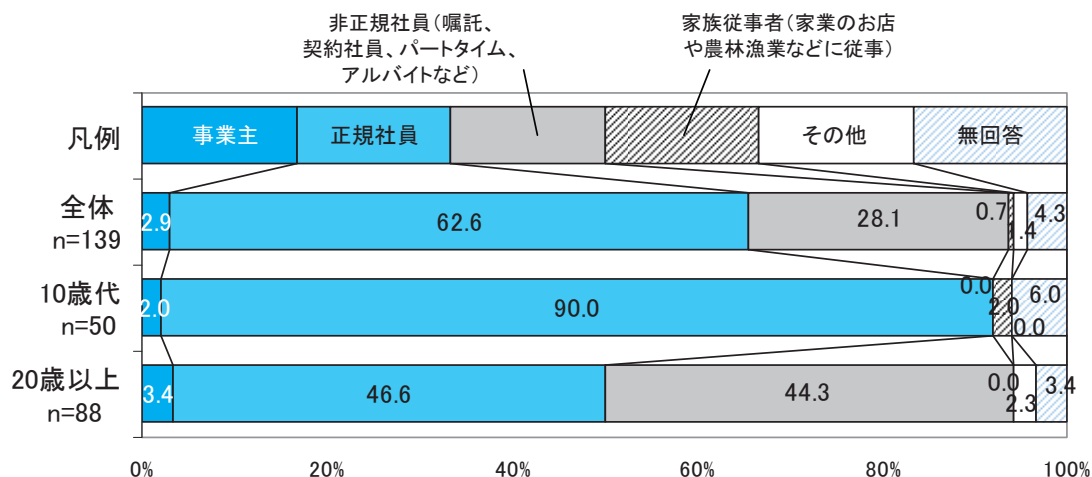
既婚、離別・死別、未婚別にみると、「既婚女性」における「家庭生活と両立できる」の割合は、88.1%と極めて高くなっている。



問 22 もし、働くとなれば、どのような形で働きたいと思いますか。

- 全体では「正規社員」を約 6 割が希望

「正規社員」が 62.6%で最も多く、次いで「非正規社員」(28.1%)、「事業主」(2.9%)となっている。



◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

「正規社員」の回答割合は 90.0%。「非正規社員」と回答した人はいない。

◆20 歳代以上結果

「正規社員」(46.6%)と「非正規社員」(44.3%)がほぼ同じ割合となっている。

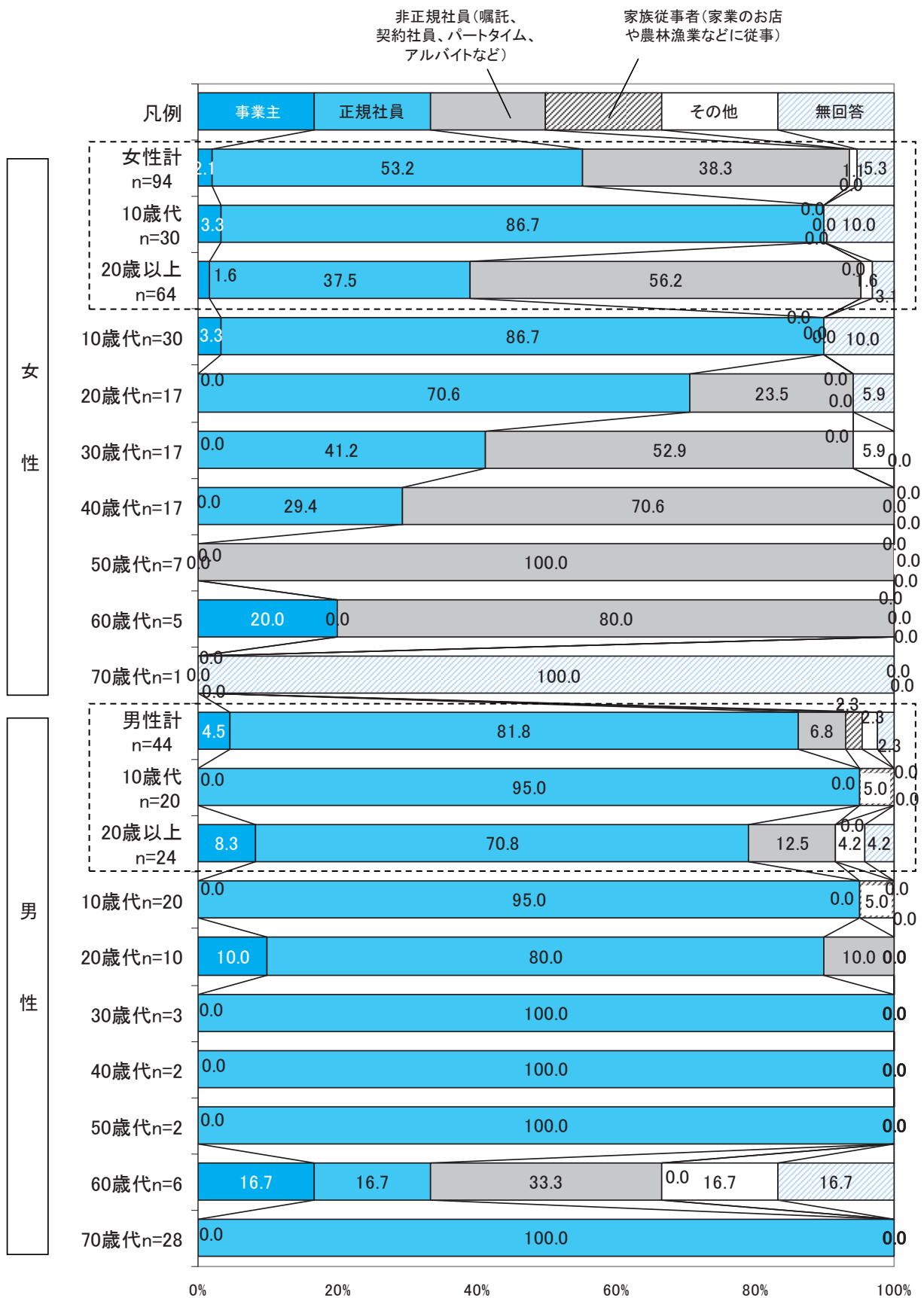
◇性別

「正規社員」と回答した割合は「男性」(70.8%)が「女性」(37.5%)より 33.3 ポイント高く、「非正規社員」は「女性」(56.2%)が「男性」(12.5%)より 43.7 ポイント高くなっている。

◇性・年代別

「女性」では「正規社員」の回答割合は「50 歳代」から年齢が下がるほど高く、「非正規社員」は年齢が上がるにつれ高くなる。「20 歳代」は「正規社員」の希望が 7 割を超えるが、「30 歳代」から「50 歳代」までは「非正規社員」の希望が多くなっている。

「男性」では「60 歳代」以外のすべての年齢層でほとんどの人が「正規社員」と回答している。



## 4 健康・福祉について

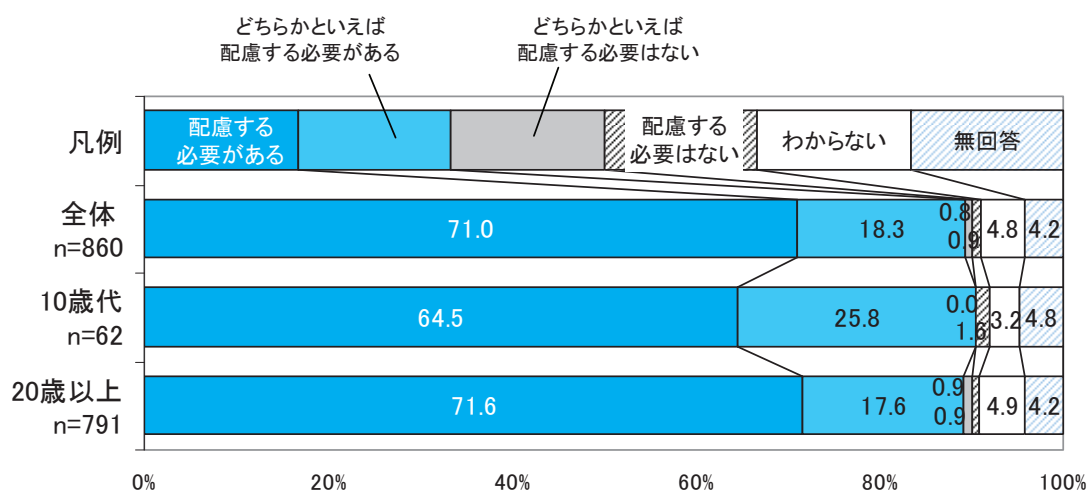
### (1) 妊娠、出産、性に対する考え

問 23 次のようなことをどう思いますか。

#### ① 妊娠や出産、性感染症など女性の健康と権利について、学校、職場、地域、家庭などでの配慮の必要性

- 約 9 割が『配慮する必要がある』と回答

「配慮する必要がある」が 71.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば配慮する必要がある」(18.3%)。二つをあわせた『配慮する必要がある』の割合は 89.3%となっている。



#### ◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

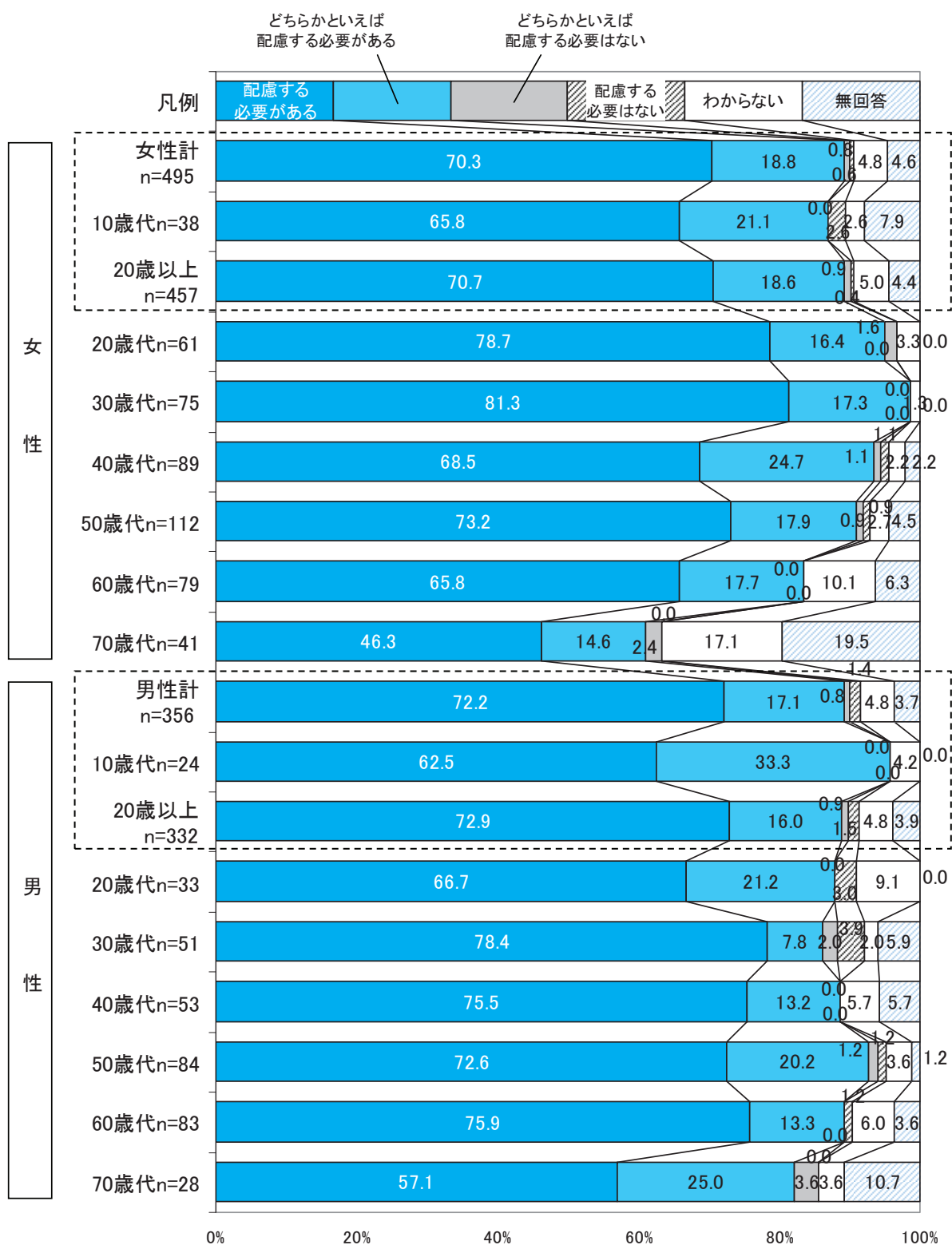
「配慮する必要がある」(64.5%)は全体結果(71.0%)より 6.5 ポイント低く、「どちらかといえば配慮する必要がある」(25.8%)は全体結果(18.3%)より 7.5 ポイント高くなっている。

#### ◆20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合になっている。

#### ◇性・年代別

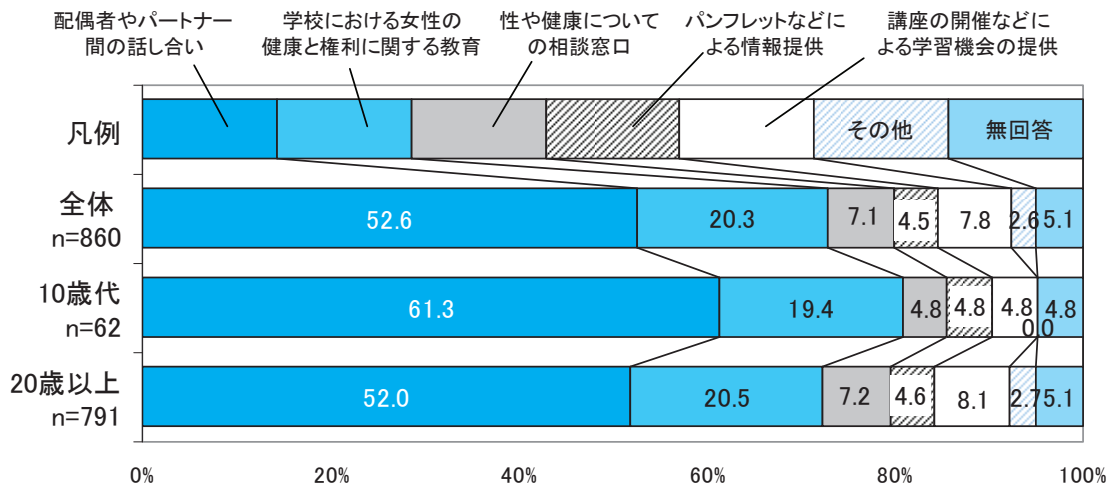
「配慮する必要がある」と回答した割合は「女性 30 歳代」(81.3%)、「女性 20 歳代」(78.7%)、「男性 30 歳代」(78.4%)で高くなっている。



② 妊娠や出産、性感染症など女性の健康と権利について、男女が理解し合うためには、  
どのようなことが大切だと思いますか。

- 最も大切なことは「配偶者やパートナー間の話し合い」と5割が回答

「配偶者やパートナー間の話し合い」が 52.6%で最も多く、次いで「学校における女性の健康と権利に関する教育」(20.3%)、「講座の開催などによる学習機会の提供」(7.8%)となっている。

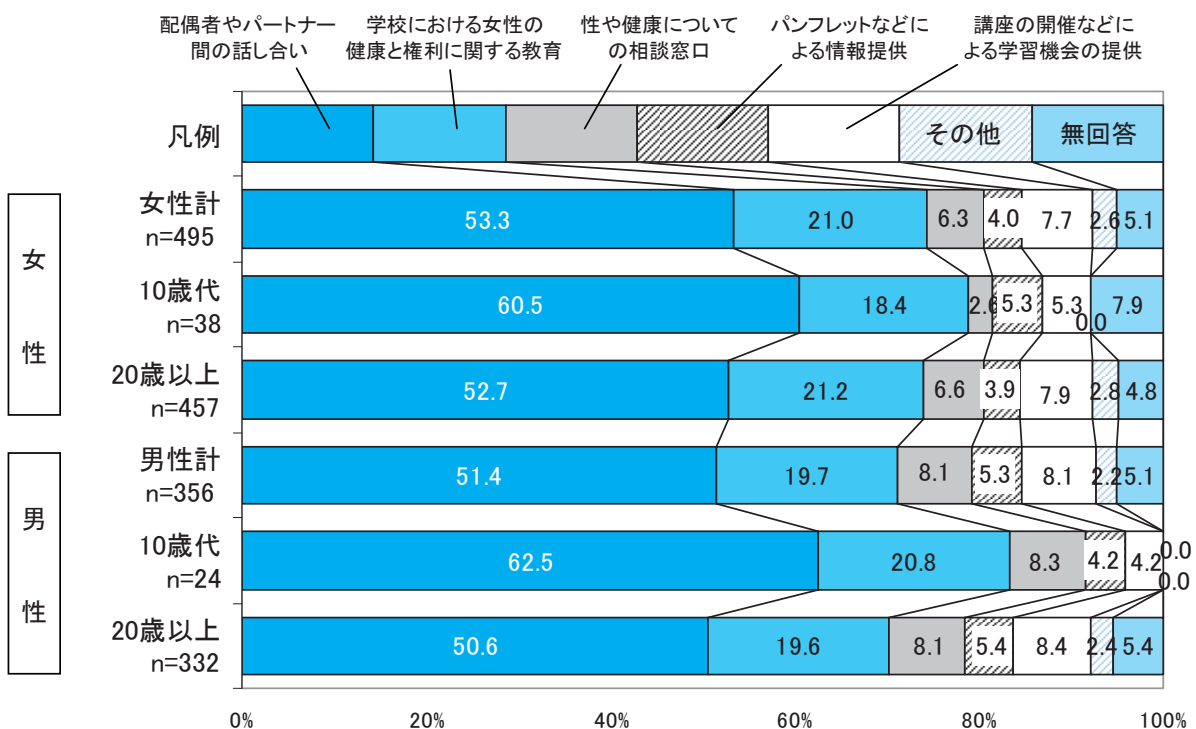


◆10歳代(16歳～19歳)結果

「配偶者やパートナーとの話し合い」の回答割合は 61.3%で、全体結果(52.6%)より 8.7 ポイント高くなっている。

◆20歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合になっている。



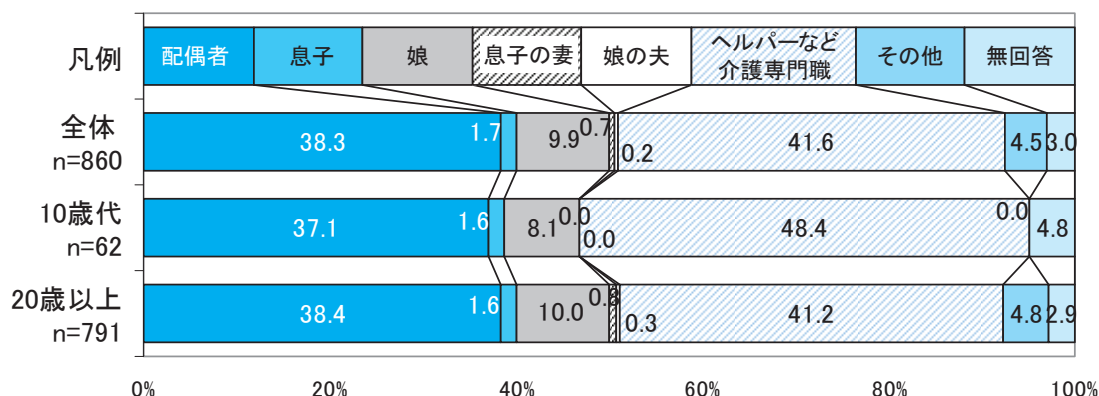
## (2) 望ましい介護者

問 24「寝たきり」や「認知症」などにより、もしも在宅で介護を受けるようになった場合、誰に介護をしてもらいたいですか。

### ● 「ヘルパーなどの介護専門職」または「配偶者」に二分

「ヘルパーなどの介護専門職」が 41.6% で最も多く、次いで「配偶者」(38.3%)、「娘」(9.9%)となっている。

性別でみると、「女性」は「ヘルパーなどの介護専門職」の回答割合が 49.9% で「男性」(30.1%)より 19.8 ポイント高く、「男性」は「配偶者」が 54.5% (「女性」は 26.9%) と高い。



### ◆ 10 歳代(16 歳～19 歳)結果

「ヘルパーなどの介護専門職」の回答割合は 48.4% で全体結果(41.6%)より 6.8 ポイント高くなっている。

#### ◇性別

「配偶者」と回答した割合は「男性」が 41.7% で「女性」(34.2%)より 7.5 ポイント高くなっている。

### ◆ 20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

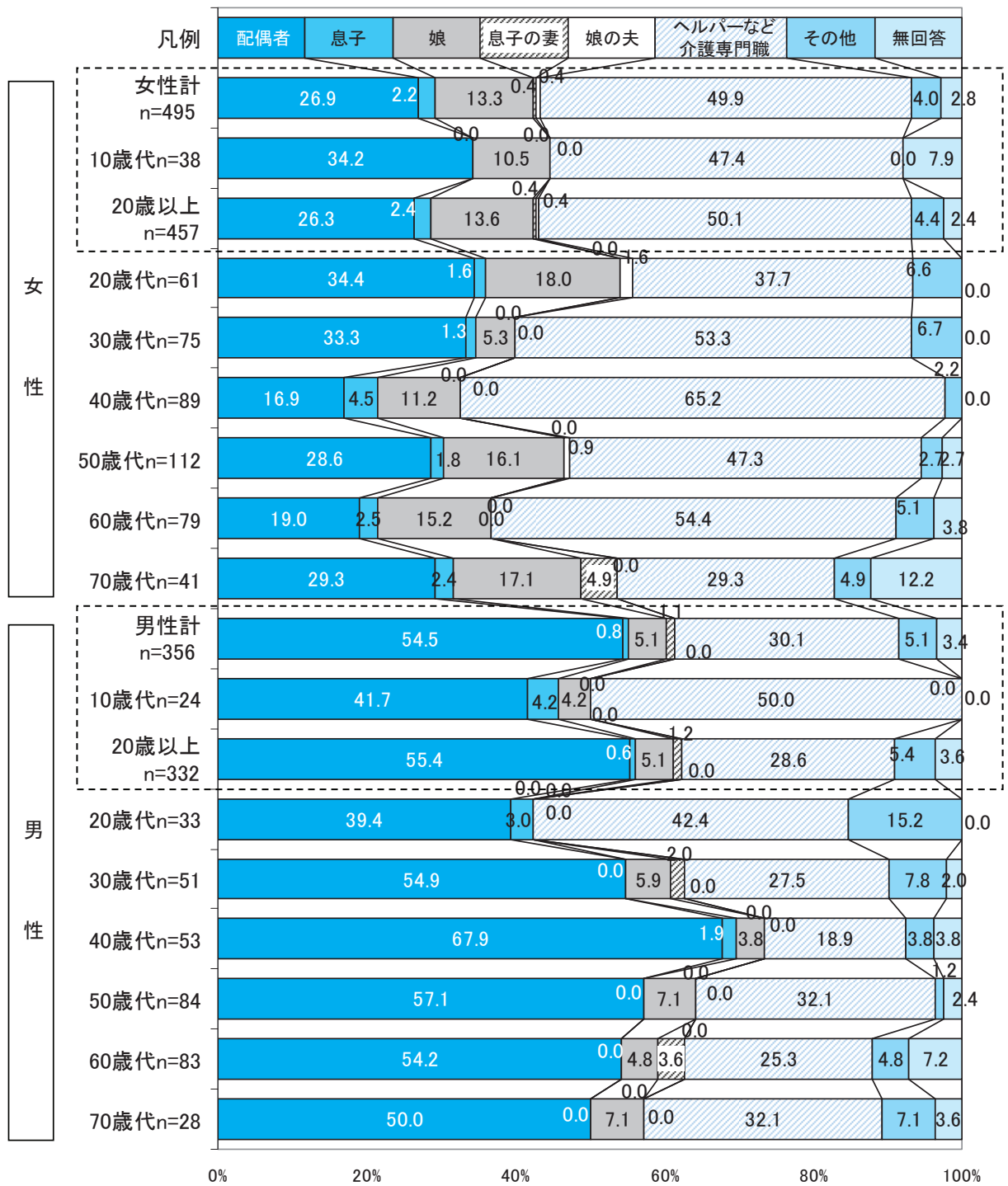
前回の調査との比較では、前回調査ではなかった「ヘルパーなどの介護専門職」の選択肢を除けば、いずれも「配偶者」が多くなっている。

#### ◇性別

「配偶者」と回答した割合は「男性」が 55.4% で「女性」(26.3%)より 29.1 ポイント高い。また、「娘」と回答した割合は「女性」(13.6%)が「男性」(5.1%)より 8.5 ポイント高くなっている。

#### ◇性・年代別

「男性」の 30 歳代以上では半数以上が「配偶者」と回答している。一方、「女性」の「30 歳代」「40 歳代」「60 歳代」では半数以上が「ヘルパーなどの介護専門職」と回答している。



## 5 地域活動について

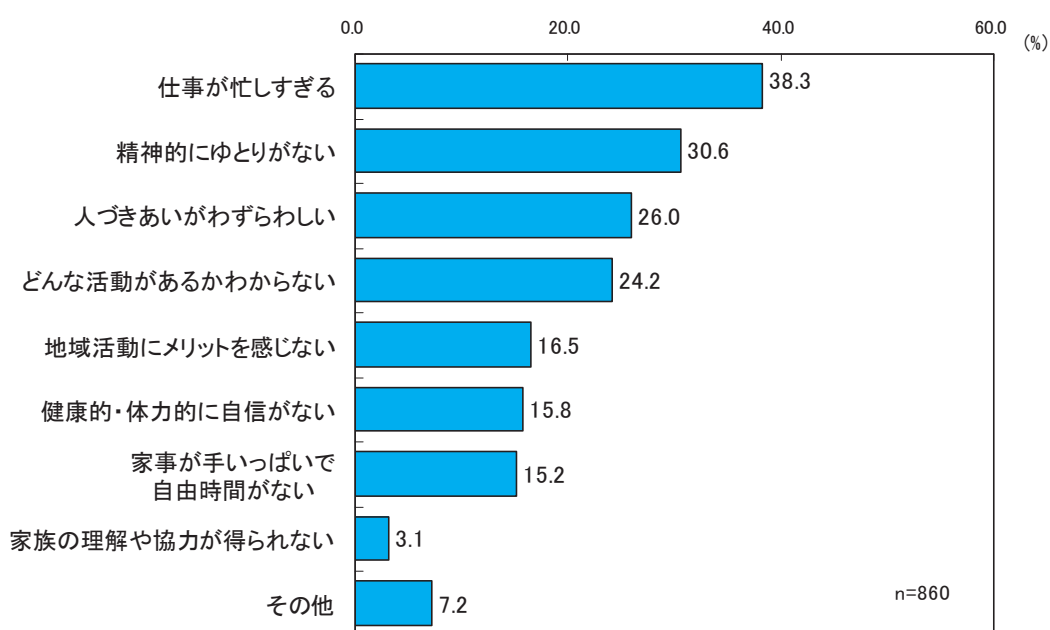
### (1) 地域活動をする場合の障害

問 25 自治会などの地域活動をする場合に、障害になるようなことがありますか。特に障害になると思われるものを選んでください。(3つ)

- 上位2項目は、「仕事が忙しすぎる」「精神的にゆとりがない」

「仕事が忙しすぎる」が 38.3%で最も多く、次いで「精神的にゆとりがない」(30.6%)、「人づきあいがわずらわしい」(26.0%)、「どんな活動があるかわからない」(24.2%)となっている。

性別でみると、「仕事が忙しすぎる」と回答した割合は「男性」が49.7%で、「女性」(30.1%)より19.6ポイント高くなっている。



#### ◆20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

前回の調査結果と比較すると、今回の回答割合順位 4 位の「どんな活動があるかわからない」(22.8%)は前回結果では最も多くなっている。

#### ◇性別

「仕事が忙しすぎる」と回答した割合は、「男性」(51.5%)が「女性」(30.0%)より21.5ポイント高くなっている。

#### ◇性・年代別

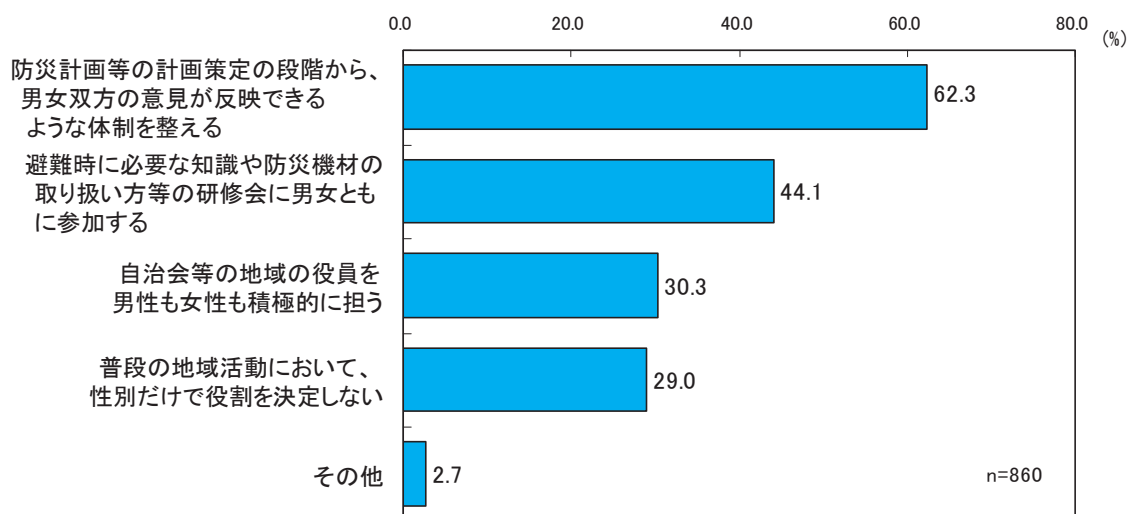
「男性 30 歳代」から「男性 50 歳代」までは 6 割以上が「仕事が忙しすぎる」と回答している。また、「どんな活動があるかわからない」と回答した人は、「男性 20 歳代」45.5%「女性 20 歳代」52.5%と多くなっている。

## (2)防災・災害復興時において、男女共同参画に根ざした対応をとるために必要なこと

問 26 防災・災害復興時において、男女共同参画に根ざした対応をとるためには何が必要だと思いますか。(2つ)

- 「防災計画策定段階から意見が反映される体制整備」が約 6 割で最多だが、10 歳代では「普段の地域活動において、性別だけで役割を決定しない」と考える人も多い

「防災計画等の計画策定の段階から、男女双方の意見が反映できるような体制を整える」が 62.3%で最も多く、次いで「避難時に必要な知識や防災機材の取り扱い等の研修会に男女ともに参加する」(44.1%)、「自治会等の地域の役員を男性も女性も積極的に担う」(30.3%)、「普段の地域活動において、性別だけで役割を決定しない」(29.0%)となっている。



### ◆20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

### ◇性・年代別

「防災計画等の計画策定の段階から、男女双方の意見が反映できるような体制を整える」の回答割合が多く、中でも「男性 50 歳代」(71.4%)、「女性 30 歳代」(74.7%)、「女性 40 歳代」(78.7%)は 7 割を超え高くなっている。

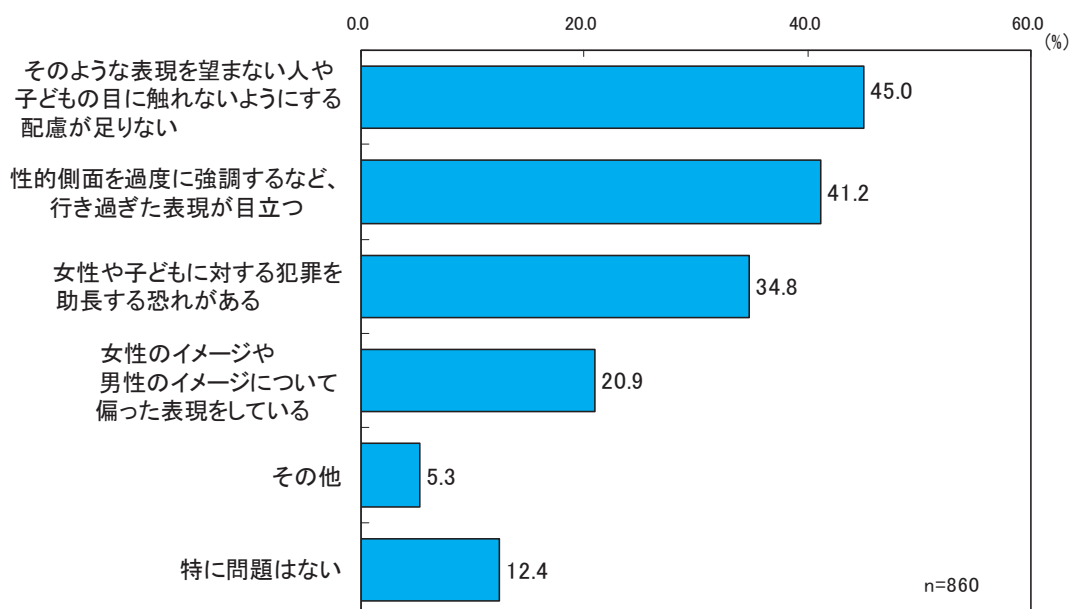
## 6 人権について

### (1)メディアにおける性や暴力の表現に対する考え

問 27 新聞・雑誌・テレビなどメディアにおける性や暴力の表現についてどう思いますか。(2つ)

- 「望まない人や子どもの目に触れないようにする配慮が足りない」「行き過ぎた表現が目立つ」が上位にランキング

「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないようにする配慮が足りない」が 45.0%で最も多く、次いで「性的側面を過度に強調するなど行き過ぎた表現が目立つ」(41.2%)、「女性や子どもに対する犯罪を助長するおそれがある」(34.8%)となっている。



#### ◆20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

前回の調査結果と比較すると、上位3位は同じ項目だが、「子どもの目に触れない配慮が足りない」の回答割合は、前回(50.1%)より 4.7 ポイント減少、「女性や子どもに対する犯罪を助長する」は前回(44.6%)より 9.1 ポイント減少している。

#### ◇性・年代別

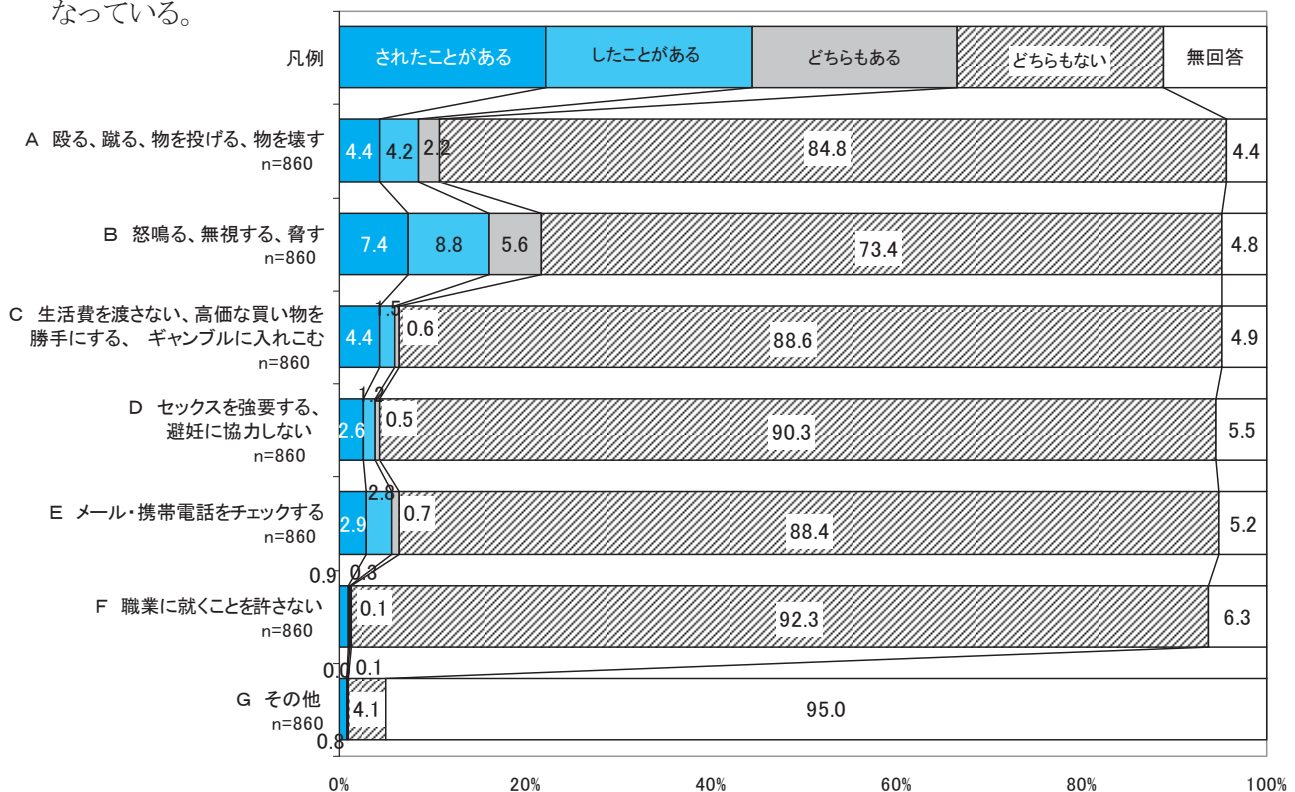
「女性」では、「特に問題はない」は年齢が下がるにつれ回答割合が高くなっている。

## (2)ドメスティック・バイオレンスの実態と対応

問28 最近、夫婦や恋人同士などの親しい間で、身体的・心理的な暴力を受けること(ドメスティック・バイオレンス＝DV)が問題となっていますが、この5年以内に次にあげるようなことをしたり、されたりしたことがありますか。

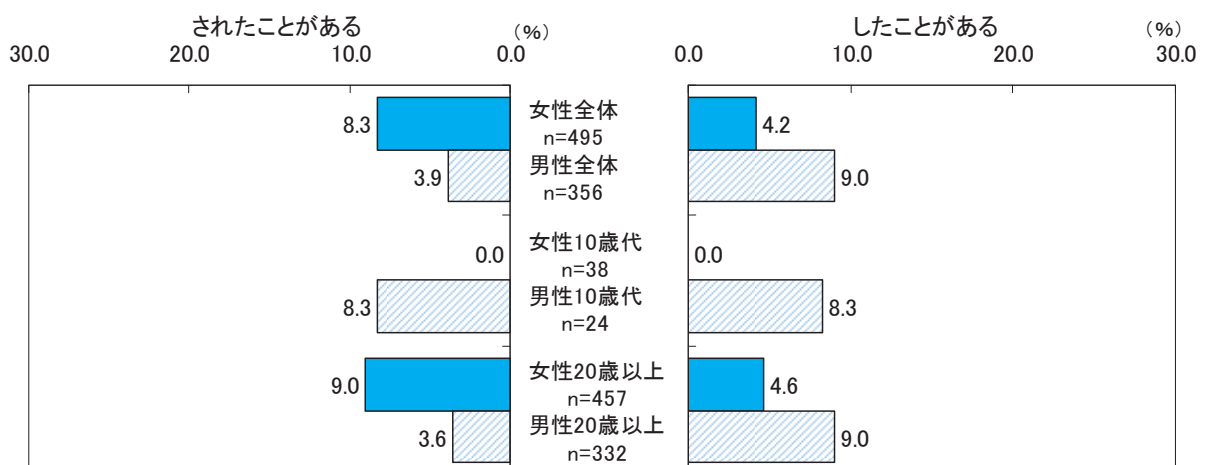
- 「されたことがある」「したことがある」のいずれも「怒鳴る、無視する、脅す」が最も多い。

「されたことがある」または「したことがある」または「どちらもある」と回答した割合は「怒鳴る、無視する、脅す」が21.8%で最も多く、次いで「殴る、蹴る、物を投げる、物を壊す」(10.8%)、「生活費を渡さない、高価な買い物を勝手にする、ギャンブルに入れ込む」(6.5%)、「メール・携帯をチェックする」(6.4%)となっている。



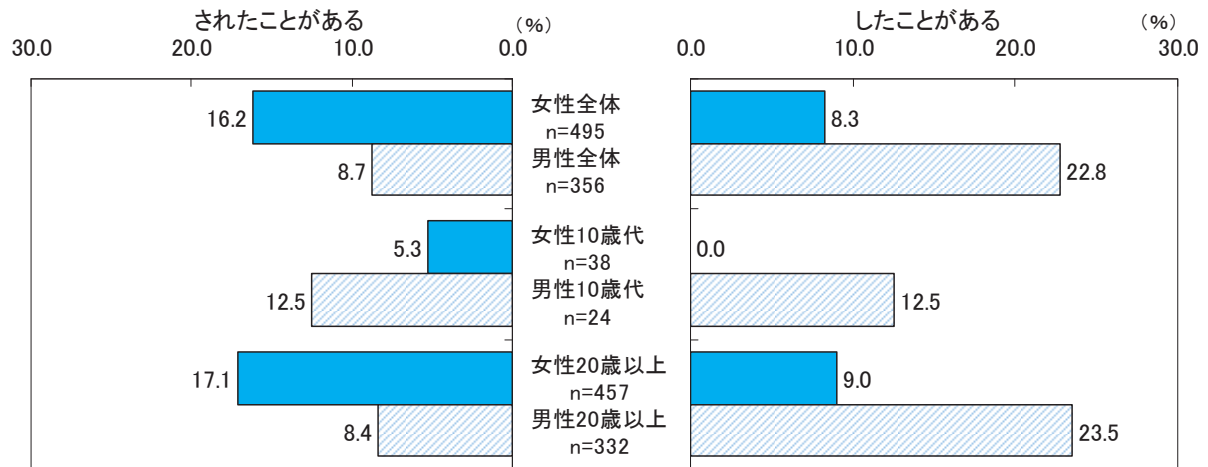
### ■ A 殴る、蹴る、物を投げる、物を壊す

身体的なものでは「女性」の1割弱が「されたことがある」、「男性」は同じく1割弱が「したことがある」と回答。



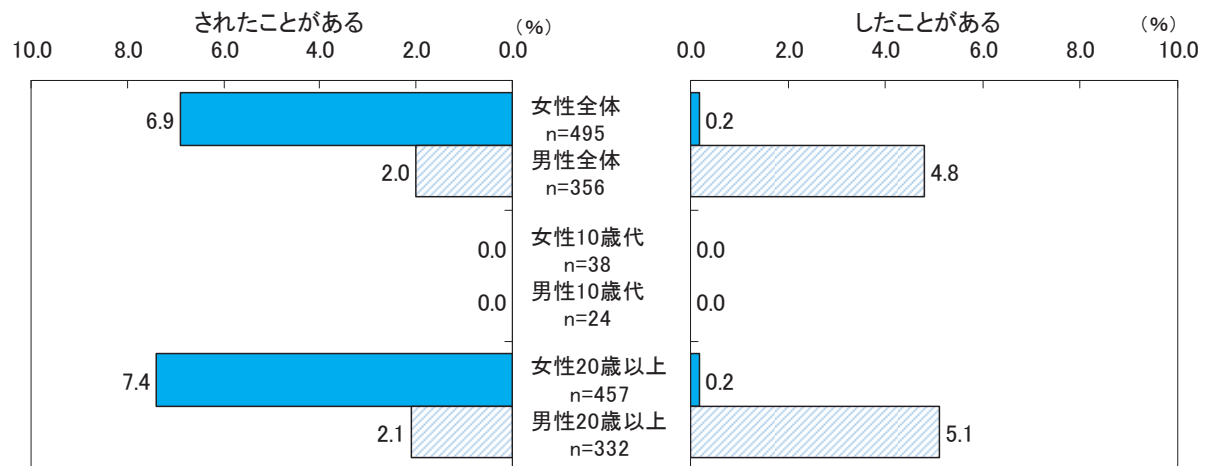
## ■B 怒鳴る、無視する、脅す

精神的なものでは男女ともに「されたことがある」「したことがある」の割合が高い。



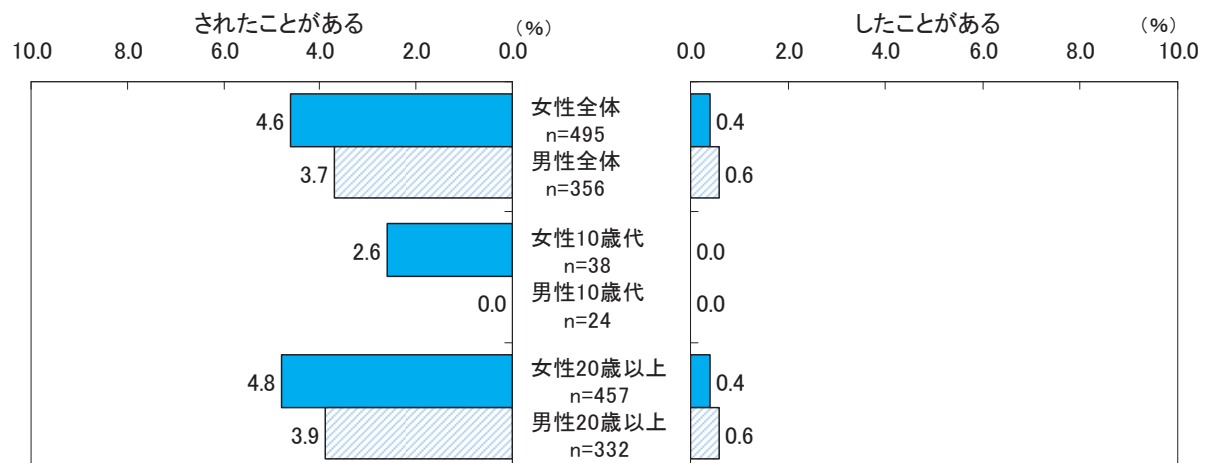
## ■C 生活費を渡さない、高価な買い物を勝手にする、ギャンブルに入れこむ

経済的なものでは男女の「されたことがある」には 3 倍以上の開きがあり、「したことがある」に関しては 20 倍以上もの大きな開きがある。



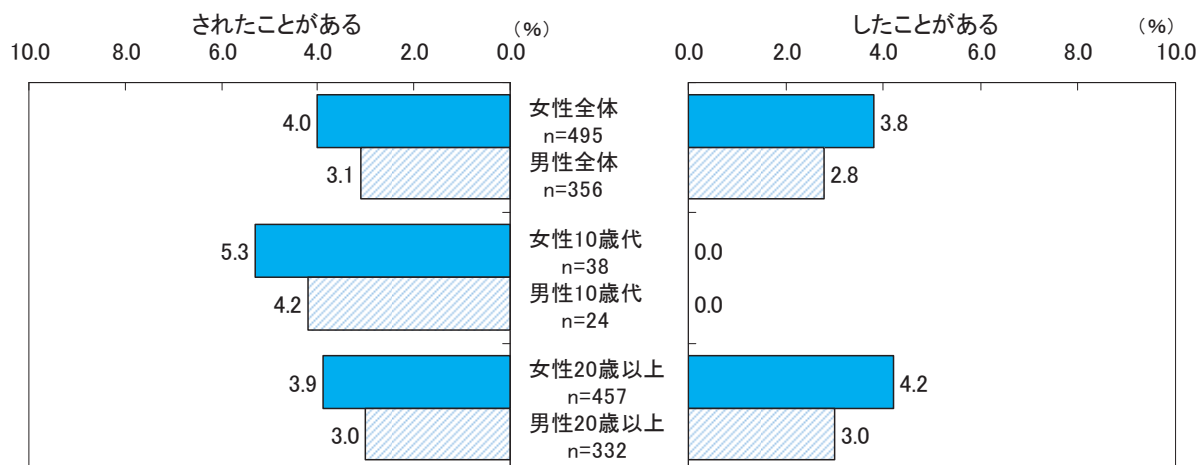
## ■D セックスを強要する、避妊に協力しない

性的なものでは男女ともに「されたことがある」と「したことがある」の差が大きい。



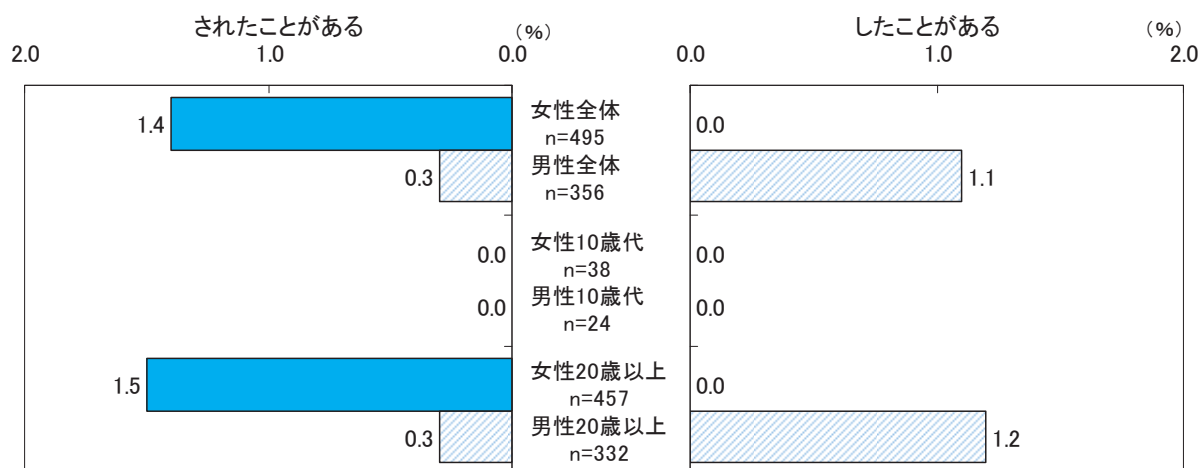
## ■E メール・携帯電話をチェックする

交友関係については「されたことがある」、「したことがある」いずれも女性の割合が高い。



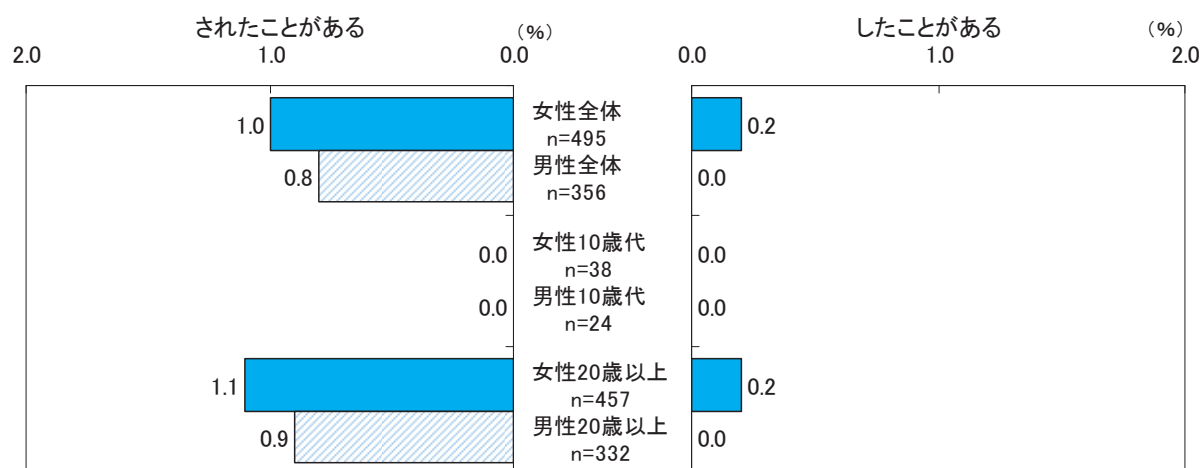
## ■F 職業に就くことを許さない

就職に関しては回答の割合が少ないが、「されたことがある」と回答したのはほぼ女性で、「したことがある」と回答したのは「男性」のみとなった。



## ■G その他

その他に関しては回答の割合が少ない。また具体例がないものの、「したことがある」と回答したのは「女性」のみとなった。

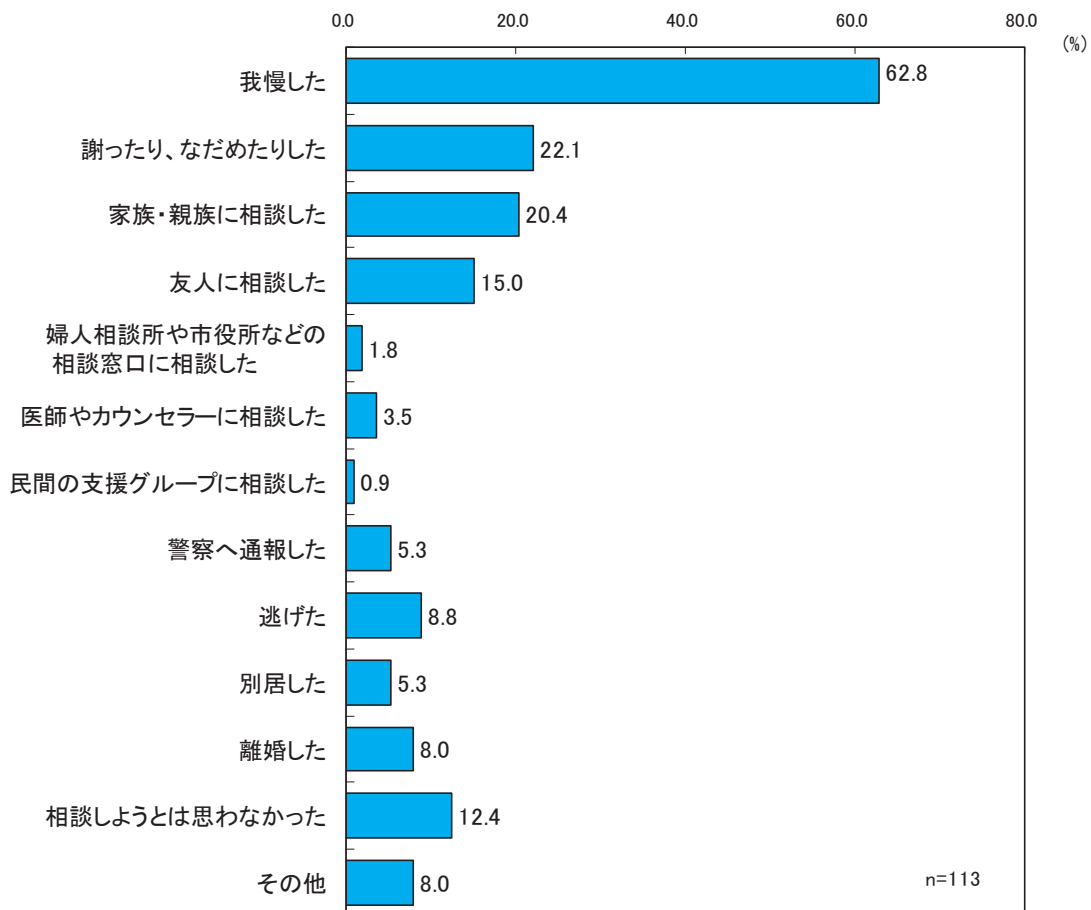


※問28で1つでも「1 されたことがある」と答えた方にお尋ねします。

**問 29 そのような行為を受けたとき、どうしましたか。(〇はいくつでも)**

● 約6割が「我慢した」と回答

「我慢した」が 62.8%で最も多い。次いで「謝ったり、なだめたりした」(22.1%)、「家族・親族に相談した」(20.4%)。「相談しようとは思わなかった」は 12.4%となっている。



◆20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

前回の調査結果と比較すると、「我慢した」は前回の 70.3%より 9.6 ポイント減少している。

◇性別

「女性」では「家族・親族に相談した」(25.6%)、「友人に相談した」(17.1%)など相談したと回答する人が多いが、「男性」では相談に関する項目への回答はない。

また、「男性」は「謝ったりなだめたりした」が 47.8%で、「女性」(15.9%)より 31.9 ポイント高くなっている。

◇性・年代別

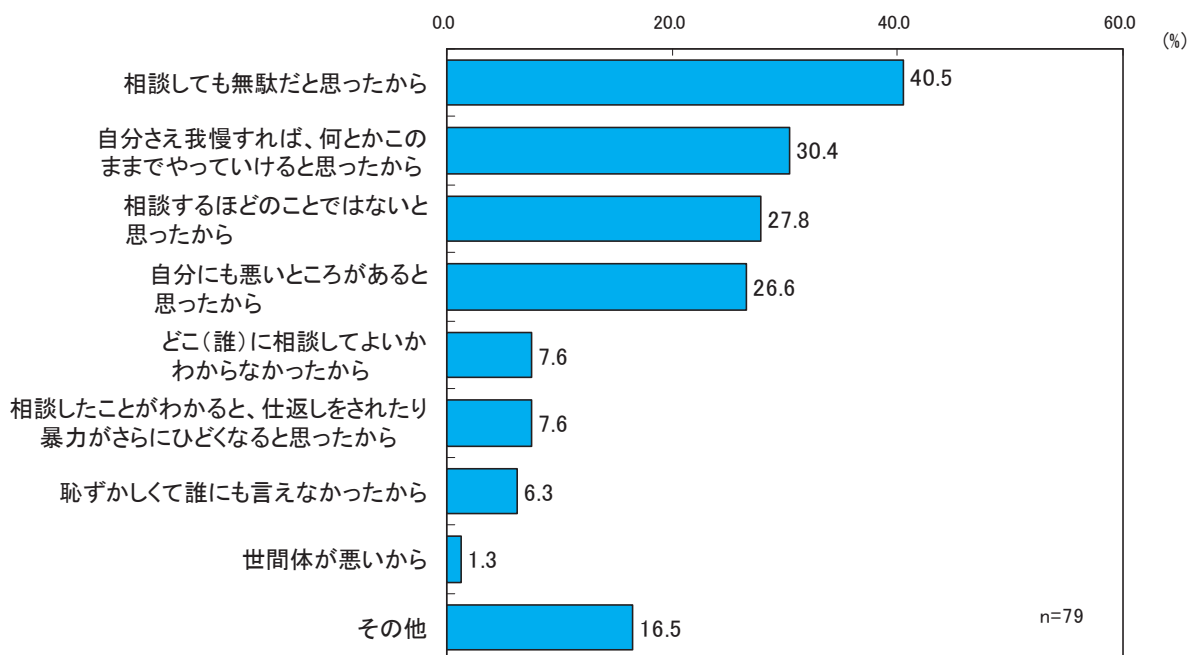
「女性」の「60 歳代」「70 歳代」では『相談した』と回答した人がいない。

※ 問29で「1 我慢した」や「12 相談しようとは思わなかった」と答えた方にお尋ねします。

問 30 それはなぜですか。(〇はいくつでも)

- →「相談しても無駄だと思ったから」が約 4 割、特に女性で高い

「相談しても無駄だと思ったから」が 40.5%で最も多く、次いで「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」(30.4%)、「相談するほどのことではないと思ったから」(27.8%)、「自分にも悪いところがあると思ったから」(26.6%)となっている。



◆20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

前回の調査結果との比較では、前回1位だった「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」は、今回の回答割合順位では 3 位で 50.9%から 22.1 ポイント減少している。

◇性別

「相談しても無駄だと思ったから」と回答した割合は「女性」が 49.1%で、「男性」(22.2%)を 26.9 ポイント上回っている。

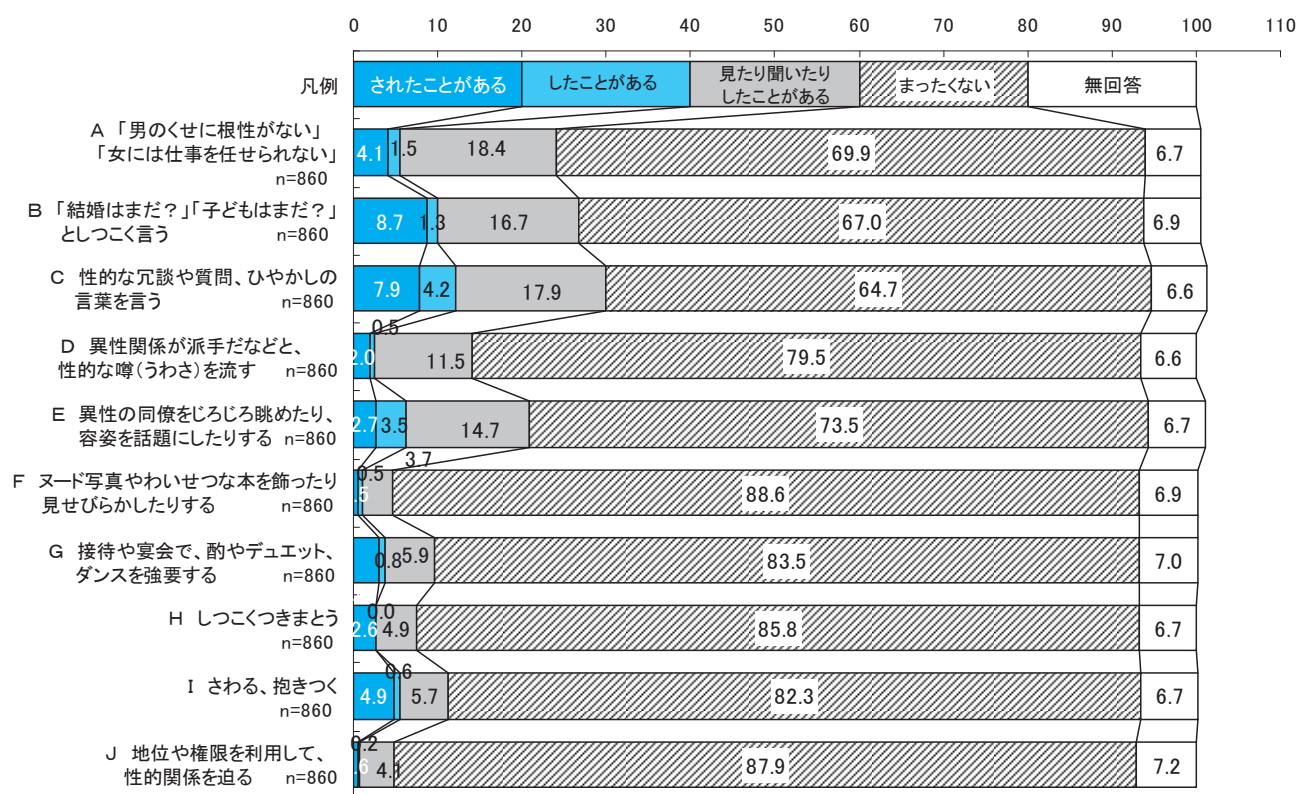
### (3) セクシュアル・ハラスメントの実態と対応

問 31 次のような行為はセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)ですが、あなたは、この5年以内に職場・学校・地域でしたり、されたりしたことがありますか。

- 「されたことがある」の最多は「結婚はまだ？子どもはまだ？」としつこく言われる。「したことがある」の最多は「性的な冗談や質問、ひやかしの言葉を言う」

「されたことがある」または「したことがある」と回答した割合は、「性的な冗談や質問、ひやかしの言葉を言う」が 12.1%で最も多く、次いで「結婚はまだ？」「子どもはまだ？」としつこくいう」(10.0%)となっている。ほとんどの項目で「したことがある」より「されたことがある」の回答割合が高い。「されたことがある」より「したことがある」の回答割合が高いのは「異性の同僚をじろじろ眺めたり、容姿を話題にしたりする」のみとなっている。

「されたことがある」と「したことがある」の差が最も大きいのは「結婚はまだ？」「子どもはまだ？」としつこくいう」となっている(「されたことがある」8.7%、「したことがある」1.3%)。



#### ◆20歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

#### ◇性別

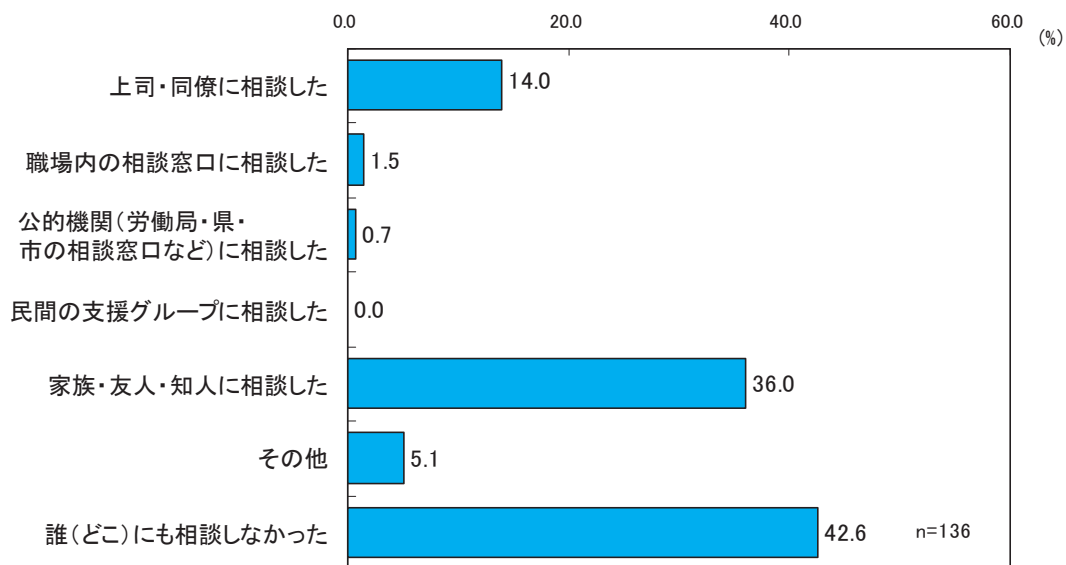
前回の調査と比較すると、「女性」で「接待や宴会で、酌やデュエット、ダンスを強要」「されたことがある」の割合は前回の 15.9%から 10.9ポイント低くなっている。「したことがある」では「男性」で「異性をじろじろ眺めたり、容姿を話題にしたりする」の割合は前回の 9.8%から 4.1ポイント低くなっている。

※ 問31で1つでも「1 されたことがある」と答えた方にお尋ねします。

問 32 そのことについて、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○はい/○はいいえ/○はどちらでもかまいません)

● 約 4 割は「誰にも相談しなかった」と回答

「誰(どこ)にも相談しなかった」が 42.6%で最も多く、次いで「家族・友人・知人に相談した」が 36.0%、「上司・同僚に相談した」が 14.0%となっている。



◆ 20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

◇ 性別

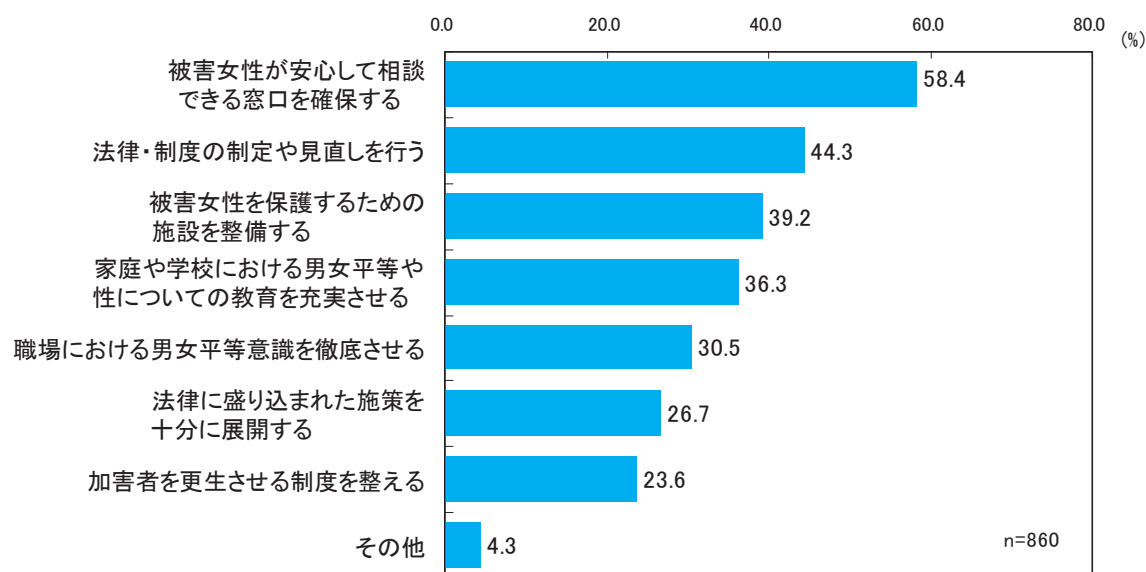
「家族・友人・知人に相談した」と回答した割合は、「女性」は 39.2%で、「男性」(4.2%)より 35.0 ポイント高い。一方、「誰にも相談しなかった」は「男性」(66.7%)が「女性」(41.2%)より 25.5 ポイント高くなっている。

#### (4) 女性に対する暴力への対策

問 33 女性に対する暴力(性犯罪、売買春、パートナーからの暴力、セクシュアル・ハラスメントなど)をなくすためには、どうしたらよいと思いますか。(〇はいくつでもかまいません)

- 約6割が「被害女性が安心して相談できる窓口を確保する」と回答

「被害女性が安心して相談できる窓口を確保する」が 58.4% で最も多く、次いで「法律・制度の制定や見直しを行う」(44.3%)、「被害女性を保護するための施設を整備する」(39.2%)となっている。



#### ◆ 20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

前回の調査結果と比較すると、選択肢は一部異なるが、ほぼ同じ傾向となっている。

#### ◇ 性別

「法律・制度の制定や見直しを行う」の回答割合は、「男性」(49.4%)が「女性」(40.5%)より 8.9 ポイント高く、「被害女性を保護するための施設を整備する」の回答割合では、「男性」(33.4%)が「女性」(44.9%)より 11.5 ポイント低くなっている。

#### ◇ 性・年代別

「被害女性が安心して相談できる窓口を確保する」の回答割合は、「女性」の「20 歳代」から「60 歳代」まで年代が上がるにつれ高くなっていく。

## 7 男女平等・男女共同参画社会について

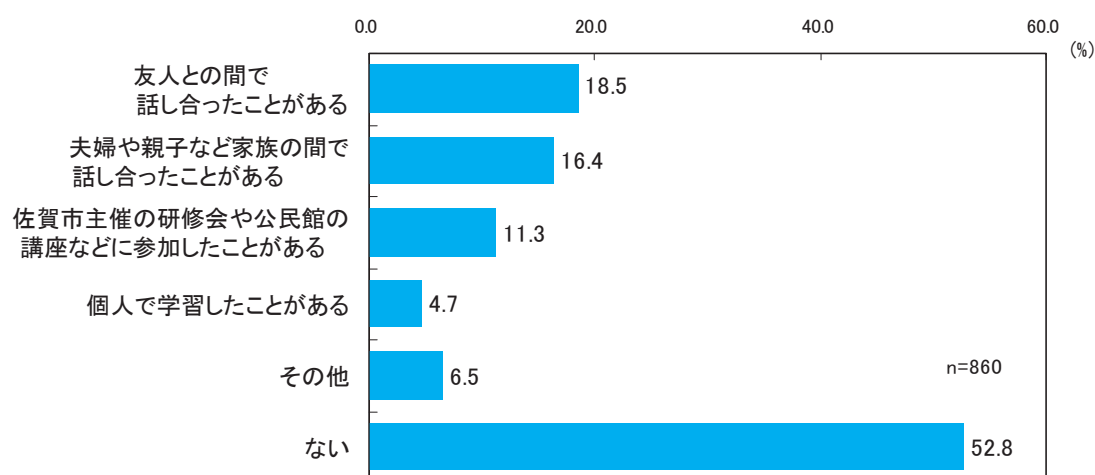
### (1) 男女共同参画についての学習経験

問 34 これまでに、男女平等や男女共同参画について話し合ったり学習したりしたことがありますか。  
(すべて)

- 約半数が男女平等や男女共同参画について話し合ったり学習したりしたことは「ない」と回答

「ない」と回答した人が 52.8%。

話し合ったことなどがあると回答した割合は、「友人との間で話し合ったことがある」が 18.5%で最も多く、次いで「夫婦や親子など家族の間で話し合ったことがある」(16.4%)、「佐賀市主催の研修会や公民館の講座などに参加したことがある」(11.3%)、「個人で学習したことがある」(4.7%)となっている。



#### ◆20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

前回の調査結果と比較すると、前回の「ない」の回答割合は「女性」が 27.1%、「男性」が 23.9%で、今回の結果(「女性」53.4%、「男性」53.9%)が高くなっている。(ただし、前回は「新聞や雑誌で関連記事を読んだことがある」など選択肢数が異なることに留意する必要がある)

#### ◇性・年代別

「佐賀市主催の研修会や公民館の講座などに参加したことがある」の回答割合は、男女ともに「20 歳代」から「60 歳代」まで年代が上がるにつれ高くなっていく。

「ない」の回答割合が多かったのは「男性 30 歳代」(68.6%)、「女性 40 歳代」(64.0%)、「男性 50 歳代」(61.9%)、「女性 30 歳代」(61.3%)。

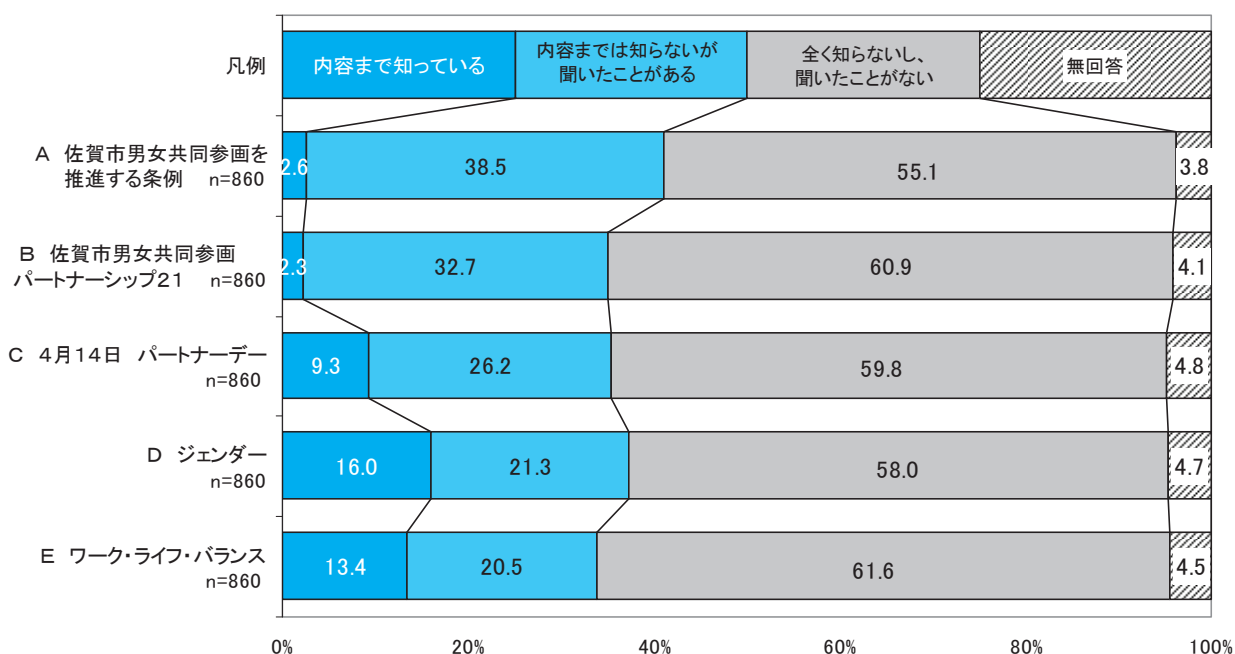
## (2)男女共同参画関連用語の認知

問 35 男女共同参画に関する次の用語などを聞いたことがありますか。

- 「パートナーデー」について「内容まで知っている」「内容までは知らないが聞いたことがある」と回答した割合は前回調査(22.4%)より 13.1 ポイント増加している。

「内容まで知っている」と回答した割合は、「ジェンダー」が 16.0%で最も多く、次いで「ワーク・ライフ・バランス」(13.4%)、「パートナーデー」(9.3%)となっている。

「内容まで知っている」と「内容まで知らないが聞いたことがある」をあわせた割合は、「佐賀市男女共同参画を推進する条例」が 41.1%で最も多く、次いで「ジェンダー」(37.3%)、「パートナーデー」(35.5%)となっている。



### ◆20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

前回の調査結果と比較すると、「内容まで知っている」と「内容まで知らないが聞いたことがある」をあわせた割合は、「佐賀市男女共同参画を推進する条例」では前回(33.5%)より今回(41.3%)が 7.8 ポイント高く、「ジェンダー」(前回 24.3%)は 11.3 ポイント、「ワーク・ライフ・バランス」(前回 21.6%)は 12.8 ポイントそれぞれ高くなっている。

### ◇性別

「佐賀市男女共同参画を推進する条例」「佐賀市男女行動参画パートナーシップ 21」では、「内容を知っている」「内容までは知らないが聞いたことがある」と回答した割合は「男性」より「女性」が高くなっている。

#### ◇性・年代別

「全く知らないし、聞いたことがない」と回答した割合が高いのは、「佐賀市男女共同参画を推進する条例」の「男性 20 歳代」(87.9%)、「佐賀市男女共同参画パートナーシップ 21」の「男性 20 歳代」(87.9%)、「パートナーデー」の「男性 20 歳代」(84.8%)となっている。

「ジェンダー」は、「女性 60 歳代」の約7割(68.4%)が「全く知らないし、聞いたことがない」と回答している。

一方、「内容まで知っている」と回答した割合が高いのは、「ジェンダー」は男女ともに「20 歳代」から「50 歳代」、「ワーク・ライフ・バランス」は男女ともに「20 歳代」から「40 歳代」となっている。

### (3) 男女平等に関する意識

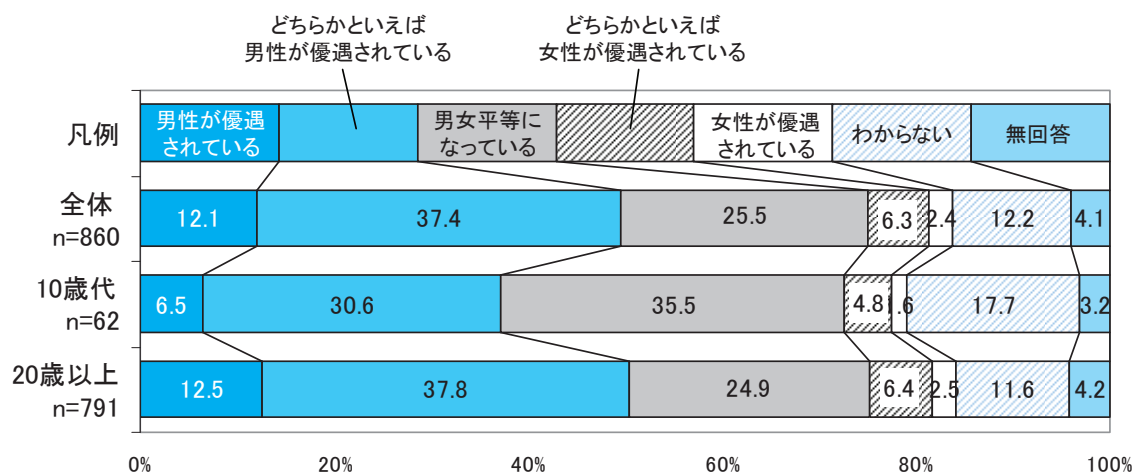
問 36 現在、次のA～Eの分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

#### A. 家庭生活で

- 約半数が『男性が優遇』と回答

『男性が優遇』(「男性が優遇されている」+「どちらかといえば男性が優遇されている」)の回答割合は49.5%で、『女性が優遇』(「女性が優遇されている」+「どちらかといえば女性が優遇されている」)8.7%より40.8ポイント高くなっている。

性別でみると、『男性が優遇』と回答した割合は、「女性」(53.0%)が「男性」(44.4%)より8.6ポイント高くなっている。



#### ◆10歳代(16歳～19歳)結果

「男女平等になっている」と35.5%が回答している。

##### ◇性別

「男女平等になっている」と回答した割合は、「女性」(28.9%)が「男性」(45.8%)より16.9ポイント低くなっている。

#### ◆20歳代以上結果

全体とほぼ同じ割合となっている。

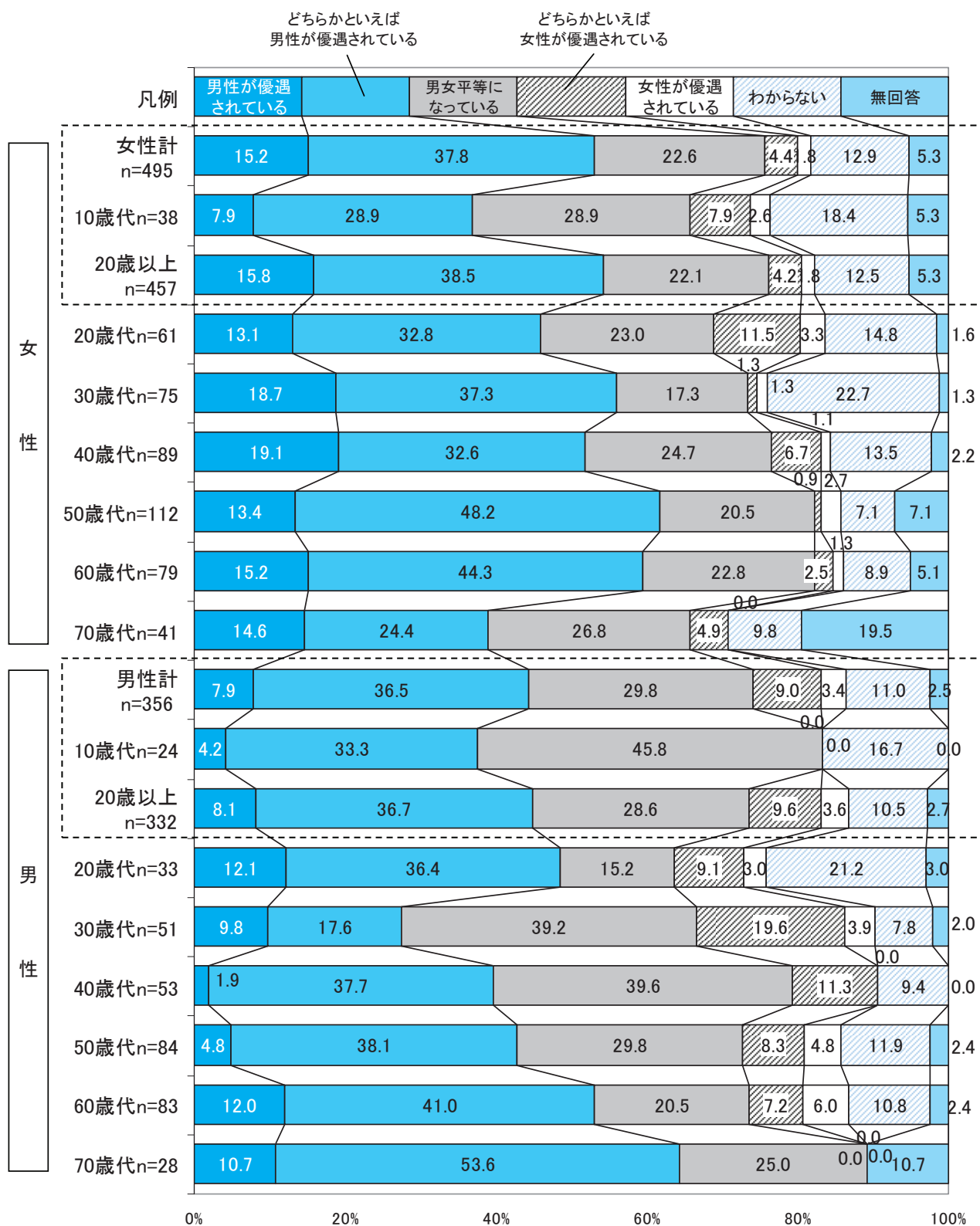
前回の調査結果と比較すると、『男性が優遇』の割合は、前回の結果(57.7%)より7.4ポイント低くなっている。

##### ◇性別

『男性が優遇』と回答した割合は、「女性」(54.3%)が「男性」(44.8%)より9.5ポイント高くなっている。

##### ◇性・年代別

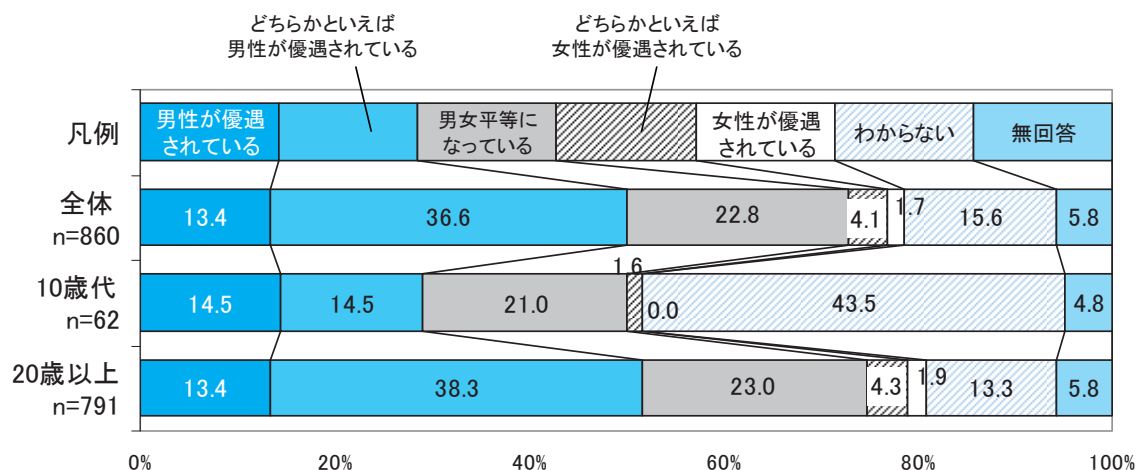
「男性」の「30歳代」から「70歳代」まで年代が上がるにつれ、『男性が優遇』と回答した人の割合が高くなっていく。「女性」では「50歳代」と「60歳代」で『男性が優遇』の回答割合が高く、6割前後となっている。



## B. 職場で

- 30～40 歳代女性では約 6 割が『男性が優遇』と回答

『男性が優遇』（「男性が優遇されている」+「どちらかといえば男性が優遇されている」）の回答割合は 50.0%で、『女性が優遇』（「女性が優遇されている」+「どちらかといえば女性が優遇されている」）の 5.8%より 44.2 ポイント高くなっている。



### ◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

「わからない」が 43.5%となっている。

#### ◇性別

「男女が平等になっている」と回答した割合は、「女性」(26.3%)が「男性」(12.5%)より 13.8 ポイント高くなっている。一方、「わからない」の回答割合は、「男性」(54.2%)が「女性」(36.8%)より 17.4 ポイント高くなっている。

### ◆20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

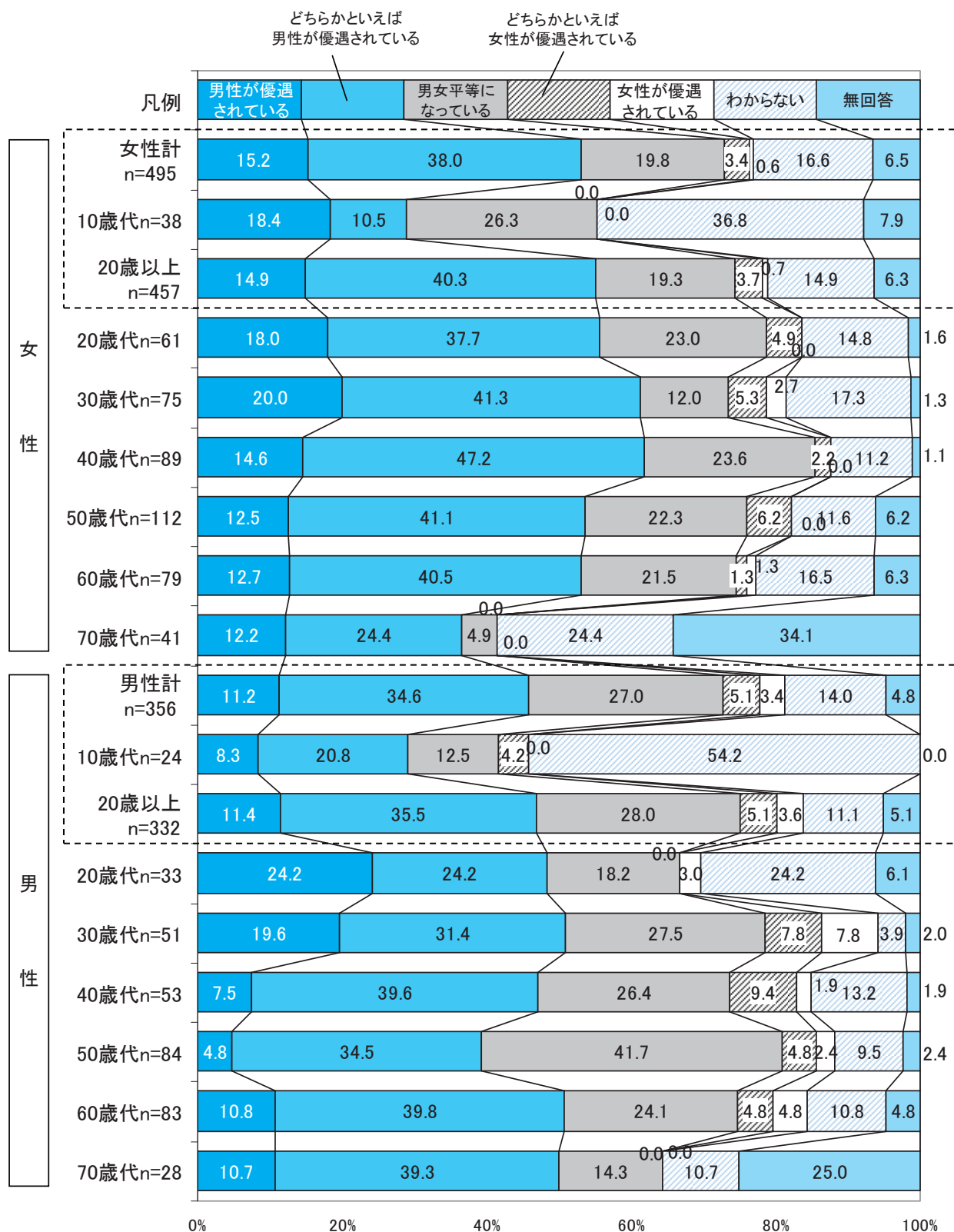
前回の調査結果と比較すると、『男性が優遇』の割合は、前回の結果(57.7%)より6.0ポイント低くなっている。

#### ◇性別

『男性が優遇』と回答した割合は、「女性」(55.2%)が「男性」(46.9%)より 8.3 ポイント高くなっている。

#### ◇性・年代別

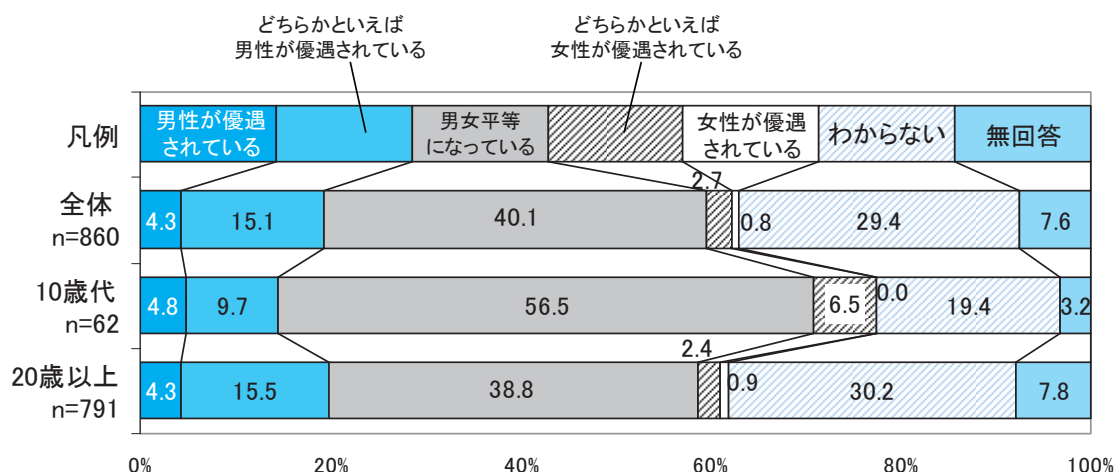
『男性が優遇されている』と回答した割合が高いのは、「女性 40 歳代」(61.8%)、「女性 30 歳代」(61.3%)となっている。



## C. 学校教育の場で

- 全体では約 4 割、10 歳代では 5 割以上が「男女平等になっている」と回答

『男性が優遇』（「男性が優遇されている」+「どちらかといえば男性が優遇されている」）の回答割合は 19.4%。「男女平等になっている」の回答割合が 40.1%で問 37 の項目中で最も高い。『女性が優遇』（「女性が優遇されている」+「どちらかといえば女性が優遇されている」）は 3.5%。



### ◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

「男女平等になっている」と 56.5%が回答している。

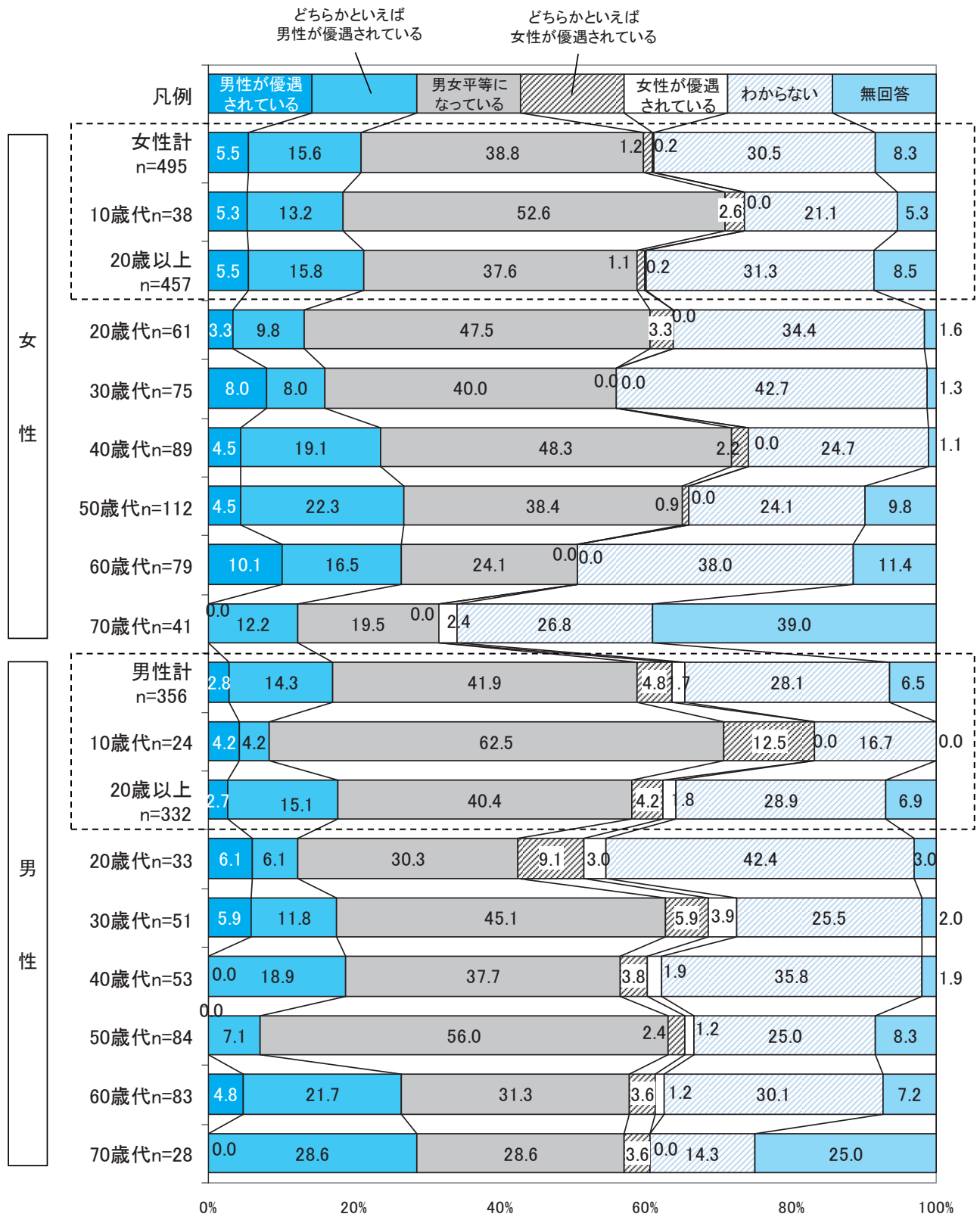
### ◆20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

前回の調査結果と比較すると、『男性が優遇』の割合は、前回の結果(19.1%)より0.7ポイント高くなっている。

### ◇性・年代別

「男性 50 歳代」では「男女平等になっている」の回答割合が高く、56.0%となっている。

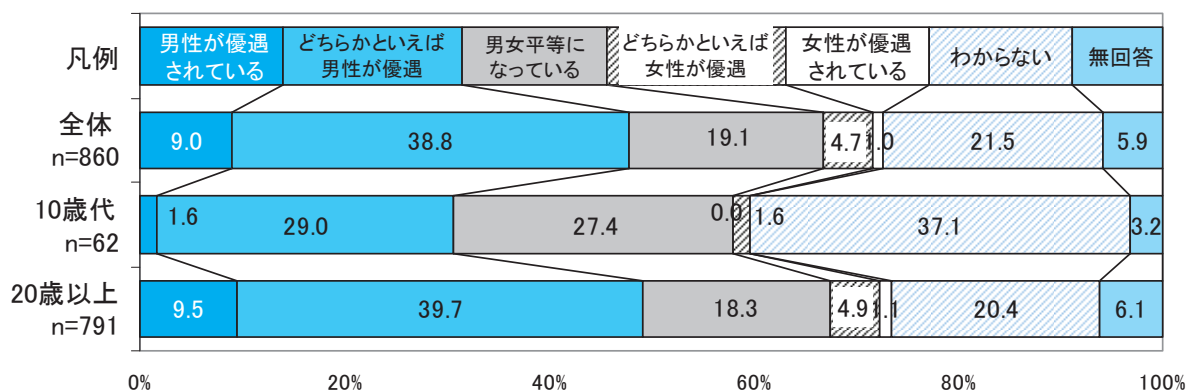


## D. 地域や社会活動の場で

- 40～50 歳代の女性では 6 割が『男性が優遇』と回答

『男性が優遇』（「男性が優遇されている」+「どちらかといえば男性が優遇されている」）の回答割合は 47.8%で、『女性が優遇』（「女性が優遇されている」+「どちらかといえば女性が優遇されている」）5.7%より 42.1 ポイント高くなっている。

性別でみると、『男性が優遇』と回答した割合は、「女性」（51.7%）が「男性」（42.1%）より 9.6 ポイント高くなっている。



### ◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

「男女平等になっている」が 27.4%で、全体結果(19.1%)より 8.3 ポイント高くなっている。

#### ◇性別

『男性が優遇』と回答した割合は、「女性」(36.8%)が「男性」(20.8%)より 16.0 ポイント高くなっている。

### ◆20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合となっている。

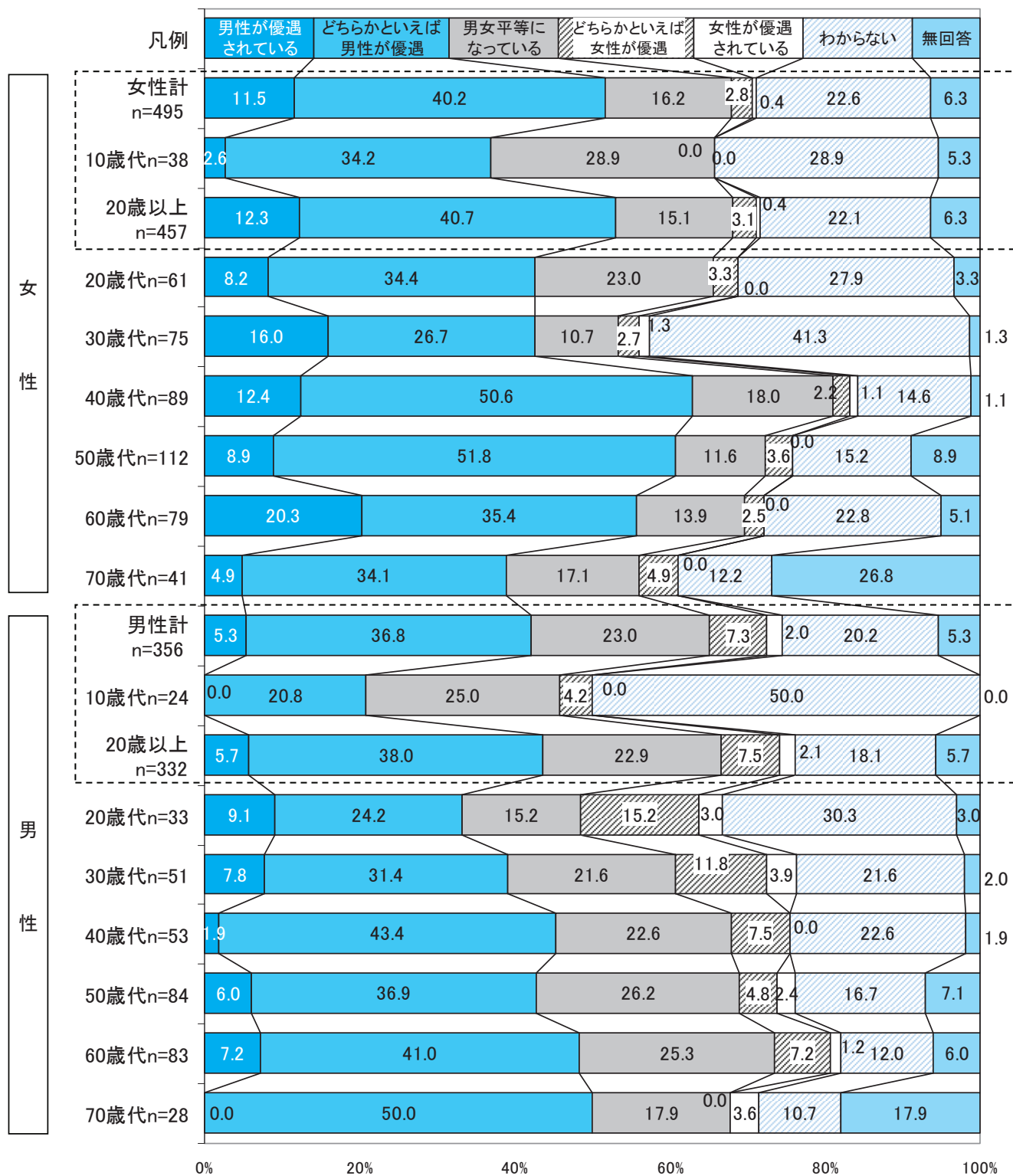
前回の調査結果と比較すると、『男性が優遇』の割合は、前回の結果(45.1%)より4.1ポイント高くなっている。

#### ◇性別

『男性が優遇』と回答した割合は、「女性」(53.0%)が「男性」(43.7%)より 9.3 ポイント高くなっている。

#### ◇性・年代別

『男性が優遇されている』の回答割合が高いのは、「女性 40 歳代」(63.0%)、「女性 50 歳代」(60.7%)、「女性 60 歳代」(55.7%)となっている。

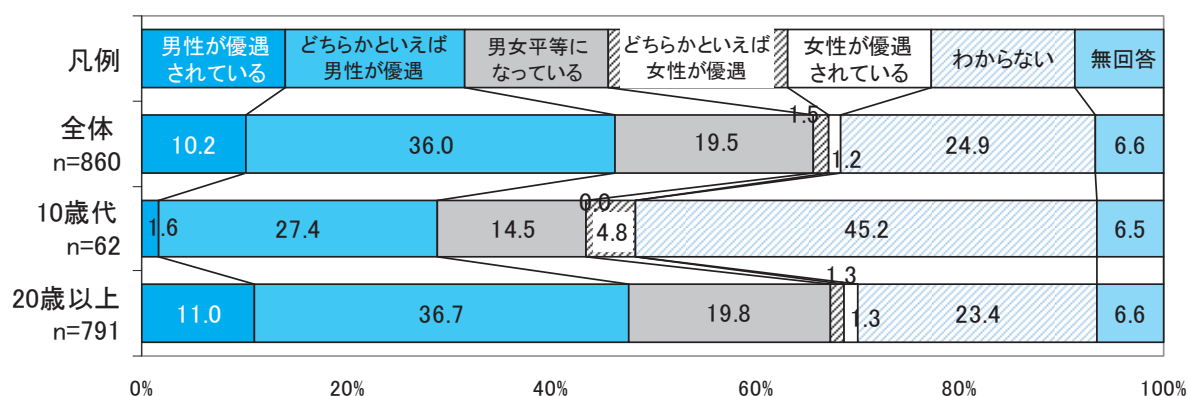


## E. 就職・採用の際に

- 『男性が優遇』は前回の調査結果と比べて 13.2 ポイント減少

『男性が優遇』(「男性が優遇されている」+「どちらかといえば男性が優遇されている」)の回答割合は 46.2%で、『女性が優遇』(「女性が優遇されている」+「どちらかといえば女性が優遇されている」)2.7%より 43.5 ポイント高くなっている。

性別でみると、『男性が優遇』と回答した割合は、「女性」(48.3%)が「男性」(43.2%)より 5.1 ポイント高くなっている。



### ◆10 歳代(16 歳～19 歳)結果

45.2%が「わからない」と回答している。

#### ◇性別

『男性が優遇』と回答した割合は、「女性」(39.4%)が「男性」(12.5%)より 26.9 ポイント高くなっている。

### ◆20 歳代以上結果

全体結果とほぼ同じ割合になっている。

前回の調査結果と比較すると、『男性が優遇』の回答は、前回の結果(60.9%)より 13.2 ポイント低くなっている。

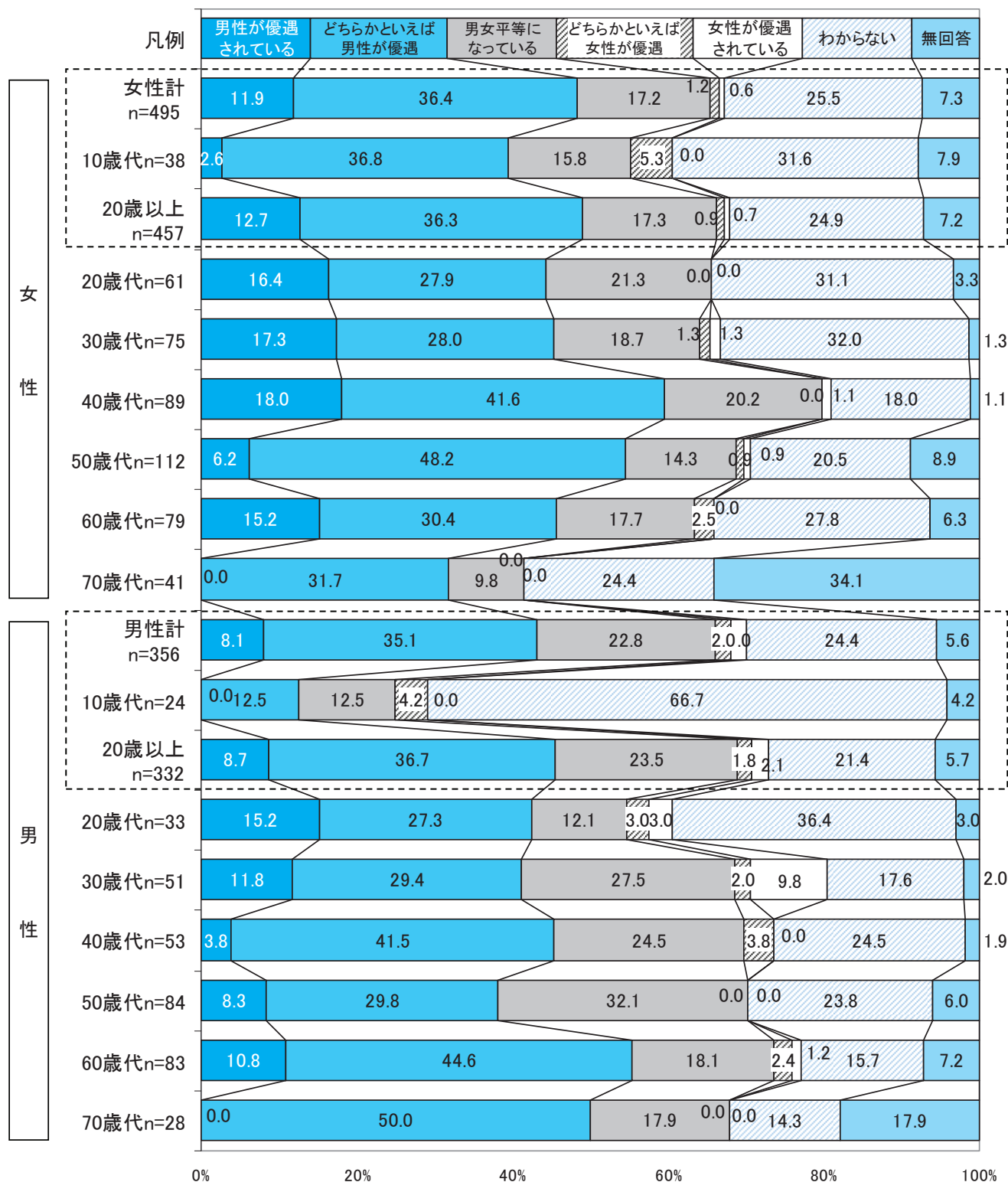
#### ◇性別

『男性が優遇』と回答した割合は、「女性」(49.0%)が「男性」(45.4%)より 3.6 ポイント高くなっている。

#### ◇性・年代別

『男性が優遇』と回答した割合は、「男性 60 歳代」(55.4%)、「女性 40 歳代」(59.6%)でそれぞれの性別で最も高くなっている。

「男女平等」と回答した割合は「男性 50 歳代」32.1%、「女性 20 歳代」21.3%でそれぞれの性別の中で最も高くなっている。



## 8 自由意見

質問の最後に自由記入欄を設けたところ、129 人からの記入があった。  
その一部を省略・抜粋し、項目別に表示した。

### 1 男女共同参画・男女平等について

#### 【女性】

- このアンケートに答えるにあたり、自分の中の男女共同参画についての意識が高くなった気がします。(20 歳代)
- 一部の方が知っていても何の意味もないと思います。もっと男女平等の意識が高くなってほしい。何にしても男性のほうが優遇されすぎていると思います。(30 歳代)
- 佐賀の環境としては、男性の保守的な考えが強く、生活のために女性(妻)も働かされつつも、家事や育児に対して男性(夫)の協力が乏しい。これでは女性にストレスがかかり、子どもを多く産みたいと思うゆとりはない。男性の意識改革を望みます。(30 歳代)
- 「男女共同参画」の言葉自体不明。「参画」は「参加」と違う意味なのですよね。ひらがなでもいいのではないですか。小学生くらいから「人」として、社会や家庭の中での論理が考えられるようにしていかないと。キャラクターを使ってもいいから、若年層へのアピールをもっと頑張りましょう。(30 歳代)
- 男だから女だからとか考えることが全て悪いとは思っていません。ただ最近、男女平等をよく耳にします。確かに人間は公平にいろいろな権利を与えられるべきだと思います。しかし、そもそも男女は同じではないと思います。お互いに尊重することが大事だと思います。でなければ、男に生まれた意味、女に生まれた意味がありません。全て男女の差がなくなると、ますます少子化が進みそうです。(40 歳代)
- 男女平等は理想だけれども、自治会等においては力仕事・機械いじりなどは男性にお任せになってしまう。平等を唱えるならば女性も覚悟が必要でしょう。(50 歳代)
- 自分が就職した 40 数年前に比べ、現在は男女共同参画が、ずいぶん進んだと思う反面、地域社会や家庭などの限られた狭い社会では、男女平等の意識が、まだ昔とあまり変わっていないと思うときもあります。男も女も互いに思いやりながら、のびのびと生きられる社会になればよいと思います。(60 歳代)
- 男女共同といってもまだまだ佐賀市では進んでないと思うし、家族の思う気持ちを大切にしながら生活ができるようになればいいと思う。4.14 パートナーデーを初めて知った。良かった。(70 歳代)

#### 【男性】

- 中年～年配の方が、男性優位に感じられる。(20 歳代)
- 十人十色、多種多様を謳いながら、男女をひとくりにまとめようという間はうまくいくわけがない。(20 歳代)
- 男女共同参画と言っているようでは、まだまだ。なぜ、人間共同参画とならないのか。(40 歳代)
- 共同参画、平等は確かに大切なことだが、男性は男性でできること。女性は女性でできること。男

性はらしく、女性は女らしく、お互いを尊重することが、何より大切だと思う。思いやりです。(40 歳代)

- 男女共同参画とは何なのかがわからない。これは佐賀県が行っているのか、国が行っているものなのか。また、意味が不明のため、この男女共同参画について、PR 及び、新聞や TV などでは何なのかを PR していただきたい。(50 歳代)
- 世の中、益々男女平等になっていくことが好ましいと思うし、また、風潮もそうになっている。ただ、男女平等と行っても、肉体的な差異があるので、その辺は考慮しないといけない。今の子ども、若い成人男を見ていて、男勝りの女、女々しい男等が散見されるが、そでは時代の移り変わりで仕方のない面もあると思うが、根本的に男は男らしく、女は女らしい優しさは失ってほしくないと思う。それには幼少期から道徳を含めて、教育(学校や家庭)を実践する必要がある(偏った思想教育ではなく)。そうすると、少子化、子育て男女不平等の問題が解決できると思います。(60 歳代)
- 大変難しい問題に取り組んでいると思います。男女共同参画で、お互い助け合って生活することが大切だと思います。(70 歳代)

## 2 就労・雇用について

---

### 【女性】

- 男女とも職場で子どもの行事や病気では休みにくいです。有給休暇制度もありますが、取りにくいです。パートの面接に行った際に言われた一言が、「どうせすぐ子どもができましたって辞めたりするんじゃない。困るんだよね。ただでさえ子どもが小さいから病気ですぐ休すむパートさん多いから。」と、面接の具体的なことを話す前に言われ、断られました。(30 歳代)
- 結婚後、女性は大半が退職し、育児・介護など家庭の中だけになり、社会より孤立している傾向がある。もう少し女性は社会に復帰でき、自立できるような環境が整備されたい。(40 歳代)
- 女性と男性は何でも同じようにというのは無理だと思います。男は仕事、女は家庭という昔のほうがよかったと思います。女性もできれば専業主婦でいたいという人も多いのではないですか。私もその一人です。主人の収入ではどんなに節約しても生活できないので働いています。働かなくてはいけないので、子どもを生みたいけれど無理ということで、ひとりっ子です。少子化だ高齢化だと騒ぐなら、男性の収入で生活できるよう、雇用のあり方を考えるべきです。(40 歳代)
- 職場で、セクハラ問題があり、被害者は派遣社員の女性。派遣社員の女性はマニュアルどおり課長に相談し、対処が遅いので私も相談を受けた。結局、会社が守ったのは男性。女性はいろんな理由をつけられ他県へ移動させられた。管理者にももっと女性がいれば、結果が違っていたのかもしれない。本当に守るべきものは弱い立場の人間だと思う。会社の相談窓口は全くあてにならないものだと感じた。(40 歳代)
- 会社や仕事場で正規職員として働くとき、男女同等の仕事内容になるのは当然。そのような場合、労働時間も長く、家庭を持つ者にとっては両立できなくなります(例えば夫婦で遅くまで仕事に就くならば、子どもの世話をする人がいない)。日本も労働時間を短縮しないと両立は難しいと思います。(50 歳代)
- 小さい子どもを持っている人が、もっと働きやすくしてあげる。職場を離れ、子どもを生んだが、再雇用は難しい。保育園に預けても、保育料が高く、手元にわずかしが残らない。(60 歳代)

#### 【男性】

- 自分は男ですが、女性が子育てには時間をかけられ、それなりの収入が得られる仕事ができることを願っています。教育が一番大切だと思います。(20 歳代)
- 女性が再就職しやすいようなシステムを充実させてほしい。(20 歳代)
- 性別によるキャラクターの違いが完全に平等になることはないと思いますので(個人の能力差も同じですが)、互いの性別を尊重していくことが重要ではないかと思います。社会的な能力は(制度が先行して)発揮できる環境をつくることから始めるしかないと思います。制度が変われば考え方も変えざるを得ません。(40 歳代)
- 私は現在就職活動中ですが、その際、ハローワーク等での求人について、求人票への記載は、規則で男女を問わず応募できるはずなのに(表面上)、実際、詳しく聞くと、男性だけ、女性だけを希望している(当初から)場合がある。これは厳密に言えば違反であり、ハローワークの担当者も何の疑問も呈さない。これではいくつ応募しても、いらぬ労力と時間をつぶしているにすぎない。もっと細部に至るまで、どういう人材を募集しているか提示させる必要がある。(50 歳代)

### 3 教育・子育てについて

---

#### 【女性】

- 学校祭で男子だけ前夜祭があってストームをするのは時代遅れだと思う。男子がストームの練習をしている間、女子は男子の分まで文化祭の準備をさせられて、不平等だなと思う。女子も前夜祭がしたいのに。学校で男女平等の意識をもてなければ、社会に出てからはもっと、そんな意識をもとうとする余裕もないはず。学校教育の場から、変えていってほしいと思う。(10 歳代)
- 学校等でも講演会を催していただいています、いまいち伝わってこず、自分のこととして考えている人は少ないように感じます。「平等」というものは一人ひとりの意識があってこそ成り立つものだと思うのです。もっといろいろな機会をつくり、これからの日本を担う若い世代から意識改革を行っていただけたらなと考えます。(10 歳代)
- 人権教育について。「女の子らしく」「男の子らしく」という表現があるが、「らしさ」は大事にしたい。女性の持つ母性や男性の持つ父性を育てることは大事だと思うので、男女平等についての理解を深めながらも、女性ならではの教育、男性ならではの教育があってもいいと思う。互いの性を認め合うことが身に付けられれば、男女共同参画社会の形成につながると思う。(30 歳代)
- 女性の社会進出には、子育て支援をもっと充実させてほしい。現在、子どもは保育園に通園していますが、入園させるまで、市役所の窓口対応や手続きに好感を持てなかったという人が、周りに多くいるのが現状です。小学校の学童クラブも利用枠が増加できるといい。(30 歳代)
- 人生観などが多様化し、結婚しない人も増えているように思う。また、結婚して子どもをもっても、子どもが小さく手がかかる時期に男性が働き盛りのため、仕事が忙しく、家に帰る時間が遅かったりで、母親が大変。同居していて姑がいてもらえるだけで、少しの間でも子どもをみてもらえたりするので、そのようなとき、同居していてよかったと思うが、実際、一緒に暮らすのは大変。でも子どもにはいい環境だったかなと思う。(40 歳代)
- 家事・育児は平等にするという考えが広まり、若い世代の人たちの中では、男性も分担する人が増え、良い傾向だと思います。しかし、男女が両方とも同等の仕事に就いているのなら当然であると思いますが、仕事を持たない人が連れ合いだけに家事も育児も求める場合もよく見かけるよう

になりました。(50 歳代)

- 基本法が施行されたころに比べると、私のまわりの人もかなり理解してきていると思います。学校教育の立場で力を入れてもらって、意識調査の必要のない社会がつかれるようにしてほしいと思います。(50 歳代)
- 赤ちゃんは幼児になるまで、お母さんが育てたほうが良いと思う。(50 歳代)

#### 【男性】

- 学校の先生でも女子にあまい先生がいるので、「男女平等」の意識は徹底させていくべきだと思う。(10 歳代)
- 学校教育の場において、男女平等、共同参画は何度も教育があったが、そのどれもが性教育とは切り離され、ただ平等である、同権である、女性は無視されている、言うだけのものであった。男性は男性であり、女性は女性であり、そこに身体的・精神的に差が存在するのは今更言うまでもない当然の事実である。現在の教育・風潮にはその点に盲目的、あるいは目を逸らしている面があるように感じる。違いがあるということを認め、明確にし、その知識を得て理解することが、“性別”の本質的な尊重の基礎であると考え。(20 歳代)
- 男が子どもを育てると女性からの見方が変わる。早く誰か見つけたら等、頑張って子どもを育てているのに本当に辛い。もっと男性にも目を向けてほしい。(30 歳代)
- 女性が仕事を続けていくうえで、子どものいる女性と子どものいない女性、または未婚の女性の間での理解が得にくい部分も多いのではないかと思います。私も子どもができて、初めて子育ての大変さがわかりはじめています。男性→女性への理解不足もさることながら、女性→女性への理解不足の方も大きな問題ではないかと思います。男性の育休について私は取らせていただきましたが、申請しにくい雰囲気があるのは間違いないと思います。実際、このような活動で推進している公務員の方々は、男性がどのくらい育休を取れているのか、また、取ることに対して全く問題ないのか興味はあります。(30 歳代)
- 少子化が問題ですが、子を生むことは女性しかできないこと。何とか子どもを安心して育てられる環境づくりをしていただきたい。また、セクハラやじについて、男性の考えを変えるように。何か特権意識でも持っているのではないかと。男女共同参画でしていることをなかなか伝えられないのでは。(50 歳代)

## 4 人権について

---

#### 【女性】

- 価値観の多様化が進んでいる。さまざまな選択ができるような配慮や理解があればよいと思う。「こうする方がよい」と決めるのはよくない。(20 歳代)
- 性別に関係なく、人を傷つける言葉や行動が減り、相手が(まわりの人)に思いやりの心を持って、接することができれば差別は減っていくと思います。(40 歳代)
- 「離婚したら、あなたたち(子ども)を育てていけない。」とか「進学・就職の際、片親は不利。」など、親の口から聞かされてきました。それと同時に「パートナーのいない人は障害者。」だとか、「はしにも棒にもかからないゴミだ。」とか、とかく個人を攻撃し、人格をおとしめる意識(自分は違うという優越感)にすぎている、不幸な既婚者が多いと憂えています。自分の生計を自分でたてられる

者同士がパートナーとなって、子どもを育て、自立させ、自らも自立して生きることが理想です。動物のほうが人間よりできている気がします。(40 歳代)

【男性】

- 高齢者よりも若い世代(20 代・30 代)が、女性を思いやる気持ちが強いと感じます。(40 歳代)

## 5 その他

---

【女性】

- このような企画があることを全く知りませんでした。もっと国民、私たちに広報することが大切だと思います。(20 歳代)
- 私は結婚しなくてもいいと思っていますが、周囲はまだまだそうはいかないのが現状です。結婚しない人が増えているのも現実だと思います。(30 歳代)
- 中年期において退職を機に、特に結婚している男女のあり方や付き合いのバランスが崩れ、さまざまな問題が発生しているのを目のあたりにしています。程度の差こそあれ、どのカップルにも起こり得る中年期の心と体の変化からくる諸問題を、もっともっと周知させたうえで、相談窓口やシェルターの的な施設の充実をしてほしいと願っています。(50 歳代)

【男性】

- 一市民として、今回アンケートに答えさせていただきました。生活が豊かになることで、会社の問題が大きくなっているように思えます。佐賀は全国から見て、小さく少ない人口です。だからこそ連携が取りやすいと思いますので、これからも市の活動に注目していきますので、市民の力が必要なときは、もっと声を大きくして市民に伝えてほしいです。よろしくお願いします。(20 歳代)
- もっと子ども家庭に優しい地域社会になってほしいものです。出費ばかり増えて収入がまったく増えず、きつい家庭が多いので、もっと低所得者にやさしい社会になってほしい。(30 歳代)
- より住みやすい佐賀市になるように官民一体となって頑張りましょう。(40 歳代)
- アバンセでやっている「男の料理教室」良かったです。男の台所に立てから始まり、肉じゃが、ポテトサラダなど、たくさんメニューが増えました。自分のことは自分でできるように若いうちからできればいいけど、仕事第一でしたので、定年してからは、いろいろなことを考えられるようになりました。(60 歳代)
- 家庭の中で話し合うにしても、具体的な事例案や法的な中身を記したものの提示が欲しい。漠然と話し合ってもだめ。(60 歳代)
- 一人ひとりの意識や理解はどうやって結び付けていくかが重要である。その為には常に情報提供をお願いします。(60 歳代)



## IV 調査票



男女共同参画に関する市民意識調査

【 アンケートご協力をお願い 】

日ごろから市政全般にわたり、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。  
佐賀市では、男女共同参画社会（男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会）の実現をめざして取り組みを進めております。  
このたび、男女共同参画に関する日常生活の実態や住民の皆様のご意見をお聞かせいただき、今後の取り組みに向けた基礎資料とするために調査を実施いたします。  
このアンケートは、佐賀市にお住まいの16歳以上の方から無作為に抽出した2,300人の方にお送りしています。  
お答えいただいた内容については、すべて統計的に処理しますので、個人が特定されることはありませんし、他の目的のために使うことはありません。また、お名前を記入していただく必要もございません。なお、結果の概要については、佐賀市ホームページ等にて公表いたします。  
アンケートのご回答には、10分程度の時間を要すると思われませんが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成26年7月

佐賀市長 秀島 敏行

〔ご記入にあたってのお願い〕

1. アンケートは、封筒のあて名の方が本人が記入してください。
2. 回答は、質問ごとに用意した答えの中から、あてはまる番号に○をつけてください。
3. 回答はすべて任意になっております。答えられる質問に、答えられる範囲でお答えいただければ結構です。
4. ご記入が終わりましたら、7月18日（金）までに 同封の返信用封筒に入れて、返送してください。（切手を貼っていただく必要はありません。）
5. アンケートについて、不明な点やご質問がありましたら、お問い合わせください。

【 問い合わせ 】

佐賀市 企画調整部 男女共同参画課 （担当）中島・松尾  
TEL 40-7014 / FAX 29-2095

調査票

あなた自身についておうかがいします

それぞれあてはまる番号に○をつけてください。

Q 1 あなたの性別をお答えください。

- 1 女性      2 男性

Q 2 あなたの年代をお答えください。

- 1 10歳代      2 20歳代      3 30歳代      4 40歳代  
5 50歳代      6 60歳代      7 70歳代

Q 3 あなたは結婚されていますか。

- 1 結婚している（事実婚を含む）      2 結婚したが離別・死別      3 結婚していない

※ 結婚している方にお尋ねします。

Q 4 共働きをしていらっしゃいますか。（パートや内職を含む）

- 1 している      2 していない

Q 5 あなたの家族構成をお答えください。

- 1 ひとり暮らし      2 夫婦のみ      3 親と子ども（二世帯家族）  
4 親と子どもと孫（三世帯家族）      5 その他（具体的に）

結婚や家庭生活についておうかがいします

問 1 あなたは結婚・家庭についてどのように考えますか。次のA～Cについてあなたの考えに近いものを1つ選び、その番号（1～5）に○をつけてください。

|   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 賛 | い | ど | い | ど | 反 | わ |
| 成 | え | え | え | え | か | か |
| 成 | ば | ち | ば | ち | ら | ら |
| 成 | 質 | 質 | 質 | 質 | な | な |
| 成 | 対 | 対 | 対 | 対 | 対 | 対 |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |   |   |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |   |   |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |   |   |

A 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい  
B 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」だと思う  
C 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

問2 家庭での役割分担について、あなたははどう思いますか。

① あなたは次のA～Eについて、誰がその役割を行うべきだと思いますか。あてはまるものを1つ選び、その番号（1～5）に○をつけてください。

|                     | 主に妻（母） | 主に夫（父） | 度父に妻と<br>にが同（母と<br>分し程と | 家族全<br>員 | そ<br>の<br>他 |
|---------------------|--------|--------|-------------------------|----------|-------------|
| A 家計を支える（生活費を稼ぐ）    | 1      | 2      | 3                       | 4        | 5           |
| B 炊事、掃除、洗濯などの家事     | 1      | 2      | 3                       | 4        | 5           |
| C 子育てや介護など家族の世話     | 1      | 2      | 3                       | 4        | 5           |
| D 自治会・町内会などの地域活動    | 1      | 2      | 3                       | 4        | 5           |
| E PTA 活動などの学校行事への参加 | 1      | 2      | 3                       | 4        | 5           |

② あなたの家庭では、次のA～Eについて、実際に誰がその役割を行っていますか。あてはまるものを1つ選び、その番号（1～5）に○をつけてください。

|                     | 主に妻（母） | 主に夫（父） | 度父に妻と<br>にが同（母と<br>分し程と | 家族全<br>員 | そ<br>の<br>他 |
|---------------------|--------|--------|-------------------------|----------|-------------|
| A 家計を支える（生活費を稼ぐ）    | 1      | 2      | 3                       | 4        | 5           |
| B 炊事、掃除、洗濯などの家事     | 1      | 2      | 3                       | 4        | 5           |
| C 子育てや介護など家族の世話     | 1      | 2      | 3                       | 4        | 5           |
| D 自治会・町内会などの地域活動    | 1      | 2      | 3                       | 4        | 5           |
| E PTA 活動などの学校行事への参加 | 1      | 2      | 3                       | 4        | 5           |

問3 あなたは、1日に平均してどれくらいの時間を家事（育児・介護を含む）にかけていますか。次のA・Bについて、それぞれあてはまるものを1つずつ選び、その番号（1～6）に○をつけてください。

|      | 全くして<br>いない | 30分未満 | 30分以上<br>1時間未満 | 1時間以上<br>2時間未満 | 2時間以上<br>3時間未満 | 3時間以上 |
|------|-------------|-------|----------------|----------------|----------------|-------|
| A 平日 | 1           | 2     | 3              | 4              | 5              | 6     |
| B 休日 | 1           | 2     | 3              | 4              | 5              | 6     |

問4 仕事と生活についてお尋ねします。あなたは何を優先したいですか。次の中から選び、その番号に○をつけてください。（○はいくつでもかまいません）  
※「地域・個人の生活」とは、自治会などの地域活動、個人の趣味や自己啓発などをさします。

|   |    |   |      |   |          |
|---|----|---|------|---|----------|
| 1 | 仕事 | 2 | 家庭生活 | 3 | 地域・個人の生活 |
|---|----|---|------|---|----------|

問5 それでは、あなたは現実は何を優先していますか。現実（現状）に近いものを次の中から選び、その番号に○をつけてください。（○はいくつでもかまいません）  
※「地域・個人の生活」とは、自治会などの地域活動、個人の趣味や自己啓発などをいいます。

|   |    |   |      |   |          |
|---|----|---|------|---|----------|
| 1 | 仕事 | 2 | 家庭生活 | 3 | 地域・個人の生活 |
|---|----|---|------|---|----------|

## 教育・子育て・介護についておうかがいします

問6 あなたは、子どもの育て方について、どのような考えをお持ちですか。次のA～Fそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものの番号（1～5）を1つ選び、その番号に○をつけてください。子どものいない方も、あなたがどう思われるかでお答えください。

|                                                       | 賛<br>成 | い<br>え<br>ば<br>ら<br>か<br>い | ど<br>ち<br>ら<br>か<br>に<br>対<br>し | 反<br>対 | わ<br>か<br>ら<br>な<br>い |
|-------------------------------------------------------|--------|----------------------------|---------------------------------|--------|-----------------------|
| A 女の子も男の子も、経済的に自立できるように育てたほうがよい                       | 1      | 2                          | 3                               | 4      | 5                     |
| B 女の子も男の子も、炊事、掃除、洗濯など、生活していくために必要な技術を身につけるように育てたほうがよい | 1      | 2                          | 3                               | 4      | 5                     |
| C 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよい                       | 1      | 2                          | 3                               | 4      | 5                     |
| D 女の子も男の子も、生まれ持った個性・才能を可能な限り活かして育てたほうがよい              | 1      | 2                          | 3                               | 4      | 5                     |
| E 女の子も男の子も同じ程度の学歴を持たせたほうがよい                           | 1      | 2                          | 3                               | 4      | 5                     |
| F 女の子、男の子に限らず、好きな仕事を選ばせたほうがよい                         | 1      | 2                          | 3                               | 4      | 5                     |

問7 わが国では近年少子化傾向にありますが、その理由は何だと思いますか。あなたの考えに近いものを次の中から3つ以内で選び、その番号に○をつけてください。

|   |                                    |
|---|------------------------------------|
| 1 | 子育てのための経済的な負担が大きいか                 |
| 2 | 子育てを支援するためのサービス（保育所・児童クラブ等）が不十分だから |
| 3 | 配偶者の育児に対する協力が少ないから                 |
| 4 | 生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから     |
| 5 | 雇用の不安など、将来のくらしに希望が持てないから           |
| 6 | その他（具体的に）                          |

問 8 あなたは、男女の望ましい協力関係をつくっていくために、学校教育の場でどのようなことを入れたほうがよいと思いますか。次の中から3つ以内で選び、その番号に○をつけてください。

- 1

男女平等の意識を育てる授業をする
- 2

生活面の指導や進路指導において、男女を区別せずに、子どもの興味（関心）や能力を尊重する
- 3

教師自身の男女平等についての意識を高めるような研修を行う
- 4

校長や教頭に女性を増やしていく
- 5

性教育を推進する
- 6

その他（具体的に）

問 9 あなたは、男性が育児休業や介護休業をとることにについてどう思いますか。あなたの考えに近いものを次の中から3つ以内で選び、その番号に○をつけてください。

- 1

家族として当然である
- 2

自分自身の成長のためにも、とることが望ましい
- 3

職場環境を考えるところににくい
- 4

収入が減ったり、無くなると困るのとれない
- 5

育児や介護は女性が適していると思うので、男性がとる必要はない
- 6

その他（具体的に）

問 10 最近、介護をするために転職、離職する人が増加していますが、何が原因だと思いますか。次の中から3つ以内で選び、その番号に○をつけてください。

※平成24年 就業構造基本調査結果によると、過去5年で48万7千人が介護離職しており、近年「介護と仕事の両立」が大きな課題になっています。

- 1

職場の上司や同僚に介護に対する理解がない
- 2

職場において介護休業などの制度が整備されていない
- 3

共働き家庭や単身者が増加しているため、家庭内に介護に専念する人がいない
- 4

介護サービスや施設などが整備されていない
- 5

介護と仕事を両立するための支援制度や相談窓口等の情報が得にくい
- 6

その他（具体的に）

職業生活についておうかがします

問 11 あなたは、「女性が職業に就くこと」について、どう思われますか。あなたの考えに近いものを次の中から1つ選び、その番号に○をつけてください。

- 1

女性は職業に就かずに、家事に専念するほうがよい
- 2

結婚や妊娠・出産するまでは、職業に就いているほうがよい
- 3

出産・育児期間は一時退職し、子どもが成長したら再び職業に就くほうがよい
- 4

結婚や出産・育児にかかわらず、ずっと仕事を続けるほうがよい
- 5

その他（具体的に）

問 12 あなたは、女性が仕事を續けていくうえで、障害になっていることは何だと思えますか。あなたの考えに近いものを次の中から選び、その番号に○をつけてください。（○はいくつでもかまいません）

- 1

結婚や妊娠・出産すると、仕事が続けにくい雰囲気や職場にある
- 2

昇進、昇格に男女格差がある
- 3

家事・育児・介護への家族の協力が不十分である
- 4

家事・育児・介護のための社会システムや施設等が不十分である
- 5

その他（具体的に）
- 6

特に障害はない

問 13 現在、女性が結婚や出産によって仕事をやめる場合がありますが、女性が再び仕事に就くために、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを次の中から選び、その番号に○をつけてください。（○はいくつでもかまいません）

- 1

雇用の場を増やす
- 2

再就職のための講座や技術訓練等を充実させる
- 3

社会全体で「男は仕事・女は家庭」といった固定的な性別役割分担意識をなくす
- 4

家族のための休暇がとりやすい職場を増やす
- 5

家族や夫の理解・協力を得る
- 6

保育施設や子育て支援サービス、高齢者介護の施設やサービスを充実させる
- 7

その他（具体的に）

問 14 あなたは現在職業に就いていますか。次のどちらかの番号に○をつけてください。

- 1

就いている（自営業・パート・内職を含む）
- 2

就いていない

問 15 職業に就いている主な理由を次の中から選び、その番号に○をつけてください。（○はいくつでもかまいません）

- 1

生計を維持するため
- 2

生きがいを得るため
- 3

自分の能力・技能・資格を活かすため
- 4

社会に貢献するため
- 5

その他
- 具体的に

問 17へお進みください（次ページ）

問 16 職業に就いていない主な理由を次の中から選び、その番号に○をつけてください。（○はいくつでもかまいません）

- 1

働きたいが仕事がないから
- 2

経済的に働く必要がないから
- 3

家事も立派な職業だから
- 4

育児や介護等のため
- 5

現在、学校に通っているから
- 6

定年退職したため
- 7

病気やけがなどのため、働ける状態ではないから
- 8

その他
- 具体的に

問 20へお進みください（次ページ）

※ 問 14 で「1（職業）に就いている」と答えた方にお尋ねします。

問 17 ① あなたは平均すると1週間に何時間働いていますか。2つ以上の仕事に就いている方はその合計でお答えください。ただし、仕事の休息時間は除きます。

② また、日数では週に何日働いていますか。(仮に、1日1～2時間でも働いていれば、1日と数えてお答えください。)下の枠の中に、それぞれ数字を記入してください。

①  時間/週 ②  日/週

問 18 あなたは、今どのような形で働いていますか。次の中から1つ選び、その番号に○をつけてください。

|   |                                |
|---|--------------------------------|
| 1 | 事業主                            |
| 2 | 正規社員                           |
| 3 | 非正規社員 (嘱託、契約社員、パートタイム、アルバイトなど) |
| 4 | 家族従事者 (家業のお店や農林漁業などに従事)        |
| 5 | その他 (具体的に )                    |

※ 問 18 で「4 家族従事者」と答えた方にお尋ねします。

問 19 家業に従事されていて、労働に見合う分の対価 (給料) を受け取られていますか。次の中から1つ選び、その番号に○をつけてください。

|   |          |   |                     |
|---|----------|---|---------------------|
| 1 | 受け取っている  | 2 | 受け取っているが労働に見合う分ではない |
| 3 | 受け取っていない | 4 | わからない               |

※ 問 14 で「2（職業）に就いていない」と答えた方にお尋ねします。

問 20 あなたは今後、職業に就きたいと思いますか。次の中から1つ選び、その番号に○をつけてください。

|   |                |   |             |
|---|----------------|---|-------------|
| 1 | 現在、職業を探している    | 3 | 職業に就くつもりはない |
| 2 | 将来は職業に就くつもりである |   |             |



問 23 へお進みください (次ページ)

※ 問 20 で「1 現在、職業を探している」「2 将来は職業に就くつもりである」と答えた方にお尋ねします。

問 21 あなたが働く場合には、どのような点を重視して仕事を選びますか。次の中から選び、その番号に○をつけてください。(○はいくつでもかまいません)

|   |                             |
|---|-----------------------------|
| 1 | 能力や技術、資格が発揮できる              |
| 2 | 収入がよい                       |
| 3 | 会社の経営と雇用上の身分が安定していて、長く勤められる |
| 4 | 家庭生活と両立できる                  |
| 5 | その他 (具体的に )                 |

問 22 もし、あなたが働くとしたら、どのような形で働きたいと思いますか。次の中から1つ選び、その番号に○をつけてください。

|   |                                |
|---|--------------------------------|
| 1 | 事業主                            |
| 2 | 正規社員                           |
| 3 | 非正規社員 (嘱託、契約社員、パートタイム、アルバイトなど) |
| 4 | 家族従事者 (家業のお店や農林漁業などに従事)        |
| 5 | その他 (具体的に )                    |

## 健康・福祉についておうかがいします

問 23 あなたは次のようなことをどう思いますか。次の①・②それぞれについて、あなたの考えに最も近いものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

① 妊娠や出産、性感染症など女性の健康と権利について、学校、職場、地域、家庭などで配慮する必要があると思いますか。

|   |                   |   |                   |
|---|-------------------|---|-------------------|
| 1 | 配慮する必要がある         | 2 | どちらかといえば配慮する必要がある |
| 3 | どちらかといえば配慮する必要はない | 4 | 配慮する必要はない         |
| 5 | わからない             |   |                   |

② 妊娠や出産、性感染症など女性の健康と権利について、男女が理解し合うためには、どのようなことが大切だと思いますか。

|   |                   |   |                      |
|---|-------------------|---|----------------------|
| 1 | 配偶者やパートナー間の話し合い   | 2 | 学校における女性の健康と権利に関する教育 |
| 3 | 性や健康についての相談窓口     | 4 | パンフレットなどによる情報提供      |
| 5 | 講座の開催などによる学習機会の提供 |   |                      |
| 6 | その他 (具体的に )       |   |                      |

問 24 あなたが「寝たきり」や「認知症」などにより、もしも在宅で介護を受けるようになった場合、誰に介護してもらいたいですか。次の中から1つ選び、その番号に○をつけてください。

|   |             |   |             |   |   |   |      |
|---|-------------|---|-------------|---|---|---|------|
| 1 | 配偶者         | 2 | 息子          | 3 | 娘 | 4 | 息子の妻 |
| 5 | 娘の夫         | 6 | ヘルパーなど介護専門職 |   |   |   |      |
| 7 | その他 (具体的に ) |   |             |   |   |   |      |

地域活動についておうかがいします

問 2 5 あなたが自治会などの地域活動をする場合に、障害になるようなことがありますか。特に障害になると思われるものを次の中から3つ以内で選び、その番号に○をつけてください。

|   |                |   |                |          |
|---|----------------|---|----------------|----------|
| 1 | 仕事に忙しい         | 2 | 家事が手いっぱい       | 自由時間が少ない |
| 3 | 精神的にゆとりがない     | 4 | 健康的・体力的に自信がない  |          |
| 5 | 家族の理解や協力が得られない | 6 | 人づきあいがわずらわしい   |          |
| 7 | どんな活動があるかわからない | 8 | 地域活動にメリットを感じない |          |
| 9 | その他（具体的に）      |   |                |          |

問 2 6 防災・災害復興時において、男女共同参画に根ざした対応をとるためには何が必要だと  
思いますか。次の中から2つ選び、その番号に○をつけてください。  
※東日本大震災時には、避難所でプライバシーが守られなかったり、共同作業の内容に  
男女で偏りが見られたりするなど、さまざまな問題が発生しました。

|   |                                        |
|---|----------------------------------------|
| 1 | 自治会等の地域の役員を男性も女性も積極的に担う                |
| 2 | 普段の地域活動において、性別だけで役割を決定しない              |
| 3 | 避難時に必要な知識や防災機材の取り扱い方等の研修会に男女ともに参加する    |
| 4 | 防災計画等の計画策定の段階から、男女双方の意見が反映できるような体制を整える |
| 5 | その他（具体的に）                              |

人権についておうかがいします

問 2 7 あなたは新聞・雑誌・テレビなどメディアにおける性や暴力の表現についてどう思いますか。  
次の中からあなたの考えに近いものを2つ選び、その番号に○をつけてください。

|   |                                      |
|---|--------------------------------------|
| 1 | そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないようにする配慮が足りない |
| 2 | 性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ           |
| 3 | 女性や子どもに対する犯罪を助長する恐れがある               |
| 4 | 女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている        |
| 5 | その他（具体的に）                            |
| 6 | 特に問題はない                              |

問 2 8 最近、夫婦や恋人同士などの親しい間で、身体的・心理的な暴力を受けること（ドメスティック・バイオレンス＝DV）が問題となっていますが、あなたは、この5年以内に次にあげるようなことをしたり、されたりしたことがありますか。次のA～Gについてあてはまるものを1つずつ選び、その番号（1～4）に○をつけてください。

|                                       | されたこと<br>がある | し<br>たこと<br>がある | ど<br>ち<br>ら<br>も<br>あ<br>る | ど<br>ち<br>ら<br>も<br>な<br>い |
|---------------------------------------|--------------|-----------------|----------------------------|----------------------------|
| A 殴る、蹴る、物を投げる、物を壊す                    | 1            | 2               | 3                          | 4                          |
| B 怒鳴る、無視する、脅す                         | 1            | 2               | 3                          | 4                          |
| C 生活費を渡さない、高価な買い物勝手にする、<br>ギャンブルに投入込む | 1            | 2               | 3                          | 4                          |
| D セックスを強要する、避妊に協力しない                  | 1            | 2               | 3                          | 4                          |
| E メール・携帯電話をチェックする                     | 1            | 2               | 3                          | 4                          |
| F 職業に就くことを許さない                        | 1            | 2               | 3                          | 4                          |
| G その他（具体的に）                           | 1            | 2               | 3                          | 4                          |

※ 問 2 8 で1つでも「1 されたことがある」と答えた方にお尋ねします。  
該当しない方は問 3 1へお進みください。

問 2 9 あなたはどのような行為を受けたとき、どうしましたか。次の中で、あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでもかまいません）

|    |                      |    |                |
|----|----------------------|----|----------------|
| 1  | 我慢した                 | 2  | 謝ったり、なだめたりした   |
| 3  | 家族・親族に相談した           | 4  | 友人に相談した        |
| 5  | 婦人相談所や市役所などの相談窓口相談した | 6  | 医師やカウンセラーに相談した |
| 7  | 民間の支援グループに相談した       | 8  | 警察へ通報した        |
| 9  | 逃げた                  | 10 | 別居した           |
| 11 | 離婚した                 | 12 | 相談しようとは思わなかった  |
| 13 | その他（具体的に）            |    |                |

※ 問29で「1 我慢した」や「12 相談しようとは思わなかった」と答えた方にお尋ねします。  
該当しない方は問31へお進みください。

問30 それはなぜですか。次の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。  
(○はいくつでもかまいません)

|   |                                     |  |
|---|-------------------------------------|--|
| 1 | どこ（誰）に相談してよいかわからなかったから              |  |
| 2 | 恥ずかしくて誰にも言えなかったから                   |  |
| 3 | 相談しても無駄だと思ったから                      |  |
| 4 | 相談したことがわからず、仕返しをされたり暴力がさらにひどくなかったから |  |
| 5 | 自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから       |  |
| 6 | 世間体が悪いから                            |  |
| 7 | 自分にも悪いところがあると思ったから                  |  |
| 8 | 相談するほどのことではないと思ったから                 |  |
| 9 | その他（具体的に）                           |  |

問31 次のような行為はセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）ですが、あなたは、この5年以内に職場・学校・地域でしたり、されたりしたことがありますか。  
次のA～Jについて、あてはまる番号（1～4）すべてに○をつけてください。

|                                                       | さ<br>れ<br>た<br>こ<br>と<br>が<br>あ<br>る | し<br>た<br>こ<br>と<br>が<br>あ<br>る | し<br>た<br>こ<br>と<br>が<br>あ<br>る | 見<br>た<br>こ<br>と<br>が<br>あ<br>る | ま<br>っ<br>た<br>く<br>な<br>い |
|-------------------------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|----------------------------|
| A 「男のくせに根性がない」「女には仕事を任せられない」<br>「女性は職場の花だ」など差別的な言葉を言う | 1                                    | 2                               | 3                               | 4                               | 4                          |
| B 「結婚はまだ？」「子どもはまだ？」としつこく言う                            | 1                                    | 2                               | 3                               | 4                               | 4                          |
| C 性的な冗談や質問、ひやかしの言葉を言う                                 | 1                                    | 2                               | 3                               | 4                               | 4                          |
| D 異性関係が派手ななど、性的な噂（うわさ）を流す                             | 1                                    | 2                               | 3                               | 4                               | 4                          |
| E 異性の同僚をじろる眺めたり、容姿を話題にしたりする                           | 1                                    | 2                               | 3                               | 4                               | 4                          |
| F スード写真やわいせつな本を飾ったり見せびらかしたりする                         | 1                                    | 2                               | 3                               | 4                               | 4                          |
| G 接待や宴会で、酔やデューツ、ダンスを強要する                              | 1                                    | 2                               | 3                               | 4                               | 4                          |
| H しつこくつきまとう                                           | 1                                    | 2                               | 3                               | 4                               | 4                          |
| I さわる、抱きつく                                            | 1                                    | 2                               | 3                               | 4                               | 4                          |
| J 地位や権限を利用して、性的関係を迫る                                  | 1                                    | 2                               | 3                               | 4                               | 4                          |

※ 問31で1つでも「1 されたことがある」と答えた方にお尋ねします。  
該当しない方は問33へお進みください。

問32 そのことについて、誰かに打ち明けたら、相談したりしましたか。次の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。  
(○はいくつでもかまいません)

|   |                           |  |
|---|---------------------------|--|
| 1 | 上司・同僚に相談した                |  |
| 2 | 職場内の相談窓口相談した              |  |
| 3 | 公的機関（労働局・県・市の相談窓口など）に相談した |  |
| 4 | 民間の支援グループに相談した            |  |
| 5 | 家族・友人・知人に相談した             |  |
| 6 | その他（具体的に）                 |  |
| 7 | 誰（どこ）にも相談しなかった            |  |

問33 あなたは、女性に対する暴力（性犯罪、売買春、パートナーからの暴力、セクシュアル・ハラスメントなど）をなくすためには、どうしたらよいと思いますか。次の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。  
(○はいくつでもかまいません)

|   |                              |  |
|---|------------------------------|--|
| 1 | 法律・制度の制定や見直しを行う              |  |
| 2 | 法律に盛り込まれた施策を十分に展開する          |  |
| 3 | 加害者を更生させる制度を整える              |  |
| 4 | 被害女性が安心して相談できる窓口を確保する        |  |
| 5 | 被害女性を保護するための施設を整備する          |  |
| 6 | 家庭や学校における男女平等や性についての教育を充実させる |  |
| 7 | 職場における男女平等意識を徹底させる           |  |
| 8 | その他（具体的に）                    |  |

## 男女平等・男女共同参画社会についておうかがいします

問34 あなたはこれまでに、男女平等や男女共同参画について話し合ったり学習したりしたことがありますか。次の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。  
(○はいくつでもかまいません)

|   |                              |  |
|---|------------------------------|--|
| 1 | 友人との間で話し合ったことがある             |  |
| 2 | 夫婦や親子など家族の間で話し合ったことがある       |  |
| 3 | 佐賀市主催の研修会や公民館の講座などに参加したことがある |  |
| 4 | 個人で学習したことがある                 |  |
| 5 | その他（具体的に）                    |  |
| 6 | ない                           |  |

問35 あなたは、男女共同参画に関する次の用語などを聞いたことがありますか。次のA～Eについて、あてはまる番号（1～3）にそれぞれ1つOをつけてください。

|           |   |   |   |
|-----------|---|---|---|
| 知 内 容 ま で | 1 | 2 | 3 |
| つて い る    | 1 | 2 | 3 |
| 知 内 容 ま で | 1 | 2 | 3 |
| つて い る    | 1 | 2 | 3 |
| 知 内 容 ま で | 1 | 2 | 3 |
| つて い る    | 1 | 2 | 3 |
| 知 内 容 ま で | 1 | 2 | 3 |
| つて い る    | 1 | 2 | 3 |

問36 あなたは現在、次のA～Eの分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの考えに近いものを1つ選び、その番号（1～6）に○をつけてください。

|              | 男性が優れている | どちらかという男優遇されている | 男女平等になっている | どちらかという女優遇されている | 女性が優れている | わからない |
|--------------|----------|-----------------|------------|-----------------|----------|-------|
| A 家庭生活で      | 1        | 2               | 3          | 4               | 5        | 6     |
| B 職場で        | 1        | 2               | 3          | 4               | 5        | 6     |
| C 学校教育の場で    | 1        | 2               | 3          | 4               | 5        | 6     |
| D 地域や社会活動の場で | 1        | 2               | 3          | 4               | 5        | 6     |
| E 就職・採用の際に   | 1        | 2               | 3          | 4               | 5        | 6     |

D 地域や社会活動の場で

## E 就職・採用の際に

- 12 -

ご自由にお書きください

男女共同参画について、ご意見・ご要望がありましたら、どのようなことでも結構です。具体的にお書きください。

[illegible]

〜ご多用なところ、調査にご協力いただきありがとうございます。ございました〜

同封の返信用封筒にこのアンケート票をお入れいただき、ポストに投函してください。

切手は貼らなくて結構です。

佐賀市企画調整部男女共同参画課

一人ひとりの個性を大切に

本当にしたいことは何ですか  
心から感じるものは何ですか

大人も子どももお年寄りも若者も

自分らしく生きることのできる社会であるために  
「男だから…」 「女だから…」 と思うのを

「女性の方」  
やめてみませんか

4.14パートナーデー  
Partner day

佐賀市では女性も男性もよきパートナーとしてやさしく認め合い、イキイキと暮らすことのできる社会をめざしています。

そこで、2月14日のバレンタインデー、3月14日のホワイトデーにちなんで、4月14日を“パートナーデー”とし、お互いを大切に思いやり、家族や友人・職場の同僚など、あなたの大切な人に感謝の気持ちを伝える日としています。

入った。そして、そのカードを同封していますので、日ごろ言えない「感謝の心」を、カードに綴って贈ってみて。メッセージカードを同封していますので、日ごろ言えない「感謝の心」を、カードに綴って贈ってみて。はい、いかがですか。

- 13 -



---

---

平成 26 年度 男女共同参画に関する市民意識調査 報告書

平成 27 年 3 月

|        |                            |
|--------|----------------------------|
| 編集・発行  | 佐賀市 企画調整部 男女共同参画課          |
|        | 〒840－8501 佐賀市栄町1番1号        |
| 電話番号   | 0952－40－7014(直通)           |
| ファックス  | 0952－29－2095               |
| E－mail | danjokyodo@city.saga.lg.jp |

---

---